

M7CL V3 Editor

Version 3.5

取扱説明書

□ ご注意

- ・ このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ 市販の音楽データは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ このPDF形式の取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、最終仕様と異なる場合がありますのでご了承ください。
- ・ アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、下記 URL をご参照ください。
<http://proaudio.yamaha.co.jp/>
- ・ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Mac または Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ・ MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- ・ その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

ヤマハプロオーディオホームページ

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

目次

基本操作とセットアップ	2	Group/Link ウィンドウ	66
Master ウィンドウ	12	Scene ウィンドウ	70
Overview ウィンドウ	15	User Defined Keys Setup ウィンドウ	77
Selected Channel ウィンドウ	28	Sends On Fader ウィンドウ	78
Library ウィンドウ	48	Output Port ウィンドウ	79
Patch Editor ウィンドウ	51	ショートカット	81
Rack ウィンドウ	55	索引	82
Meter ウィンドウ	64		

* 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

メニュー/ ボタン名の表記について

Windows と Mac でメニューやボタンの名称が異なる場合、この取扱説明書では Windows での名称 (Mac での名称) という形で表記します。

基本操作とセットアップ

M7CL V3 Editor とは？

M7CL V3 Editor(以降、M7CL Editor)は、M7CL Version3 本体(M7CL-48ES、M7CL-48、M7CL-32。以降、M7CL)をリモートコントロールしたり、パラメーター設定をコンピュータに保存したりできます。Studio Manager から起動して使用します。M7CL Editor を使用するためには以下の操作が必要です。

「Studio Manager の起動と設定」→「M7CL Editor の起動と設定」→「M7CL 本体との同期 (→ P.11)」

NOTE Studio Manager の操作については、Studio Manager 取扱説明書をご参照ください。

M7CL Editor の設定

以下の内容は開いているすべてのエディターで個別に設定する必要があります。

- NOTE**
- ・以下の設定の前に、あらかじめ DME-N Network Driver (Windows) または Network-MIDI Driver (Mac) の設定を行なって Studio Manager の Setup ダイアログボックスで MIDI ポートを選択しておいてください。
 - ・エディターを開くには、Studio Manager ウィンドウで各エディターに対応するアイコンをダブルクリックしてください。

□ システムのセットアップ

System Setup ダイアログボックスを開くには、[File] メニューから [System Setup] を選択します。

NOTE Input port と Output port は必ず設定してください。

① Input port/Output port

あらかじめ Studio Manager で設定したポートの中から、本体と通信するポートを選択します。

② Model Select

M7CL のモデルに関する設定を行ないます。

M7CL-32/M7CL-48/M7CL-48ES

M7CL のモデルを選択します。M7CL 本体と同期すると、自動的に M7CL 本体と同じモデルが選択され、他のモデルは選択できないようになります。

Stage Box Data Conversion

M7CL-48 のスロット経由で SB168-ES を使うシステムで保存したデータを M7CL-48ES のシステムで使いたい場合などに、HA の設定や入力のパッチを適切に変換します。[Conversion...] ボタンをクリックすると、変換のための Stage Box Data Conversion ダイアログボックスが表示されます。(→ P.7)

③ Channel Select / Sends On Fader

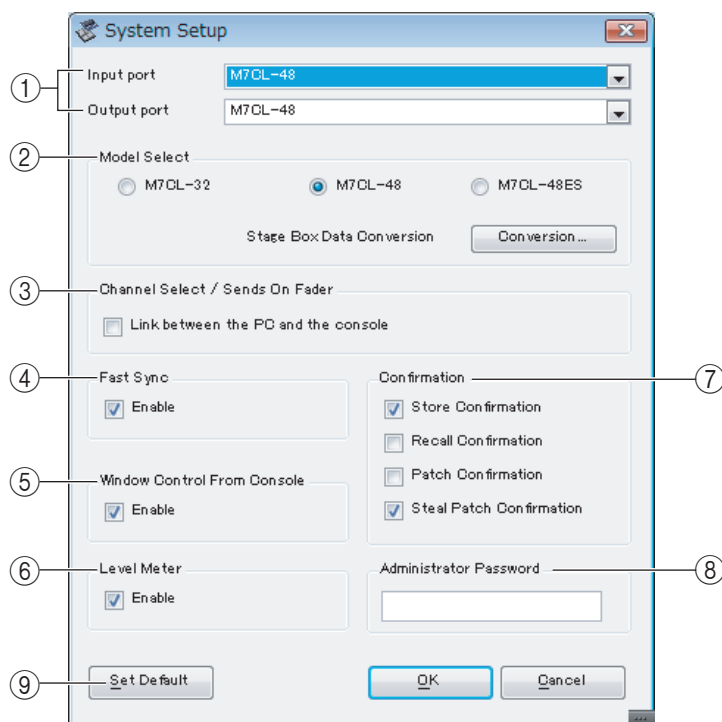
M7CL 本体と同期しているときに、次の 3 点に関して M7CL 本体と M7CL Editor が連動するかどうかを選択します。

- ・チャンネル選択
- ・通常モードと SENDS ON FADER モードの切り替え
- ・SENDS ON FADER モード時の、MIX/MATRIX の切り替え

チェックが外れていると連動せず、M7CL 本体と M7CL Editor がそれぞれで動作します。

④ Fast Sync

同期を高速化して同期にかかる時間を短縮できます。チェックを入れると、この機能が有効になります。



⑤ Window Control From Console

M7CL Editor のウィンドウのオープン / クローズを本体の USER DEFINED KEYS でリモートコントロールできます。この操作を有効にするかどうかを設定します。

⑥ Level Meter

レベルメーターの機能を無効にすると描画や通信の負荷を軽減できます。レベルメーター機能を有効にするかどうかを設定します。

⑦ Confirmation

ストア時 (Store Confirmation)、リコール時 (Recall Confirmation)、パッチ時 (Patch Confirmation)、既に設定されているパッチを変更するようなパッチ時 (Steal Patch Confirmation) に確認のダイアログボックスを表示させるかどうかを設定します。

⑧ Administrator Password

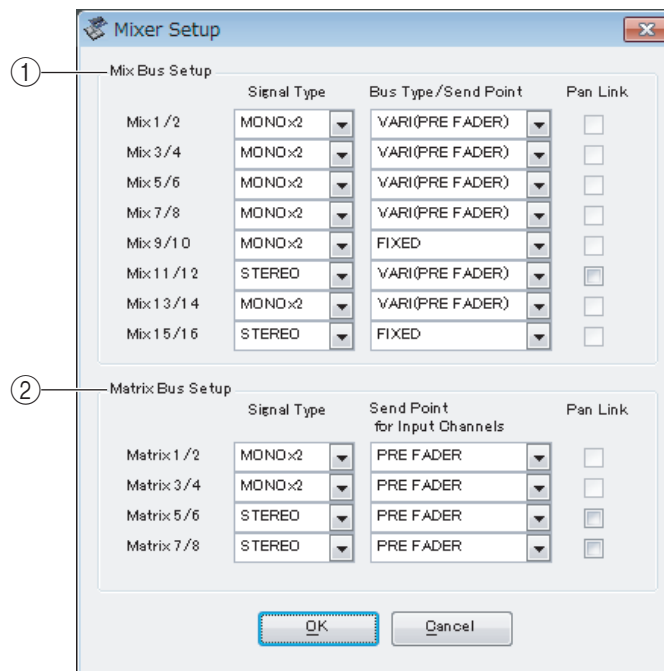
M7CL 本体に設定されている Administrator のパスワードを入力します。このパスワードが正しく入力されないと、M7CL Editor から M7CL 本体への同期ができません。

⑨ Set Default

System Setup ダイアログボックスの現在の設定を初期値とします。次回以降、ボタンが押されたときの設定で M7CL Editor が起動します。

□ コンソールのセットアップ

Mixer Setup ダイアログボックスを開くには、[File] メニューから [Mixer Setup] を選択します。



① Mix Bus Setup

MIX バスに関する設定を行ないます。

Signal Type: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MIX バスごとに、MONOx2 か STEREO を選択します。

Bus Type/Send Point: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MIX バスごとに、VARI(PRE FADER) か VARI(PRE EQ) または FIXED を選択します。

Pan Link: ステレオの MIX バスに送る PAN の設定が STEREO バスへの PAN に連動します。Signal Type が STEREO で BUS TYPE が VARI のときのみ有効です。

② Matrix Bus Setup

MATRIX バスに関する設定を行ないます。

Signal Type: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MATRIX バスごとに、MONOx2 か STEREO を選択します。

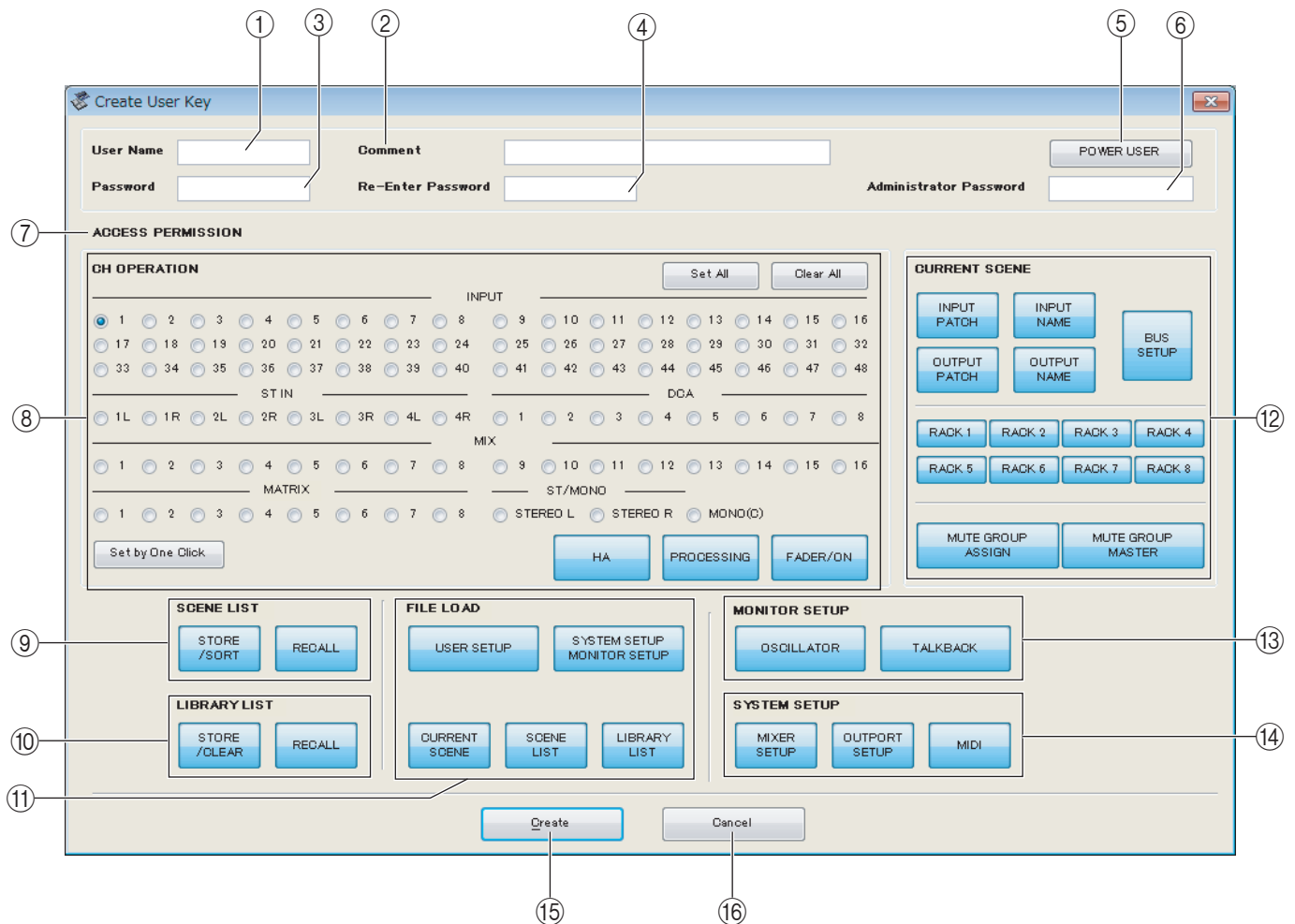
Send Point for Input Channels: 奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つの MATRIX バスごとに、PRE FADER か PRE EQ を選択します。

Pan Link: ステレオの MATRIX バスに送る PAN の設定が STEREO バスへの PAN に連動します。Signal Type が STEREO で BUS TYPE が VARI のときのみ有効です。

■ ユーザーキーの作成

Create User Key ダイアログボックスを開くには、[File] メニューから [Create User Key] を選択します。

M7CL 本体でユーザーごとに操作できるパラメーターを設定するのに使用する、ユーザーキー(拡張子は“.M7U”)を作成します。作成したユーザーキーは USB 記憶装置を使って M7CL 本体で読み込みます。



① User Name

ユーザー名を設定します。半角英数字を 8 文字まで入力できます。半角英小文字は M7CL でロードすると半角英大文字になります。

② Comment

ユーザーごとのコメントを設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

③ Password

M7CL 本体で読み込むときに使用するパスワードを設定します。半角英数字で 8 文字まで入力できます。大文字小文字を区別します。

④ Re-Enter Password

誤入力防止のためにパスワードを再度設定します。

⑤ POWER USER

このユーザーがパワーユーザーかどうかを設定します。パワーユーザーは、M7CL 本体でユーザーレベルを設定したユーザー認証キーを作成したり編集したりできます。

⑥ Administrator Password

M7CL 本体で設定されている Administrator のパスワードを入力します。M7CL 本体で Administrator のパスワードが設定されていない場合には必要ありません。このパスワードが異なっていると読み込み時にパスワード入力を要求されます。

⑦ ACCESS PERMISSION

ユーザーごとに操作できるパラメーターを設定します。

⑧ CH OPERATION

INPUT, ST IN, DCA, MIX, MATRIX, ST/MONO: パラメーターを設定するチャンネルを選択します。

HA: 選択したチャンネルのヘッドアンプゲインとファンタム電源の操作権限を設定します。

PROCESSING: 選択したチャンネルの信号処理全般のパラメーター(フェーダーと [ON] キーを除く) の操作権限を設定します。各チャンネルの PROCESSING の対象パラメーターは M7CL 取扱説明書の巻末資料をご参照ください。

FADER/ON: 選択したチャンネルのパン / バランス、フェーダー、チャンネルオン、センドオン / オフ、センドレベルの操作権限を設定します。

Set All: 全チャンネルの HA, PROCESSING, FADER/ON をオンにします。

Clear All: 全チャンネルの HA, PROCESSING, FADER/ON をオフにします。

Set by One Click: このボタンがオンになっていると、チャンネル選択ボタンを押すたびに、HA, PROCESSING, FADER/ON をすべてオンもしくは、すべて OFF に設定できます。

⑨ SCENE LIST

STORE/SORT: シーンのスストアやソートを行なう権限を設定します。

RECALL: シーンリコールを行なう権限を設定します。

⑩ LIBRARY LIST

STORE/CLEAR: ライブラリーのスストアやクリアを行なう権限を設定します。

RECALL: ライブラリーのリコールを行なう権限を設定します。

⑪ FILE LOAD

USER SETUP: ファイルロード時にユーザー定義キーやプリファレンスを読み込む権限を設定します。

SYSTEM SETUP MONITOR SETUP: ファイルロード時にシステムセットアップやモニターセットアップを読み込む権限を設定します。

CURRENT SCENE: ファイルロード時にカレントシーンを読み込む権限を設定します。

SCENE LIST: ファイルロード時にシーンリストを読み込む権限を設定します。

LIBRARY LIST: ファイルロード時にライブラリーリストを読み込む権限を設定します。

⑫ CURRENT SCENE

INPUT PATCH: インпутパッチの操作権限を設定します。

INPUT NAME: インпут系チャンネル名の設定権限を設定します。

OUTPUT PATCH: アウトプットパッチの操作権限を設定します。

OUTPUT NAME: アウトプット系チャンネル名の設定権限を設定します。

BUS SETUP: バスの操作権限を設定します。

RACK 1-8: ラックの操作権限を設定します。

MUTE GROUP ASSIGN: ミュートグループの設定権限を設定します。

MUTE GROUP MASTER: ミュートグループ有効 / 無効の操作権限を設定します。

⑬ MONITOR SETUP

OSCILLATOR: オシレーターの設定権限を設定します。

TALKBACK: トークバックの設定権限を設定します。

⑭ SYSTEM SETUP

MIXER SETUP: ミキサーセットアップの設定権限を設定します。

OUTPORT SETUP: アウトポートセットアップの設定権限を設定します。

MIDI: MIDI の設定権限を設定します。

⑮ Create

ユーザーキーを作成します。

⑯ Cancel

ダイアログボックスを閉じます。

セッションの操作

M7CL Editor では、シーン / ライブラリーデータなどを含む本体のすべてのミックス設定をセッションと呼びます。
セッションの操作方法は次のとおりです。

新規セッションを作成する	「File」メニュー→「New Session」
保存されているセッションを開く	「File」メニュー→「Open Session」
開いているセッションを保存する	「File」メニュー→「Save Session」
開いているセッションを新しい名前で保存する	「File」メニュー→「Save Session As...」

エディターのウィンドウでセッションを保存すると、そのエディターの設定だけがファイルに保存されます。M7CL Editor で保存したセッションファイルの拡張子は“.YSE”になります。また、M7CL 本体のデータのみを保存したファイル（拡張子は“.M7C”）も扱えるので、USB 記憶装置を使って M7CL 本体とデータのやり取りができます。

Studio Manager でセッションを保存すると、選択されているすべてのエディターの設定が 1 つのファイルに保存されます（このファイルの拡張子は“.YSM”になります）。

NOTE M7CL V3 Editor 以外の M7CL Editor または M7CL V3 以外の M7CL 本体で保存した拡張子“.M7C”および“.YSE”のファイルは、M7CL V3 Editor でも開くことができます。ただし、M7CL V3 Editor で保存したこれらのファイルは、M7CL V3 Editor および M7CL V3 本体以外では開くことはできません。

NOTE M7CL-32/48 で保存されたセッションを M7CL-48ES で開く、または M7CL-48ES で保存されたセッションを M7CL-32/48 で開くと、以下のようにパッチの変更と HA の設定の引き継ぎがされます。

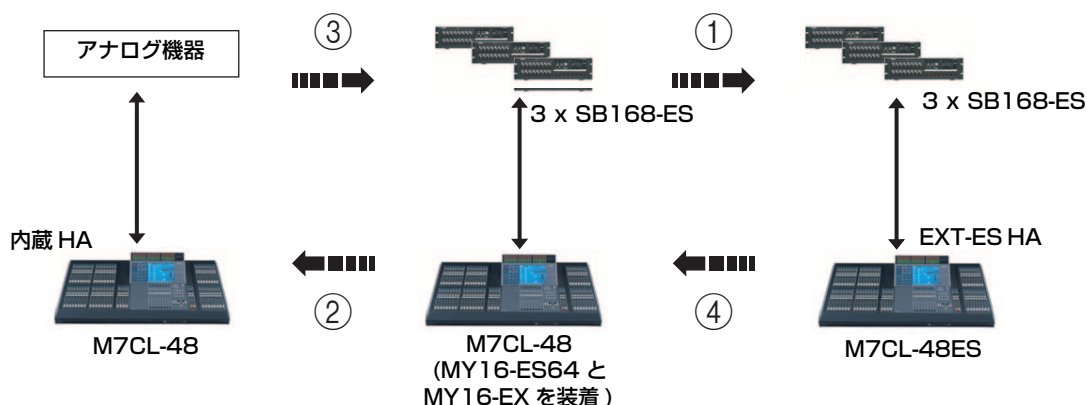
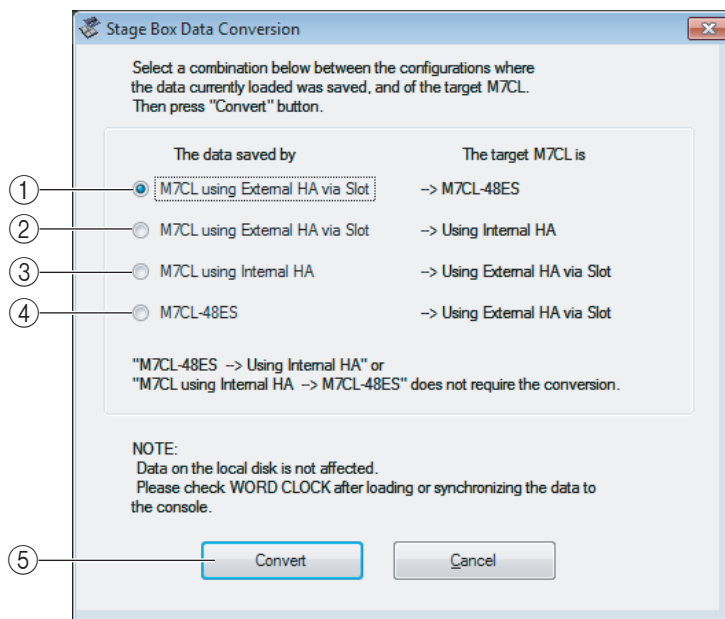
M7CL-32/48		M7CL-48ES
INPUT 1-16	↔(*)	ES IN 1-16
INPUT 17-32	↔(*)	ES IN 17-32
INPUT 33-48	↔(*)	ES IN 33-48
ST IN 1L-4R	↔(*)	OMNI IN 1-8
SLOT1 IN 1-16	↔(*)	SLOT1 IN 1-16
SLOT2 IN 1-16	↔(*)	SLOT2 IN 1-16
SLOT3 IN 1-16	↔(*)	SLOT3 IN 1-16
TALKBACK	↔	TALKBACK
OMNI OUT 1-16	↔	ES OUT 1-16
アサインなし	↔	ES OUT 17-24
アサインなし	↔	OMNI OUT 1-8
SLOT1 OUT 1-16	↔	SLOT1 OUT 1-16
SLOT2 OUT 1-16	↔	SLOT2 OUT 1-16
SLOT3 OUT 1-16	↔	SLOT3 OUT 1-16
2TR DIGITAL OUT	↔	2TR DIGITAL OUT

(*) HA の設定が引き継がれます

Stage Box Data Conversion

Stage Box Data Conversion ダイアログボックスを開くには、System Setup ダイアログボックスで [Stage Box Data Conversion] ボタンをクリックします。

このダイアログボックスを使って、M7CL-48 のスロット経由で SB168-ES を使うシステムで保存したデータを M7CL-48ES のシステムで使いたい場合などに、HA の設定や入力のパッチを適切に変換します。



① M7CL using External HA via Slot → M7CL-48ES

以下のようにパッチを変更します。

INPUT 1-16	→ (*)	SLOT1 IN 1-16
INPUT 17-32	→ (*)	SLOT2 IN 1-16
INPUT 33-48	→ (*)	SLOT3 IN 1-16
ST IN 1L-4R	→ (*)	OMNI IN 1-8
SLOT1 IN 1-16	→ (*)	ES IN 1-16
SLOT2 IN 1-16	→ (*)	ES IN 17-32
SLOT3 IN 1-16	→ (*)	ES IN 33-48
TALKBACK	→	TALKBACK
OMNI OUT 1-16	→	SLOT1 OUT 1-16
SLOT1 OUT 1-16	→	ES OUT 1-16

SLOT2 OUT	1-8	→	ES OUT 17-24
	9-16	→	OMNI OUT 1-8
アサインなし		→	SLOT2 OUT 1-16
SLOT3 OUT 1-16		→	SLOT3 OUT 1-16
2TR DIGITAL OUT		→	2TR DIGITAL OUT

(*) HA の設定が引き継がれます

② M7CL using External HA via Slot → Using Internal HA

以下のようにパッチを変更します。

SLOT1 IN 1-16	→ (*)	INPUT 1-16
SLOT2 IN 1-16	→ (*)	INPUT 17-32
SLOT3 IN 1-16	→ (*)	INPUT 33-48
ST IN 1L-4R	→ (*)	ST IN 1L-4R
INPUT 1-16	→ (*)	SLOT1 IN 1-16
INPUT 17-32	→ (*)	SLOT2 IN 1-16
INPUT 33-48	→ (*)	SLOT3 IN 1-16
TALKBACK	→	TALKBACK
SLOT1 OUT 1-16	→	OMNI OUT 1-16
OMNI OUT 1-16	→	SLOT1 OUT 1-16
SLOT2 OUT 1-16	→	SLOT2 OUT 1-16
SLOT3 OUT 1-16	→	SLOT3 OUT 1-16
2TR DIGITAL OUT	→	2TR DIGITAL OUT

(*) HA の設定が引き継がれます

③ M7CL using Internal HA → Using External HA via Slot

以下のようにパッチを変更します。

INPUT 1-16	→ (*)	SLOT1 IN 1-16
INPUT 17-32	→ (*)	SLOT2 IN 1-16
INPUT 33-48	→ (*)	SLOT3 IN 1-16
ST IN 1L-4R	→ (*)	ST IN 1L-4R
SLOT1 IN 1-16	→ (*)	INPUT 1-16
SLOT2 IN 1-16	→ (*)	INPUT 17-32
SLOT3 IN 1-16	→ (*)	INPUT 33-48
TALKBACK	→	TALKBACK
OMNI OUT 1-16	→	SLOT1 OUT 1-16
SLOT1 OUT 1-16	→	OMNI OUT 1-16
SLOT2 OUT 1-16	→	SLOT2 OUT 1-16
SLOT3 OUT 1-16	→	SLOT3 OUT 1-16
2TR DIGITAL OUT	→	2TR DIGITAL OUT

(*) HA の設定が引き継がれます

④ M7CL-48ES → Using External HA via Slot

以下のようにパッチを変更します。

SLOT1 IN 1-16	→ (＊)	INPUT 1-16	
SLOT2 IN 1-16	→ (＊)	INPUT 17-32	
SLOT3 IN 1-16	→ (＊)	INPUT 33-48	
OMNI IN 1-8	→ (＊)	ST IN 1L-4R	
ES IN 1-16	→ (＊)	SLOT1 IN 1-16	
ES IN 17-32	→ (＊)	SLOT2 IN 1-16	
ES IN 33-48	→ (＊)	SLOT3 IN 1-16	
TALKBACK	→	TALKBACK	
SLOT1 OUT 1-16	→	OMNI OUT 1-16	
ES OUT 1-16	→	SLOT1 OUT 1-16	
ES OUT 17-24	→	SLOT2 OUT	1-8
OMNI OUT 1-8	→		9-16
SLOT2 OUT 1-16	→	アサインなし	
SLOT3 OUT 1-16	→	SLOT3 OUT 1-16	
2TR DIGITAL OUT	→	2TR DIGITAL OUT	

(*) HA の設定が引き継がれます

⑤ [Convert] ボタン

① ～ ④ で選択したパターンでセッションの変換をします。

Undo/Redo 機能

直前(ひとつ前)の操作を取り消すことを Undo、直前の Undo を取り消すことを Redo と呼びます。Undo を 2 回続ければ 2 つ前までの操作を、3 回続ければ 3 つ前までの操作を、というように操作をさかのぼって取り消すことができます。

Undo/Redo 機能の操作方法は次のとおりです。

Undo	「Edit」メニュー → 「Undo」
Redo	「Edit」メニュー → 「Redo」

ただし、以下の操作を行なった場合、それ以前の操作は Undo/Redo できなくなるか、矛盾が生じるために正しく Undo/Redo されなくなります。

- ・ 本体での操作
- ・ Studio Manager の終了
- ・ 本体との同期
- ・ セッションの操作

NOTE 以下の操作は Undo/Redo の操作対象外です。これらの操作は取り消せません。

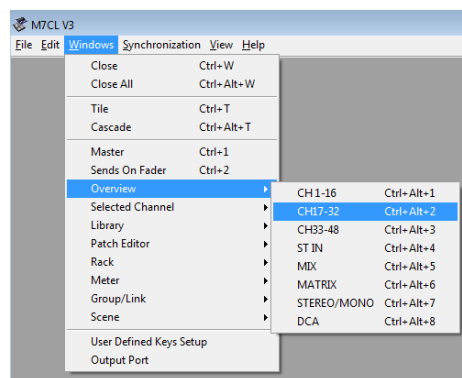
- ・ Setup 項目の変更
- ・ Synchronization
- ・ ウィンドウ のオープン / クローズ
- ・ ウィンドウ のサイズや位置の変更
- ・ Stage Box Data Conversion

この他にも機能によっては取り消せない操作があります。

NOTE Library と Scene の操作では、1 つ前の操作だけが Undo/Redo の対象になります。2 つ以上前の操作は取り消せません。これらのウィンドウの Undo/Redo は、それぞれのウィンドウ内の [UNDO] ボタンでのみ可能です。Master ウィンドウ からシーンリコールを行なった場合でも、ショートカットやメニュー操作では取り消せません。

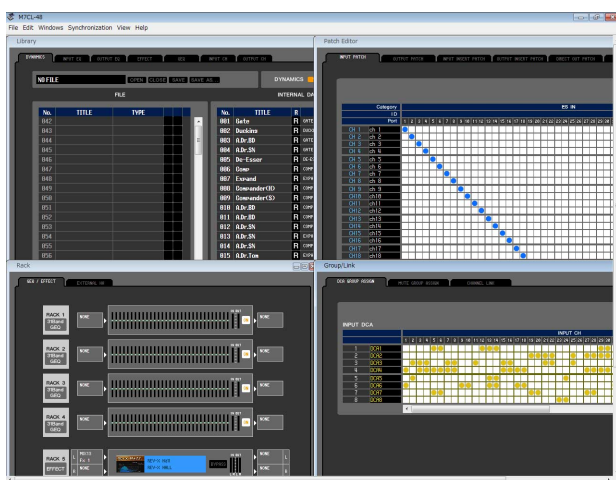
ウィンドウの操作

各ウィンドウは、[Windows] メニューから選択して開きます。
INPUT CH ウィンドウや Effect Editor ウィンドウでは、表示するチャンネルやライブラリーをサブメニューから選択して開きます。

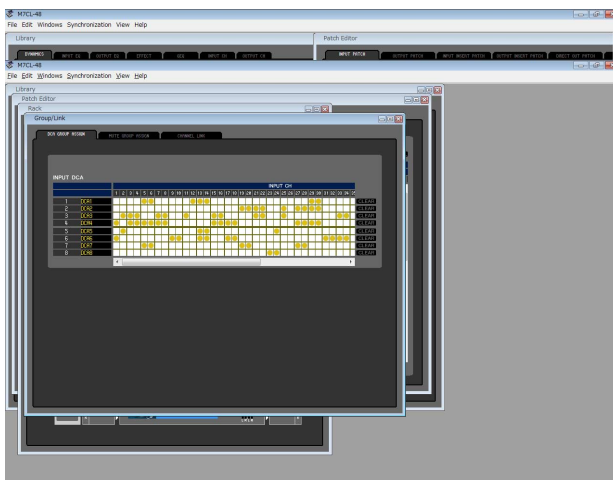


Tile や Cascade を選択するとエディター内のウィンドウを整列できます。

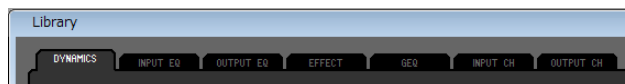
● Tile



● Cascade



Library ウィンドウや Scene ウィンドウなどでは、ウィンドウ上部のタブをクリックして、操作対象になるページを切り替えます。

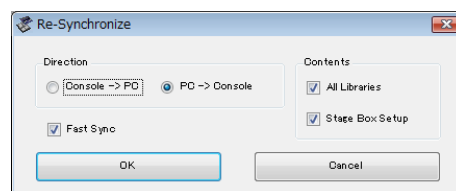


M7CL 本体との同期

M7CL Editor を初めて起動した時点では、本体と M7CL Editor でパラメーターの設定が異なります。このため、最初に本体と M7CL Editor の設定を合わせる必要があります。これを本体との同期と呼びます。この操作は以下の手順で行ないます。

1. [Synchronize] メニュー→[Re-synchronize] を選択します。

右の画面が表示されます。



2. 本体と M7CL Editor のどちらの状態に合わせるか選択します。

[All Libs] のチェックボックスにチェックを入れると、ライブラリーデータも同期します。

PC -> Console: M7CL Editor のパラメーター設定を本体にコピーします。

M7CL-48ES のときは [Stage Box Setup] チェックボックスが表示されます。M7CL-48ES 本体の Stage Box Setup の設定を保持する場合はチェックを外してください。

Console -> PC: 本体のパラメーター設定を M7CL Editor にコピーします。

3. [OK] をクリックします。



同期中は本体を操作しないでください。

NOTE

Studio Manager で同期をとると、Studio Manager で選択されているすべてのエディターとその本体の間で同期がとれます。

Offline Edit 機能

本体と M7CL Editor を連動させたくない場合は、[Synchronization] メニュー→[Offline Edit] を選択します。Offline Edit で編集した内容を本体に反映させたいときは、[Synchronization] メニュー→[Re-Synchronize] を選択して、「PC->Console」で同期をとります。

Master ウィンドウの [ONLINE]/[OFFLINE] ボタンでも、Offline Edit を選択できます。

NOTE

本体のエフェクトパラメーターには、サンプリング周波数によって表示値が変わるものがあります。M7CL Editor を OFFLINE から ONLINE にした場合、M7CL Editor は本体のサンプリング周波数を読み込んで表示を更新するため、エフェクトパラメーターの表示値が変わることがあります。

その他の機能

□ Ctrl(⌘)+ クリック

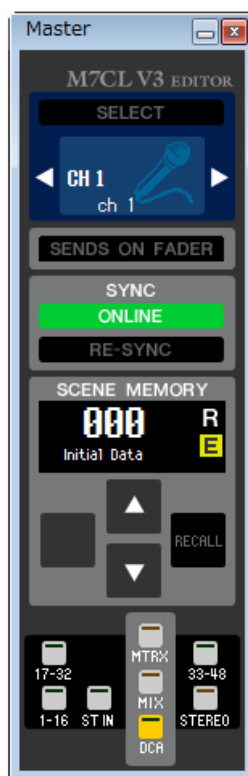
操作子や設定値にマウスカーソルを合わせ、<Ctrl> キー(<⌘> キー)を押したままクリックすると、プリセット値(パンは「Center」など)に戻せます。

ただし、各チャンネルのフェーダーやセンドのノブ及びバーグラフは、初期値に関係なく $-\infty$ に設定できます。

□ Ctrl(⌘)+Shift+ クリック

各チャンネルのフェーダーやセンドのノブ及びバーグラフにマウスカーソルを合わせ、<Ctrl> キー(<⌘> キー)と <Shift> キーを押したままクリックすると、初期値に関係なくノミナル値に設定できます。

Master ウィンドウ



Master ウィンドウでは、M7CL 本体との同期やシーンのリコール、Overview ウィンドウの表示などが行なえます。このウィンドウを開くには、[Windows] メニューから [Master] を選択します。

□ CHANNEL SELECT

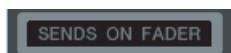


操作の対象となるチャンネルの番号と名称を表示します。チャンネルを切り替えるには [SELECT] ボタンをクリックして表示されるリストの中から選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。チャンネル名のテキストボックス内で、名称を変更することもできます。

System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックが入っている場合、M7CL 本体のパネル上にある [SEL] キーと連動します。

また、アイコンを右クリック (<control> キー + クリック) してアイコンを変更できます。

□ SENDS ON FADER

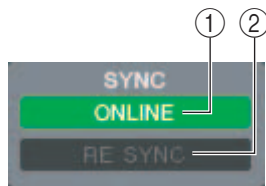


通常モードまたは SENDS ON FADER モードを表示します。クリックするとモードが切り替わります。通常モードから SENDS ON FADER モードに切り替えると、Sends on Fader ウィンドウが表示されます。(→ P.78)

System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックが入っている場合、M7CL 本体の SEND ON FADER モードの切り替えが連動します。

■ SYNC

M7CL Editor と M7CL 本体との接続状態の表示と同期を行ないます。



① [ONLINE]/[OFFLINE] ボタン

このボタンをクリックするたびに ONLINE/OFFLINE の状態が切り替わります。

[Synchronization] メニュー→ [Offline Edit] と同じ働きをします。(→ P.11)



M7CL Editor と M7CL 本体が正しく接続されていると、このインジケーターが表示されます。この状態のとき、M7CL Editor と M7CL 本体のパラメーターが連動します。



M7CL Editor と M7CL 本体が接続されていない場合、接続に問題がある場合、または Offline Edit が選択されている場合にこのインジケーターが表示されます。この状態のときは M7CL Editor と M7CL 本体のパラメーターは連動しません。

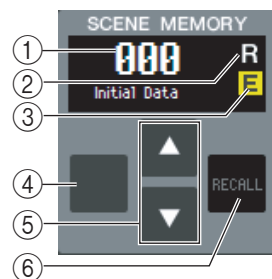
② [RE-SYNC] ボタン

このボタンをクリックすると Synchronization ダイアログが開きます。

[Synchronization] メニュー→ [Re-Synchronize] と同じ働きをします。(→ P.11)

■ SCENE MEMORY

現在リコールされているシーンの表示およびリコール、ストアを行ないます。



① シーンナンバーディスプレイ

ストア / リコールの対象として選ばれているシーン番号を表示します。

② プロテクトインジケーター

プロテクトのかかったシーンは、この欄にカギのアイコンが表示され、上書き保存やタイトルの変更ができません。また、読み込み専用のシーンは、この欄に“R”と表示されます。

③ エディットインジケーター

シーンをリコールした後でパラメーターを変更すると、エディットインジケーターが点灯します。

④ [STORE] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号にカレントシーンをストアするボタンです。

⑤ [▲]/[▼] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号を増減させるボタンです。実際にストア / リコールを行なうまではシーンナンバーディスプレイ (①) は点滅表示し、この間は M7CL 上の表示と一致しません。

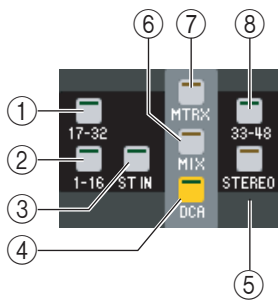
⑥ [RECALL] ボタン

シーンナンバーディスプレイ (①) に表示されている番号のシーンをリコールするボタンです。

Navigation Keys

Overview の各ウィンドウを開きます。

NOTE M7CL 本体のパネル上のナビゲーションキーセクションとは連動しません。



① [17-32] ボタン

INPUT CH 17 ~ 32 ウィンドウを開きます。

② [1-16] ボタン

INPUT CH 1 ~ 16 ウィンドウを開きます。

③ [ST IN] ボタン

ST IN ウィンドウを開きます。

④ [DCA] ボタン

DCA ウィンドウを開きます。

⑤ [STEREO] ボタン

STERE/MONO ウィンドウを開きます。

⑥ [MIX] ボタン

MIX ウィンドウを開きます。

⑦ [MTRX] ボタン

MATRIX ウィンドウを開きます。

⑧ [33-48] ボタン

INPUT CH 33 ~ 48 ウィンドウを開きます。オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ有効です。

Overview ウィンドウ

INPUT CH ウィンドウ



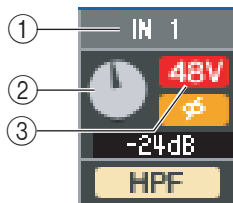
INPUT CH 1 ~ 16, 17 ~ 32, 33 ~ 48(*) のミックスパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリック (<control> キー + クリック) で表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “CH1-16” / “CH17-32” / “CH33-48”(*) を選択する
 - Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [1-16] ボタン / [17-32] ボタン / [33-48] ボタン(*) をオンにする
 - M7CL本体で USER DEFINED KEYS に [M7CL EDITOR CONTROL] の [INPUT CH] で [1-16] / [17-32] / [33-48] (*) を割り当てて実行する
- (*) INPUT CH 33-48は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

① INPUT PATCH

クリックして INPUT CH に割り当てる入力ソースを次の中から選択します。



NONE	割り当てなし
IN 1 ~ IN48(*)	INPUT 端子 1 ~ 48(*)
STIN1L ~ STIN4R	ST IN 端子 1 ~ 4 の L/R チャンネル
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ~ 3 に装着された I/O カードの入力チャンネル
RACK1A, RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ~ 8 の L/R 出力

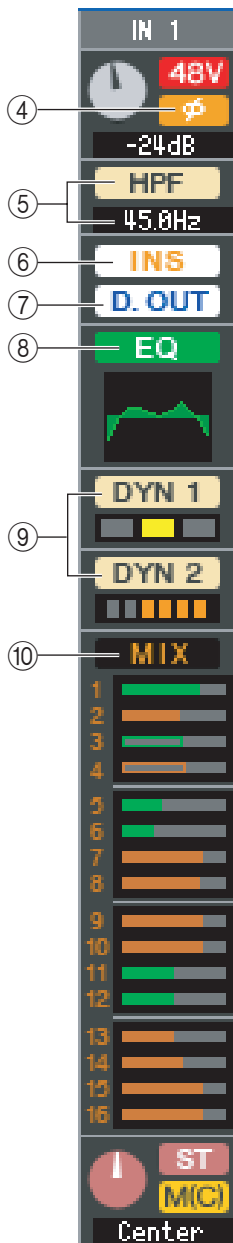
(*) AD33 ~ 48(INPUT 端子 33-48) は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

② HA GAIN

画面上的のノブをドラッグして、内蔵ヘッドアンプまたは INPUT CH にパッチされた外部ヘッドアンプ (ヤマハ AD8HR や SB168-ES など) のゲインを調節します。

③ 48V

内蔵ヘッドアンプまたは INPUT CH にパッチされた外部ヘッドアンプ (ヤマハ AD8HR や SB168-ES など) のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。



④ φ(フェイズ)

AD 変換後の信号の位相を反転させます。

⑤ HPF(ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。数値部分を上下にドラッグすれば、カットオフ周波数を変更できます。

⑥ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。

⑦ D.OUT(ダイレクトアウト)

ダイレクト出力の有効 / 無効を切り替えます。

⑧ EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます。ボタンのすぐ下にあるグラフに、EQ の大まかな特性が表示されます。グラフ上をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。また、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらグラフをダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑨ DYN1/DYN2(ダイナミクス 1/ダイナミクス 2)

2 系統のダイナミクスプロセッサのオン / オフを切り替えます。

ゲート (ダイナミクス 1 のみ) が割り当ててある場合は、ボタンのすぐ下にゲートの状態を表示します。

ゲート状態表示				
オン / オフ状態	オン	オン	オン	オフ
開閉状態	クローズ	オープン	オープン	—
備考	ゲインリダクション量が 30dB 以上	ゲインリダクション量が 0 ~ 30dB	ゲインリダクション量が 0dB	—

ゲート以外が割り当ててある場合は、ボタンのすぐ下に GR メーターを表示し、オンの間ゲインリダクション量を表示します。

それぞれのダイナミクスプロセッサのタイプ選択は、Selected Channel ウィンドウで行ないます。DYN1 または DYN2 のボタン以外をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。また、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながら DYN1 または DYN2 のボタン以外をダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑩ MIX/MATRIX SEND

MIX バス 1 ~ 16 へのセンド表示と、MATRIX バス 1 ~ 8 へのセンド表示を切り替えます。

ボタンのすぐ下にあるバーグラフに、INPUT CH から VARI タイプの MIX/MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示します。バーグラフを左右にドラッグして、センドレベルを設定することもできます。バーグラフをドラッグしている間は、PAN/TO STEREO MONO ⑪ の数値表示部にセンドレベルが表示されます。

バーグラフを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 (-∞ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。INPUT CH から MIX/MATRIX バスに送られる信号の送出位置 (プリ / ポスト) やオン / オフ状態に応じて、バーグラフの表示が変化します。

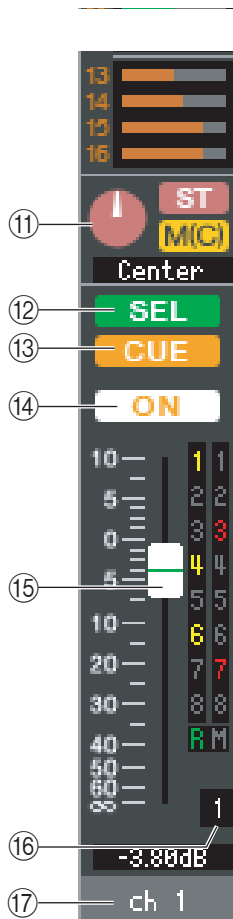
センドのオン / オフは、バーグラフの左にあるチャンネル番号のクリックで切り替えます。



- ・ プリ / オン (緑)
- ・ プリ / オフ (緑)
- ・ ポスト / オン (黄)
- ・ ポスト / オフ (黄)

NOTE FIXED タイプの MIX バスでは、バーグラフがノミナルレベル (0dB) の位置に固定されて、オン / オフ状態だけを表示します。

NOTE SENDS ON FADER モードの場合、フェーダーの操作でセンドレベルを調整できます。



⑪ PAN/TO STEREO MONO

PAN ノブで INPUT CH から STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。

[ST] ボタンで INPUT CH から STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

[M(C)] ボタンで INPUT CH から MONO バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。Selected Channel ウィンドウで LCR MODE に設定されていると、[ST] ボタンと [M(C)] ボタンの代わりに [LCR] ボタンが表示され、[LCR] ボタンで INPUT CH から LCR バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

⑫ SEL (セレクト)

操作の対象となる INPUT CH を選びます。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [SEL] キーと連動しています。

NOTE System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックがはずれている場合は、M7CL 本体と連動しません。

⑬ CUE

INPUT CH の信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [CUE] キーと連動しています。

NOTE System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックがはずれている場合は、M7CL 本体と連動しません。

⑭ ON

INPUT CH またはセンドのオン / オフを切り替えます。通常モードのときは M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの CH [ON] キーと連動しています。

ボタンの色は以下の状態を示します。

白: INPUT CH がオン (通常モード)

黒: INPUT CH / センドがオフ

上記以外: センドがオン (SENDS ON FADER モード)

⑮ フェーダー

INPUT CH の入力レベルまたはセンドレベルを調節します。通常モードのときは M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。

フェーダーの色は以下の状態を示します。

白: INPUT CH の入力レベルが調節可能 (通常モード)

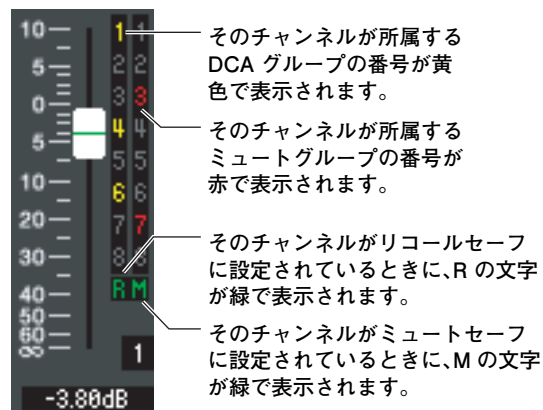
灰色: INPUT CH がオフ

上記以外: センドレベルが調節可能 (SENDS ON FADER モード)

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 ($-\infty$ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属する DCA グループ / ミュートグループ、およびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます。



⑩ チャンネル番号

INPUT CH の番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑪ チャンネル名

チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

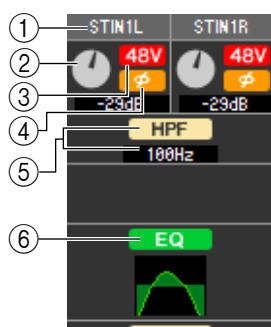
ST IN ウィンドウ (M7CL-38/M7CL-48 のみ)



ST IN チャンネル 1 ～ 4 のミックスパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリック (<control> キー + クリック) で表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “ST IN” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [ST IN] ボタンをオンにする



① INPUT PATCH

ST IN チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します。選択可能な入力ソースは、INPUT CH と共通です (→ P.15)。

② HA GAIN

画面上のノブをドラッグして、内蔵ヘッドアンプまたは ST IN チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (ヤマハ AD8HR や SB168-ES など) のゲインを調節します。

③ 48V

内蔵ヘッドアンプまたは ST IN チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (ヤマハ AD8HR や SB168-ES など) のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

④ φ (フェイズ)

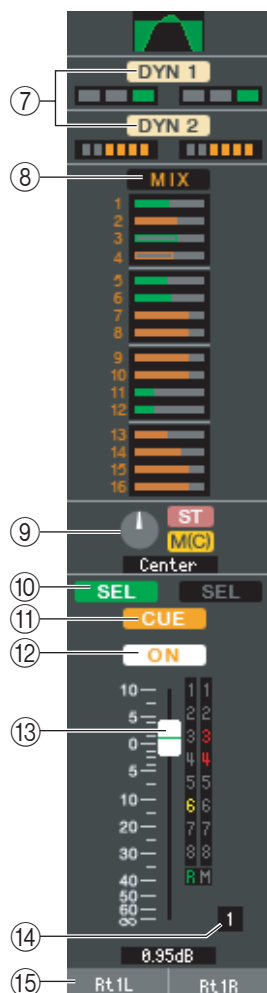
AD 変換後の信号の位相を反転させます。

⑤ HPF (ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。数値部分を上下にドラッグすれば、カットオフ周波数を調節できます。

⑥ EQ (イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。INPUT CH のイコライザー (→ P.16) と共通です。



⑦ DYN1/DYN2(ダイナミクス 1/ ダイナミクス 2)

2 系統のダイナミクスプロセッサのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 1/ ダイナミクス 2(→ P.16) と共通です。

⑧ MIX/MATRIX SEND

MIX バス 1 ～ 16 へのセンド表示と、MATRIX バス 1 ～ 8 へのセンド表示を切り替えます。INPUT CH のミックス / マトリクスセンド(→ P.16) と共通です。

⑨ BALANCE

BALANCE ノブで ST IN チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号のバランスを調節します。BALANCE ノブ以外は INPUT CH の PAN/TO STEREO MONO(→ P.17) と共通です。

⑩ SEL(セレクト)

操作の対象となる ST IN チャンネルを選びます (L/R を個別に選択できます)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの [SEL] キーと連動しています。

NOTE System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックがはずれている場合は、M7CL 本体と連動しません。

⑪ CUE

ST IN チャンネルの信号をキューモニターするボタンです (L/R が連動します)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの [CUE] キーと連動しています。

NOTE System Setup ダイアログボックスの Channel Select / Sends On Fader でチェックがはずれている場合は、M7CL 本体と連動しません。

⑫ ON

ST IN チャンネルのオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。M7CL 本体のパネル上にある ST IN セクションの CH [ON] キーと連動しています。

ボタンの色は以下の状態を示します。

- 白: ST IN チャンネルがオン (通常モード)
- 黒: ST IN チャンネル / センドがオフ
- 上記以外: センドがオン (SENDS ON FADER モード)

⑬ フェーダー

ST IN チャンネルの入力レベルを調節します。M7CL 本体が SENDS ON FADER モードのとき以外は、M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。フェーダーの色は以下の状態を示します。

- 白: ST IN チャンネルの入力レベルが調節可能 (通常モード)
- 灰色: ST IN チャンネルがオフ
- 上記以外: センドレベルが調節可能 (SENDS ON FADER モード)

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。INPUT CH のフェーダー(→ P.17) と共通です。

⑭ チャンネル番号

ST IN チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑮ チャンネル名

チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

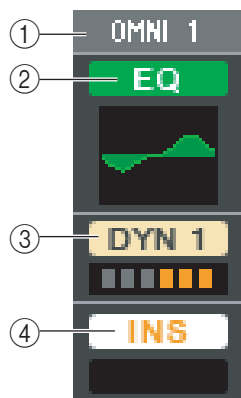
MIX ウィンドウ



MIX チャンネル 1 ～ 16 のパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリック (<control> キー + クリック) で表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “MIX” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [MIX] ボタンをオンにする



① OUTPUT PATCH

クリックして MIX チャンネルに割り当てる出力ポートを次の中から選択します。

ES 1 ～ ES24(M7CL-48ES)	EtherSound 出力チャンネル 1 ～ 24
OMNI1 ～ OMNI8	OMNI OUT 端子 1 ～ 8
OMNI9 ～ OMNI16(M7CL-32/48)	OMNI OUT 端子 9 ～ 16
SLOT1-1、 SLOT1-2...SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル
RACK1A、RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 出力
2TROUT L、2TROUT R	2TR OUT DIGITAL 端子の L/R チャンネル

複数パッチされている場合は、先頭のポートのみが表示されます。

このウィンドウでパッチを変更した場合は、それまでに割り当てられていたポートはキャンセルされ、新しく選択されたポートのみが割り当てられます。

② EQ(イコライザー)

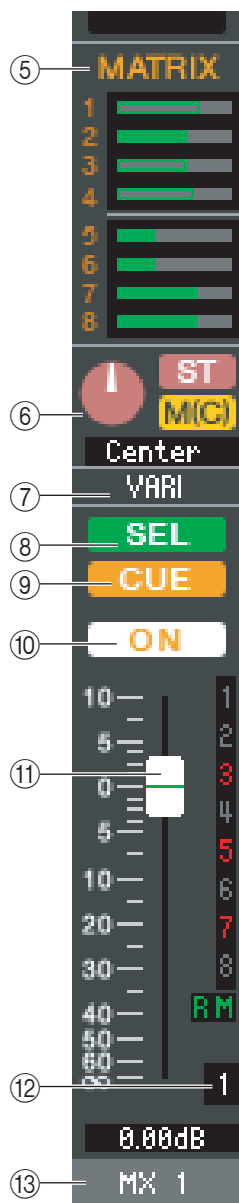
EQ のオン / オフを切り替えます。INPUT CH のイコライザー (→ P.16) と共通です。

③ DYN1(ダイナミクス 1)

ダイナミクスプロセッサのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2 (→ P.16) と共通です。

④ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。



⑤ MATRIX SEND

MIX チャンネルから MATRIX バス 1 ～ 8 に送られる信号のセンドレベルをバーグラフで表示します。バーグラフを左右にドラッグして、センドレベルを設定することもできます。バーグラフをドラッグしている間は、TO STEREO/MONO の数値表示部にセンドレベルが表示されます。

バーグラフを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号の送出位置 (プリ / ポスト) やオン / オフ状態に応じて、バーグラフの表示が変化します。

センドのオン / オフは、バーグラフの左にあるチャンネル番号のクリックで切り替えます。

- ・ プリ / オン (緑)
- ・ プリ / オフ (緑)
- ・ ポスト / オン (黄)
- ・ ポスト / オフ (黄)

⑥ PAN/BALANCE

PAN ノブで MIX チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネル (または L/C/R の各チャンネル) に送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。ステレオバスとして設定されている場合は、奇数チャンネルと偶数チャンネルのバランスを調節します。ステレオバスの設定は、Mixer Setup ダイアログボックスの Mix Bus Setup で行ないます。

[ST] ボタンで MIX チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

[MONO] ボタンで MIX チャンネルから MONO バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

Selected Channel ウィンドウで LCR MODE に設定されていると、[ST] ボタンと [MONO] ボタンの代わりに [LCR] ボタンが表示され、[LCR] ボタンで MIX チャンネルから LCR バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

⑦ VARI/FIXED

現在選ばれている MIX バスのタイプ (VARI/FIXED) を表示します。このパラメーターの切り替えは、Mixer Setup ダイアログボックスの Mix Bus Setup で行ないます。

⑧ SEL (セレクト)

操作の対象となる MIX チャンネルを選びます。

⑨ CUE

MIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

⑩ ON

MIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

ボタンの色は以下の状態を示します。

- 白: MIX チャンネルがオン (通常モード)
- 黒: MIX チャンネル / センドがオフ
- 上記以外: センドがオン (SENDS ON FADER モード)

⑪ フェーダー

MIX チャンネルの出力レベルを調節します。現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます。

フェーダーの色は以下の状態を示します。

- 白: MIX チャンネルの入力レベルが調節可能 (通常モード)
- 灰色: MIX チャンネルがオフ
- 上記以外: センドレベルが調節可能 (SENDS ON FADER モード)



そのチャンネルが所属するミュートグループの番号が赤で表示されます。

そのチャンネルがリコールセーフに設定されているときに、R の文字が緑で表示されます。

そのチャンネルがミュートセーフに設定されているときに、M の文字が緑で表示されます。

⑫ チャンネル番号

MIX チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

⑬ チャンネル名

チャンネル名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内でチャンネル名を変更することもできます。

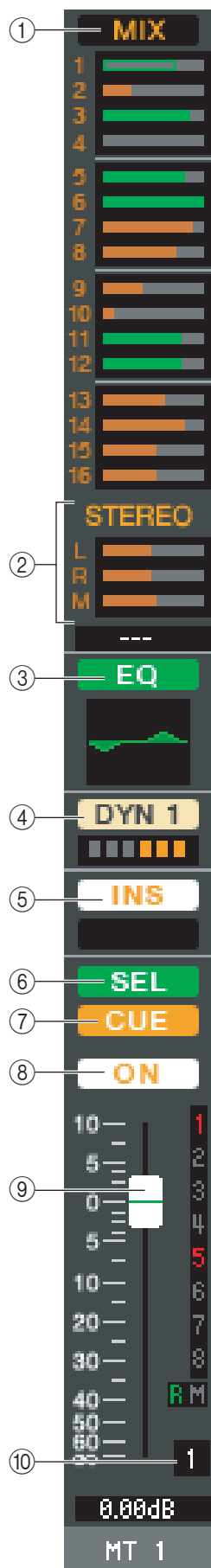
MATRIX ウィンドウ



MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリック (<control> キー + クリック) で表示されるメニューで選択できます。

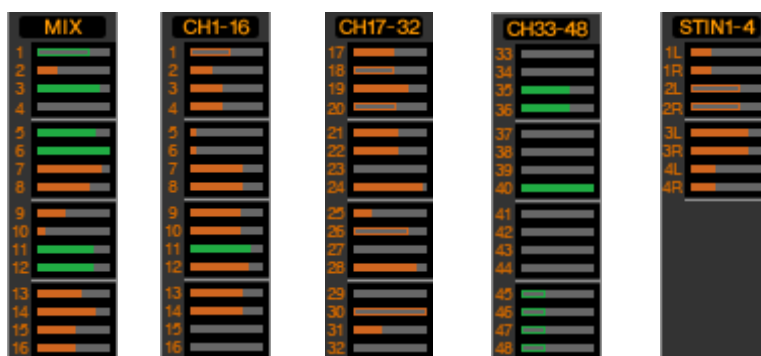
このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “MATRIX” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [MTRX] ボタンをオンにする



① MIX/CH/ST IN(ミックス/INPUT CH/ST INからMATRIX バスへのセンドレベル)

MIX 1 ~ 16 チャンネルからのセンド表示、INPUT CH 1 ~ 16/17 ~ 32/33 ~ 48 からのセンド表示 (*), ST IN からのセンド表示を切り替えます。



ボタンのすぐ下にあるバーグラフに、それぞれのチャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの ⑤MATRIX と共通です (→ P.22)。

(*) INPUT CH 33-48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

② STEREO(STEREO チャンネルから MATRIX バスへのセンドレベル)

STEREO チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。バーグラフをドラッグしている間は、すぐ下の数値表示部にセンドレベルが表示されます。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの ⑤MATRIX と共通です (→ P.22)。

③ EQ(イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます。ボタンのすぐ下にあるグラフに、EQ の大まかな特性が表示されます。INPUT CH のイコライザー (→ P.16) と共通です。

④ DYN1(ダイナミクス 1)

ダイナミクスプロセッサのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2 (→ P.16) と共通です。

⑤ INS(インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます。

⑥ SEL(セレクト)

操作の対象となる MATRIX チャンネルを選びます。

⑦ CUE

MATRIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

⑧ ON

MATRIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。
チャンネルがオフの場合、フェーダーは灰色になります。

⑨ フェーダー

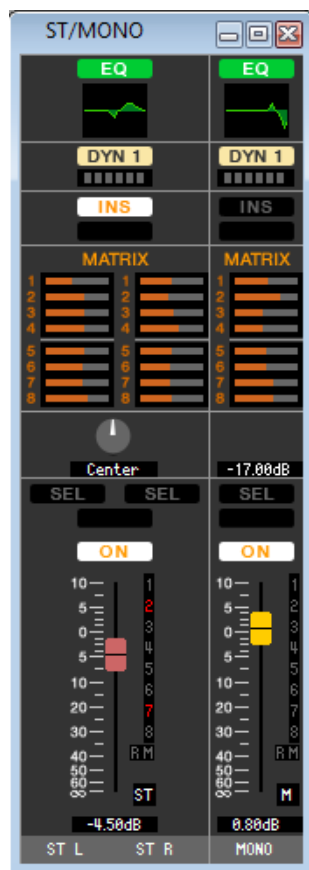
MATRIX チャンネルの出力レベルを調節します。現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます (番号やアルファベットの意味は→ P.22)。

⑩ チャンネル番号

MATRIX チャンネルの番号です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

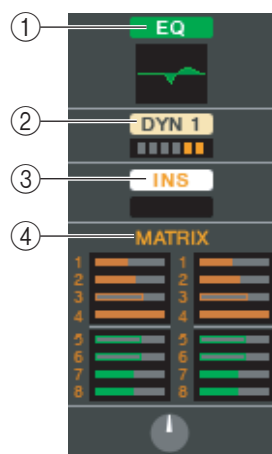
STEREO/MONO ウィンドウ



STEREO と MONO チャンネルのパラメーターを表示 / 変更します。ウィンドウ内に表示させるパラメーターは、[View] メニューまたはウィンドウ内を右クリック (<control> キー + クリック) で表示されるメニューで選択できます。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “STEREO/MONO” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [STEREO] ボタンをオンにする



① EQ (イコライザー)

EQ のオン / オフを切り替えます (L/R の設定が連動します)。INPUT CH のイコライザー (→ P.16) と共通です。

② DYN1 (ダイナミクス 1)

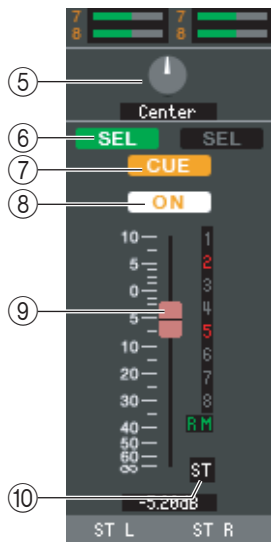
ダイナミクスプロセッサのオン / オフを切り替えます。INPUT CH のダイナミクス 2 (→ P.16) と共通です。

③ INS (インサート)

インサートインの有効 / 無効を切り替えます (L/R の設定が連動します)。

④ MATRIX SEND

STEREO/MONO チャンネルから MATRIX バス 1 ~ 8 に送られる信号のセンドレベルを表示 / 変更します。操作方法や表示の意味は、MIX ウィンドウの MATRIX と共通です (→ P.22)。



⑤ BALANCE

STEREO チャンネルの左右のバランスを調節します。

MONO チャンネルでは MATRIX バスへのセンドレベルが表示されます。

⑥ SEL(セレクト)

操作の対象となるチャンネルを選びます (L/R 独立して指定できます)。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [SEL] キーと連動しています。

⑦ CUE

STEREO/MONO チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [CUE] キーと連動しています。

⑧ ON

STEREO/MONO チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにある [ON] キーと連動しています。

ボタンの色は以下の状態を示します。

白: STEREO/MONO チャンネルがオン (通常モード)

黒: STEREO/MONO チャンネル / センドがオフ

上記以外: センドがオン (SENDS ON FADER モード)

⑨ フェーダー

STEREO/MONO チャンネルの出力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションにあるフェーダーと連動しています。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

その他、フェーダー右側の番号やアルファベットで、そのチャンネルが所属するミュートグループおよびリコールセーフ / ミュートセーフの設定状態を確認できます (番号やアルファベットの意味は→ P.22)。

フェーダーの色は以下の状態を示します。

白: STEREO/MONO チャンネルの入力レベルが調節可能 (通常モード)

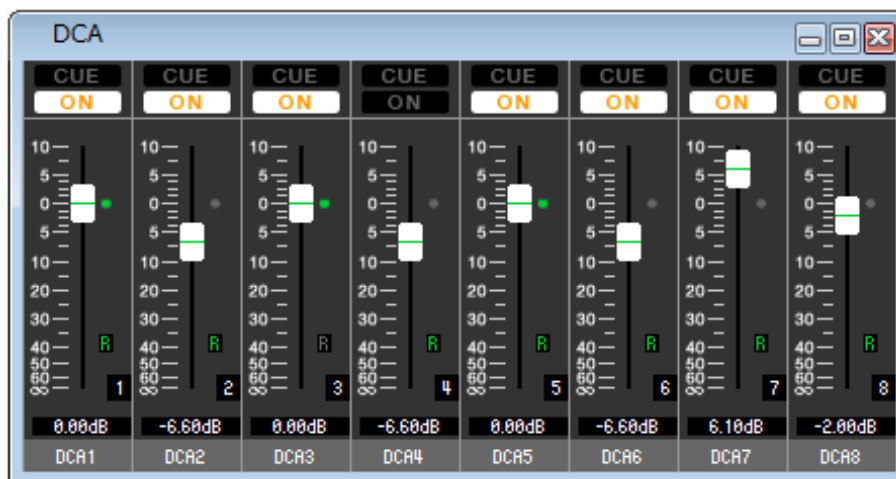
灰色: STEREO/MONO チャンネルがオフ

上記以外: センドレベルが調節可能 (SENDS ON FADER モード)

⑩ チャンネル番号

チャンネルの番号 (ST または M) です。この番号をダブルクリックすると、そのチャンネルの Selected Channel ウィンドウが開きます。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらダブルクリックすると、Additional View として Selected Channel ウィンドウが開きます。

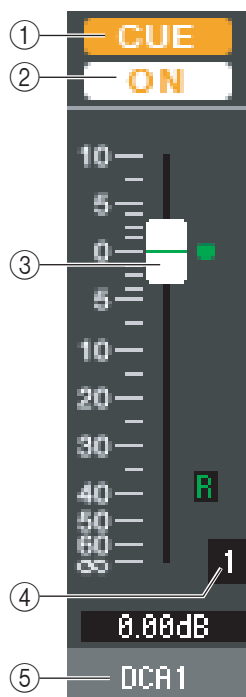
DCA ウィンドウ



DCA グループ 1 ～ 8 のパラメーターを表示 / 変更します。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Overview] を選択して “DCA” を選択する
- Master ウィンドウの NAVIGATION KEYS で [DCA] ボタンをオンにする



① CUE

DCA グループにアサインされている全チャンネルをキューモニターするボタンです。

② ON

オンすると DCA グループにアサインされている全チャンネルがオンになり、オフにすると DCA グループにアサインされている全チャンネルの信号が出力されません。
オフの場合、フェーダーは灰色になります。

③ DCA フェーダー

DCA グループのレベルを調節するフェーダーです。

現在のフェーダーの値は、フェーダーのすぐ下にある数値ボックスで確認できます。

フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 ($-\infty$ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。フェーダーがノミナルレベルのときは、フェーダーの右側にある緑色のインジケーターが点灯します。

また、DCA グループがリコールセーフに設定されているときは、フェーダー右下の R の文字が緑色で表示されます。

④ DCA 番号

DCA グループの番号です。

⑤ DCA グループ名

DCA グループ名を表示するテキストボックスです。このテキストボックス内で DCA グループ名を変更することもできます。

Selected Channel ウィンドウ

現在選択されているインプット系チャンネル (INPUT CH 1 ~ 48(*), ST IN チャンネル 1 ~ 4) またはアウトプット系チャンネル (MIX チャンネル 1 ~ 16, MATRIX チャンネル 1 ~ 8, STEREO/MONO チャンネル) の各種パラメーターを設定します。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Selected Channel] を選択して“MAIN VIEW”を選択する
- Overview の各ウィンドウでチャンネル番号 /EQ/DYN1/DYN2 をダブルクリックする
- M7CL 本体で USER DEFINED KEYS に [M7CL EDITOR CONTROL] の [SEL CH] で [1-16]/[17-32]/[33-48](*) を割り当てて実行する

NOTE [Windows] メニューから [Selected Channel] を選択して“ADDITIONAL VIEW”を選択すると、選択されていないチャンネルのウィンドウを表示することもできます。この ADDITIONAL VIEW では、表示チャンネルが M7CL 本体のパネル上の [SEL] キーと連動しません。

このウィンドウで操作可能なパラメーターの種類は、現在選択されているチャンネルの種類に応じて異なります。以下、インプット系チャンネル (INPUT CH 1 ~ 48, ST IN チャンネル 1 ~ 4), MIX チャンネル, MATRIX チャンネル, STEREO/MONO チャンネルに分けて Selected Channel ウィンドウのパラメーターを説明します。

(*) INPUT CH 33-48は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

インプット系チャンネルが選ばれている場合

● INPUT CH のウィンドウ

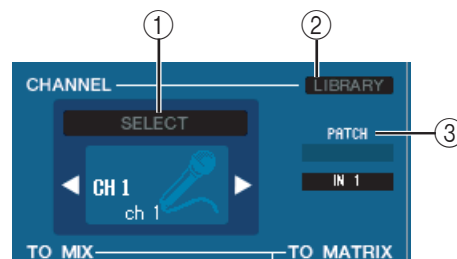


● ST IN チャンネルのウィンドウ



NOTE 特に断わり書きがない限り、以下に説明するパラメーターは、INPUT CH 1 ~ 48、ST IN チャンネル 1 ~ 4 に共通です。

□ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)



① SELECT(チャンネル選択)

操作の対象となるチャンネルの番号と名称を表示します。チャンネルを切り替えるには、SELECT ボタンまたは左右の三角ボタンを使用します。Main View で選択されたチャンネルは M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [SEL] キーと連動します。また、アイコンを右クリック (<control> キー+クリック) してアイコンが選択できます。チャンネル名のテキストボックス内で、名称を変更することもできます。

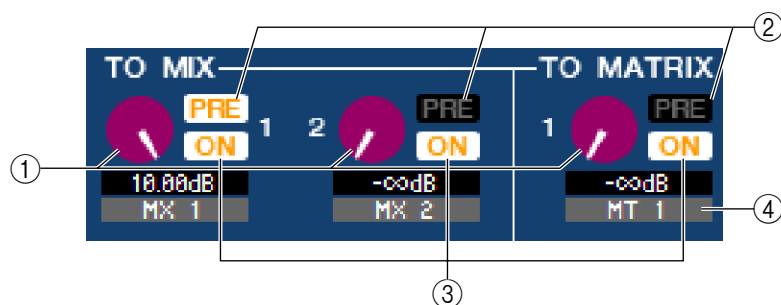
② LIBRARY

インプットチャンネルライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、Library ウィンドウの INPUT CH ページが開きます。

③ INPUT PATCH

インプット系チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します (選択可能な入力ソースは→ P.15)。

□ TO MIX/TO MATRIX SEND



① MIX/MATRIX センドレベル

インプット系チャンネルから VARI タイプの MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを調節します。現在の値は、すぐ下の数値ボックスで確認できます。

② PRE(プリ / ポスト)

インプット系チャンネルから MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。PRE POINT の設定は Mixer Setup ダイアログボックスで行ないます。

NOTE PRE を右クリックすると、[ALL PRE] や [ALL POST] などが設定できるコンテキストメニューが表示されます。

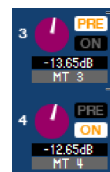
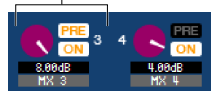
③ ON(MIX/MATRIX センドオン / オフ)

インプット系チャンネルから MIX バスおよび MATRIX バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

HINT

- MIX バスおよび MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。

奇数側のノブ



奇数側のノブ

- MIX バスに FIXED タイプが選択されていた場合は、ON ボタンのみ有効です。

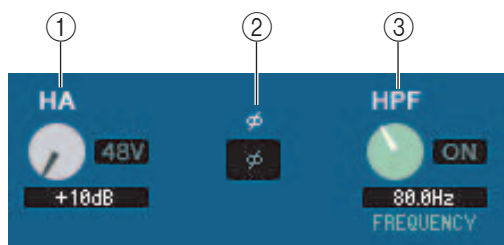


- ステレオ / モノの設定や VARI タイプ / FIXED タイプの設定は、Mixer Setup ダイアログボックスで行ないます。

④ チャンネル名

MIX チャンネルおよび MATRIX チャンネルの名称が表示されます。

□ HA GAIN/φ/HPF



① HA(HA ゲイン)

内蔵ヘッドアンプまたはインプット系チャンネルにパッチされた外部ヘッドアンプ (ヤマハ AD8HR や SB168-ES など) のゲインを調節します。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらかノブをクリックすると初期値 (+10 dB) になります。[48V] ボタンを使って、ファンタム電源のオン / オフを切り替えることもできます。

② φ(フェイズ)

AD 変換後の信号の位相を反転させます。

③ HPF(ハイパスフィルター)

右側の [ON] ボタンを使って、ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。また、左側のノブを操作してカットオフ周波数を変更できます。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。また、イコライザーの EQ グラフ上に H で表示されます。

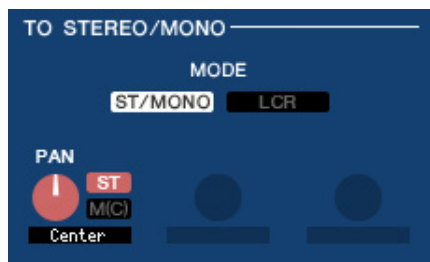
TO STEREO/MONO

インプット系チャンネルから STEREO バス / MONO バスへのセンドを設定します。

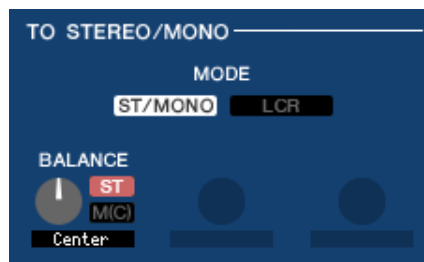
MODE

・ ST/MONO ボタン

このボタンがオンのときは STEREO L/R バスおよび独立した MONO バスとして扱います。



[INPUT CH 1 ~ 48]

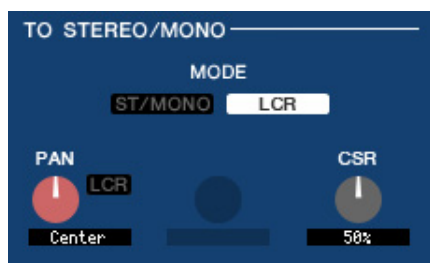


[ST IN チャンネル 1 ~ 4]

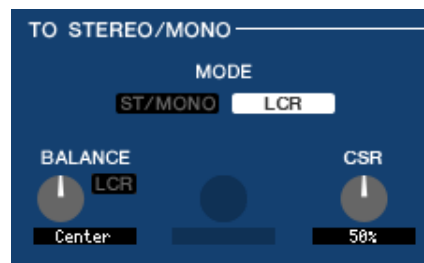
PAN (ST IN では BALANCE)	インプット系チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。
ST	インプット系チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
M(C)	インプット系チャンネルから MONO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

・ LCR ボタン

このボタンがオンのときは連動する L/C/R バスとして扱います。



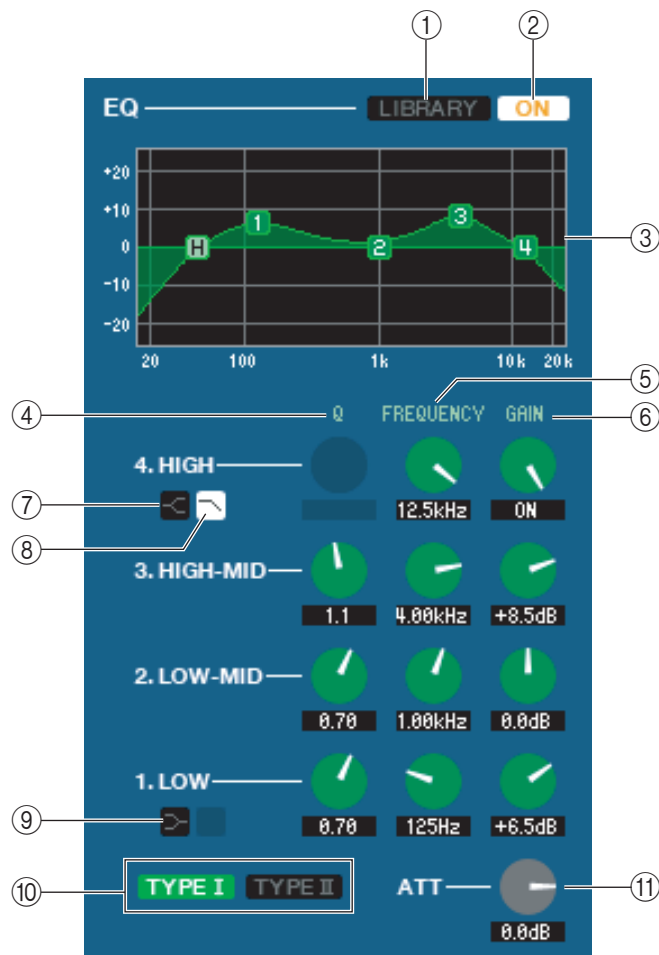
[INPUT CH 1 ~ 48]



[ST IN チャンネル 1 ~ 4]

PAN (ST IN では BALANCE)	インプット系チャンネルから L/C/R の各チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。
CSR(センターサイドレシオ)	STEREO バスの L/R に対する CENTER チャンネルのレベル比を 0 ~ 100% の範囲で設定します。

■ EQUALIZER



① LIBRARY

LIBRARY ウィンドウの INPUT EQ ページを呼び出します。

② ON

EQ のオン / オフを切り替えます。

③ EQ グラフ

現在選ばれているチャンネルの EQ の特性を表示します。キーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらグラフをクリックすると、特性がフラットになります (HPF の設定は残ります)。

④ Q

⑤ FREQUENCY

⑥ GAIN

LOW、LO-MID、HI-MID、HIGH の 4 バンドの Q、中心周波数、ブースト / カット量を調節するノブです。

⑦ HIGH シェルビング

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がシェルビングタイプに切り替わります (HIGH EQ の Q ノブはなくなります)。

⑧ LPF(ローパスフィルター)

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がローパスフィルターに切り替わります。HIGH EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはローパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑨ LOW シェルビング

このボタンがオンのとき、LOW EQ がシェルビングタイプに切り替わります (LOW EQ の Q ノブはなくなります)。

⑩ TYPE I/TYPE II(EQ タイプ)

EQ のタイプとして TYPE I(従来のデジタルミキサーのアルゴリズム) または TYPE II(新開発のアルゴリズム) を選びます。

⑪ ATT(アッテネーション)

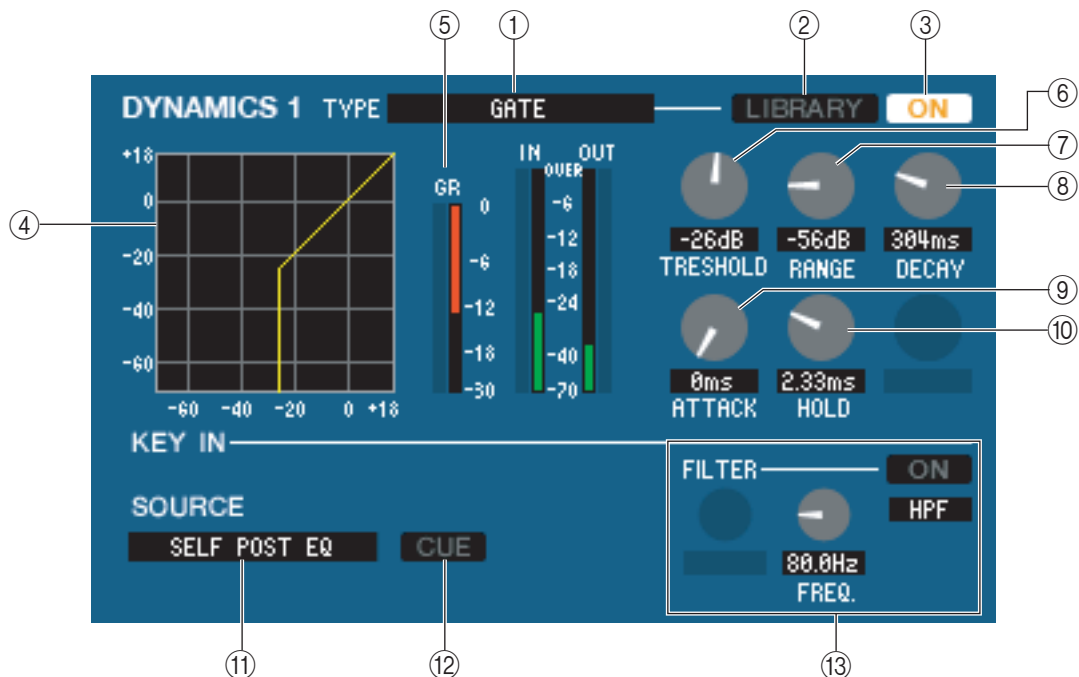
アッテネーション / ゲイン量を設定します。

□ DYNAMICS 1/2

2系統のダイナミクスプロセッサーで、それぞれ次の中からタイプを選択できます。

DYNAMICS1:	GATE、DUCKING、EXPANDER、COMPRESSOR
DYNAMICS2:	COMPRESSOR、COMPANDER-H、COMPANDER-S、DE-ESSER

GATE/DUCKING が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているゲートのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

ゲートのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのゲートの特性を表示します。

⑤ GR メーター

ゲートによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

ゲートが開閉する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときにゲートが開き、このレベルよりも下がったときにゲートが閉じます。

⑦ RANGE

ゲートが閉じている間の信号レベルの減衰量を設定します。

⑧ DECAY

ホールドタイムで設定された時間を経過した後で、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。

⑨ ATTACK

キーイン信号がスレッシュホールドを越えてからゲートが開くまでの時間を設定します。

⑩ HOLD

キーイン信号がスレッシュホールドよりも下がった後で、ゲートが開いている時間を設定します。

⑪ KEY IN SOURCE

クリックしてキーインとして利用する信号を次の中から選択します。

SELF PRE EQ	現在選ばれているインプット系チャンネルの EQ 直前の信号
SELF POST EQ	現在選ばれているインプット系チャンネルの EQ 直後の信号
MIX OUT 13 ~ 16	それぞれ該当する MIX チャンネルのアウトプットアッテネーション直前の出力信号
CH 1 ~ 48 POST EQ	それぞれ該当するインプット系チャンネルの EQ 直後の信号 (ただし選択できる信号は、CH1 ~ 8、CH9 ~ 16、CH17 ~ 24、CH25 ~ 32、CH33 ~ 40、CH41 ~ 48、STIN1L ~ STIN4R の 7 つのグループの中で、そのチャンネルが属するグループのみ)
STIN1L ~ STIN4R POST EQ	

⑫ CUE

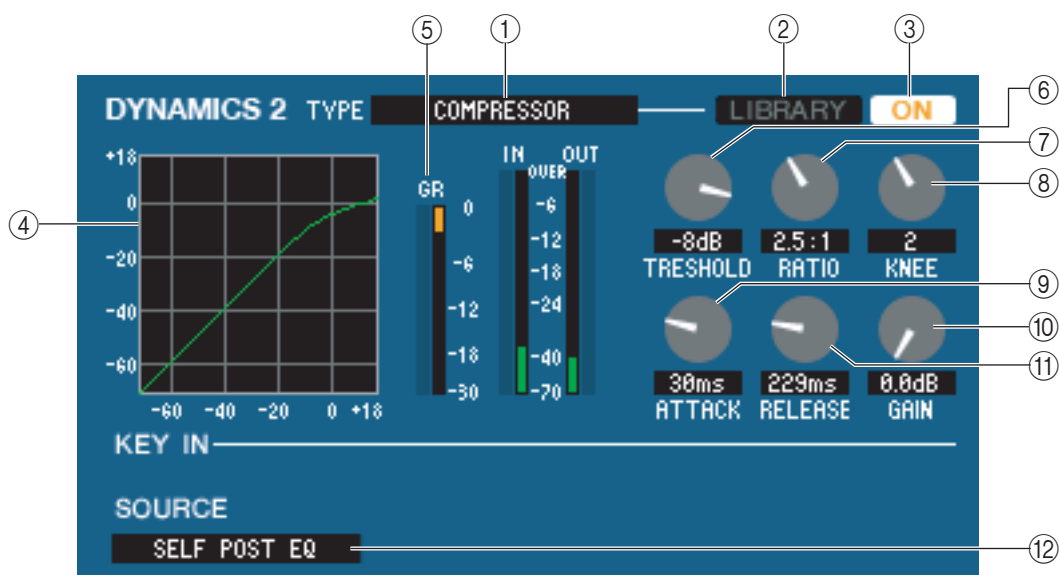
現在選ばれているキーイン信号をキューモニターするボタンです。ADDITIONAL VIEW にはありません。

⑬ KEY IN FILTER

選択したキーイン信号にかけるフィルターの種類を HPF(ハイパスフィルター)、BPF(バンドパスフィルター)、LPF(ローパスフィルター)の中から選びます。ON/OFF ボタンで、フィルターのオン/オフを切り替えます。

BPF を選んだときは、2 つのノブでバンドパス周波数と Q を調節します。また、HPF と LPF を選んだときは、ノブでカットオフ周波数を調節します。

COMPRESSOR が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているコンプレッサーのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

コンプレッサーのオン/オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのコンプレッサーの特性を表示します。

⑤ GR メーター

コンプレッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

コンプレッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ RATIO

キーイン信号がスレッシュホルドを越えたときに、入力信号を圧縮する比率を設定します。

⑧ KNEE

出力レベルが変化する鋭さを設定します。HARD、1 ~ 5 の中から選択できます。

⑨ ATTACK

キーイン信号がスレッシュホールドを越えてから信号の圧縮が始まるまでの時間を設定します。

⑩ GAIN

コンプレッサー通過後の信号のゲインを設定します。

⑪ RELEASE

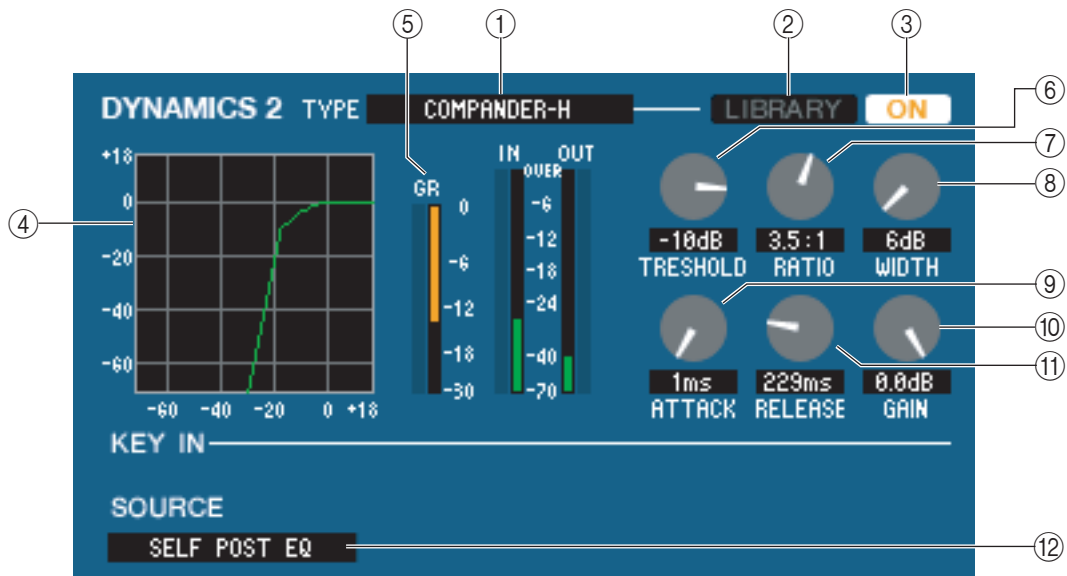
キーイン信号がスレッシュホールドを下回ってから、圧縮が解除されるまでの時間を設定します。

⑫ KEY IN SOURCE

クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。

選択できる信号は GATE と共通です。

COMPANDER-H、COMPANDER-S が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているコンプレッサーのタイプを表示します。クリックしてタイプを選択できます。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

コンプレッサーのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのコンパンダーの特性を表示します。

⑤ GR メーター

コンプレッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

コンプレッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号がこのレベルを越えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ RATIO

キーイン信号がスレッシュホールドを越えたときに、入力信号を圧縮する比率を設定します。

⑧ WIDTH

コンプレッサーの効果の境界レベル (THRESHOLD) と、エキスパンダーの効果の境界レベルの幅です。THRESHOLD+WIDTH 以下のレベルにエキスパンダーの効果がかかります。

⑨ ATTACK

キーイン信号がスレッシュホールドを越えてから信号の圧縮が始まるまでの時間を設定します。

⑩ GAIN

コンプレッサー通過後の信号のゲインを設定します。

⑪ RELEASE

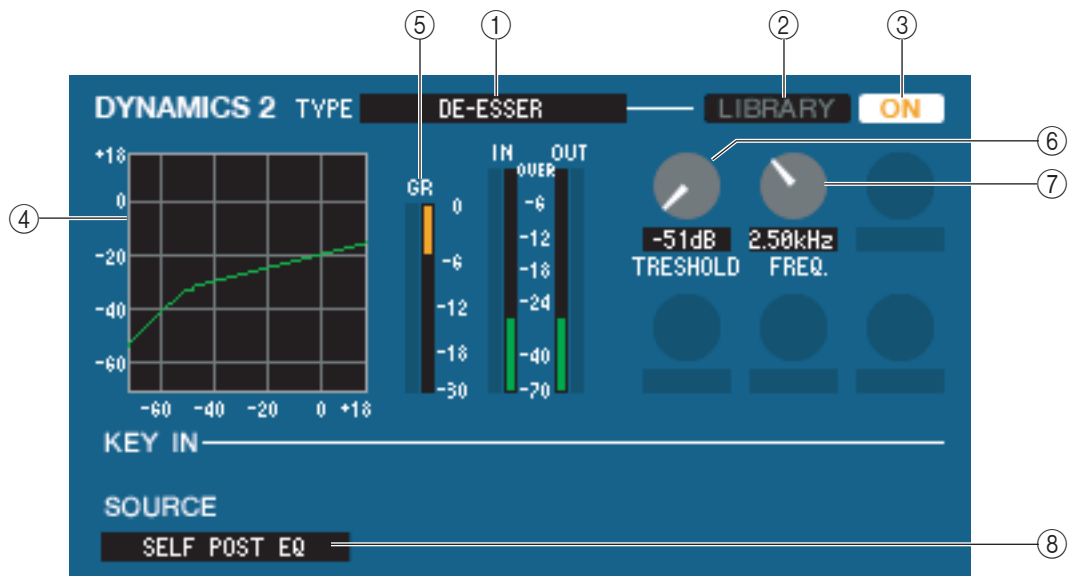
キーイン信号がスレッシュホールドを下回ってから、圧縮が解除されるまでの時間を設定します。

⑫ KEY IN SOURCE

クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。

選択できる信号は GATE と共通です。

DE-ESSER が選択されたとき



① TYPE

現在選ばれているタイプがディエッサーであることを表示します。

② LIBRARY

ダイナミクスライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの DYNAMICS ページが開きます。

③ ON

ディエッサーのオン / オフを切り替えるボタンです。

④ レスポンス曲線

現在選ばれているチャンネルのディエッサーの特性を表示します。

⑤ GR メーター

ディエッサーによるリダクション量を表示するメーターです。

⑥ THRESHOLD

ディエッサーが動作する基準レベルを設定します。キーイン信号に対して最低周波数で設定した周波数以上の帯域のレベルがこのレベルを超えたときに入力信号の圧縮が始まり、このレベルよりも下がったときに圧縮が解除されます。

⑦ FREQ.(最低周波数)

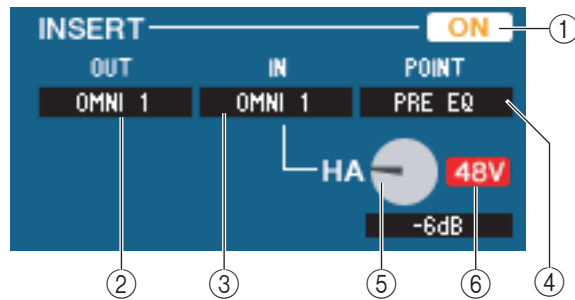
キーイン信号に対してディエッサーを動作させる、最低周波数を設定します。

⑧ KEY IN SOURCE

クリックしてキーインとして利用する信号を選択します。

選択できる信号は GATE と共通です。

□ INSERT(ST IN チャンネルは除く)



① ON

インサートイン / アウトの有効 / 無効を切り替えます。

② OUT(インサートアウト)

クリックしてインサートアウトに割り当てる出力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
OMNI 1 ～ OMNI 8(M7CL-48ES)	OMNI OUT 端子 1 ～ 8
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル
RACK1A, RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 出力

③ IN(インサートイン)

クリックしてインサートインに割り当てる入力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
OMNI 1 ～ OMNI 8(M7CL-48ES)	OMNI IN 端子 1 ～ 8
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-15, SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの入力チャンネル
RACK1A, RACK1B...RACK8R(B)	ラック 1 ～ 8 の L/R 入力

④ POINT(インサートポイント)

インサートイン / アウトをパッチする位置を PRE EQ、PRE FADER、POST ON のどれかから選択します。

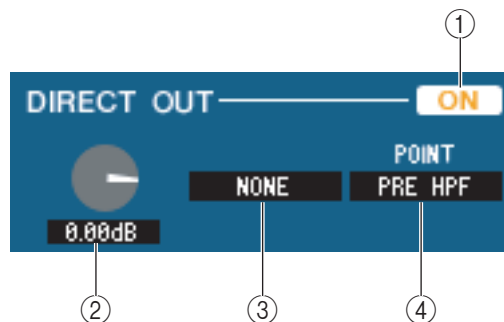
⑤ HA ゲイン (M7CL-48ES)

OMNI IN の HA ゲインを調節します。このノブは ③ で OMNI を選択したときのみ表示されます。

⑥ 48V(M7CL-48ES)

ファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。このボタンは ③ で OMNI を選択したときのみ表示されます。

□ DIRECT OUT(ST IN チャンネルは除く)



① ON

ダイレクト出力のオン / オフを切り替えます。

② DIRECT OUT GAIN

ダイレクトアウトのゲインを調節します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらノブをクリックするとノミナル値 (0.0dB) になります。

③ DIRECT OUT PORT

クリックしてダイレクトアウトに割り当てる出力ポートを次の中から選びます。

NONE	割り当てなし
OMNI 1 ～ 8	OMNI OUT 端子 1 ～ 8
OMNI 9 ～ 16(M7CL-32/48)	OMNI OUT 端子 9 ～ 16
SLOT1-1, SLOT1-2...SLOT3-16	スロット 1 ～ 3 に装着された I/O カードの出力チャンネル

④ DIRECT OUT POINT

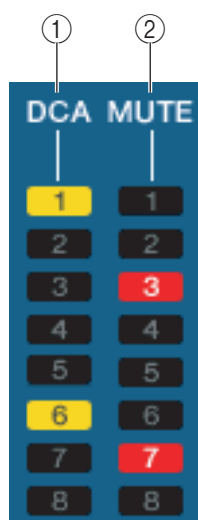
ダイレクトアウトをパッチする位置を PRE HPF、PRE EQ、PRE FADER、POST ON のどれかから選択します。

□ RECALL SAFE/MUTE SAFE

そのチャンネルのリコールセーフ / ミュートセーフの有効 / 無効を切り替えます。



□ DCA GROUP/MUTE GROUP



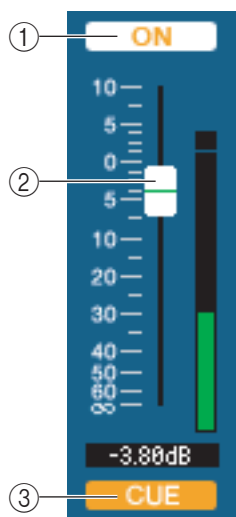
① DCA GROUP

そのチャンネルが所属する DCA グループを 1 ～ 8 の中から選びます。

② MUTE GROUP

そのチャンネルが所属するミュートグループを 1 ～ 8 の中から選びます。

□ フェーダー



① ON

インプット系チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの CH [ON] キーと連動しています。

チャンネルがオフの場合、フェーダーは灰色になります。

② フェーダー

インプット系チャンネルの入力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションのフェーダーと連動しています。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらクリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キー(<⌘> キー)と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

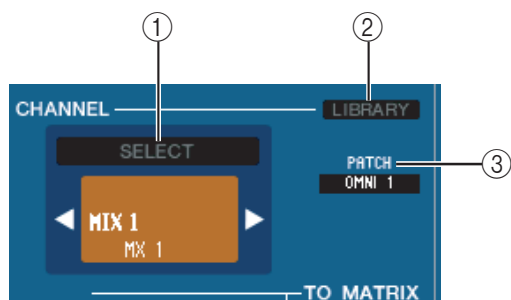
③ CUE

インプット系チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある INPUT セクションの [CUE] キーと連動しています。

MIX チャンネルが選ばれている場合



CHANNEL SELECT (チャンネル選択)



① SELECT (チャンネル選択)

操作の対象が MIX チャンネルであることを除けば、インプット系チャンネルのチャンネル選択と共通です (→ P.29)。

② LIBRARY

アウトプットチャンネルライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、Library ウィンドウの OUTPUT CH ページが開きます。

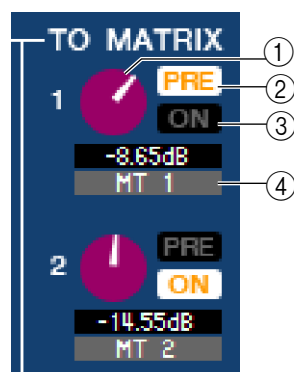
③ INPUT PATCH

インプット系チャンネルに割り当てる入力ソースを選択します (選択可能な入力ソースは→ P.21)。

複数パッチされている場合は、先頭のポートのみが表示されます。

このウィンドウでパッチを変更した場合は、それまでに割り当てられていたポートはキャンセルされ、新しく選択されたポートのみが割り当てられます。

TO MATRIX



① MATRIX センドレベル

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のセンドレベルを調節します。

② PRE (プリ / ポスト)

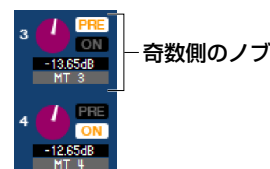
MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。PRE POINT の設定は Mixer Setup ダイアログボックスで行ないます。

NOTE PRE を右クリックすると、[ALL PRE] や [ALL POST] などが設定できるコンテキストメニューが表示されます。

HINT

・MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。

・ステレオ / モノの設定は、Mixer Setup ダイアログボックスで行ないます。



奇数側のノブ

③ ON(MATRIX センドオン / オフ)

MIX チャンネルから MATRIX バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

④ チャンネル名

MATRIX チャンネルの名称が表示されます。

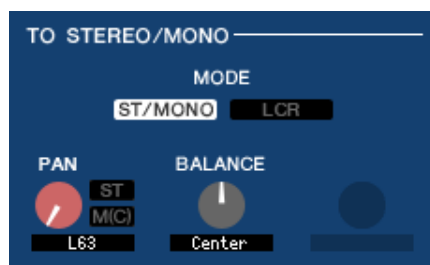
TO STEREO/MONO

MIX チャンネルから STEREO バス / MONO バスへのセンドを設定します。

MODE

・ ST/MONO ボタン

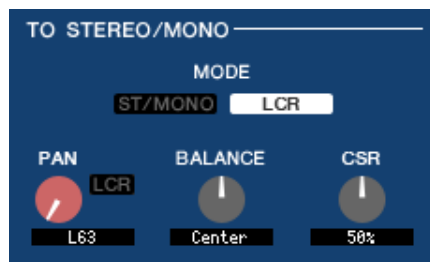
このボタンがオンのときは STEREO バスおよび独立した MONO バスとして扱います。



PAN	MIX チャンネルから STEREO バスの L/R チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合は、奇数チャンネルは L63/ 偶数チャンネルは R63 に固定になります。
ST	MIX チャンネルから STEREO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
MONO	MIX チャンネルから MONO バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。
BALANCE	選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合のみ表示されます。ステレオバスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。

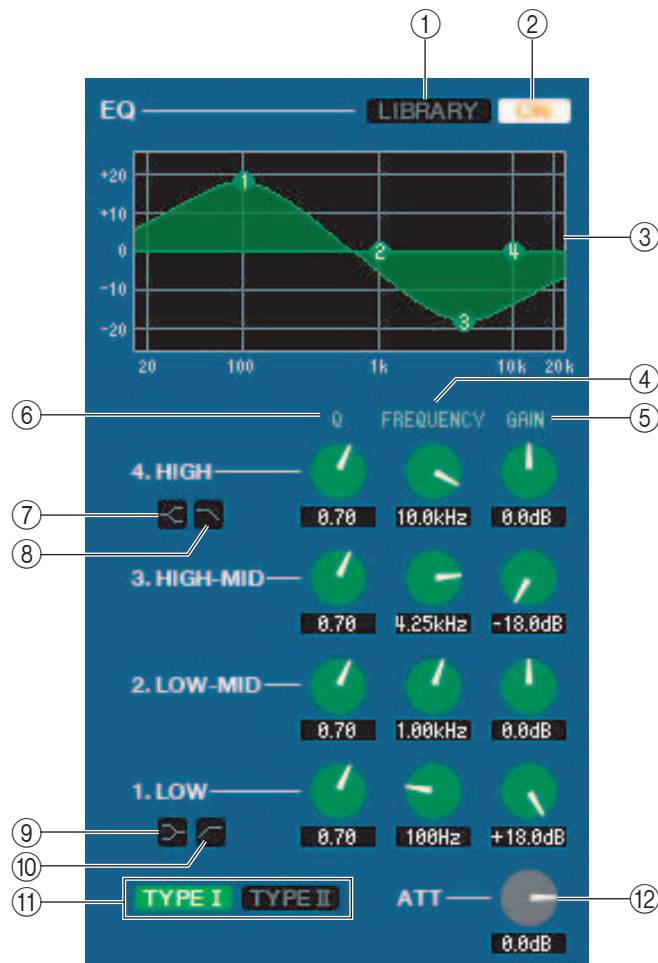
・ LCR ボタン

このボタンがオンのときは連動する L/C/R バスとして扱います。



PAN	MIX チャンネルから L/C/R の各チャンネルに送られる信号の定位を調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。M7CL 本体のパネル上にある SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] エンコーダーと連動しています。選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合は、奇数チャンネルは L63/ 偶数チャンネルは R63 に固定になります。
BALANCE	選択された MIX バスがステレオバスとして使用された場合のみ表示されます。ステレオバスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。
CSR(センターサイドレシオ)	STEREO バスの L/R に対する CENTER チャンネルのレベル比を 0 ~ 100% の範囲で設定します。

□ EQUALIZER



① LIBRARY

LIBRARY ウィンドウの OUTPUT EQ ページを呼び出します。

② ON

EQ のオン / オフを切り替えます。

③ EQ グラフ

現在選ばれているチャンネルの EQ の特性を表示します。キーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらグラフをクリックすると、特性がフラットになります。

④ Q

⑤ FREQUENCY

⑥ GAIN

LOW、LO-MID、HI-MID、HIGH の 4 バンドの Q、中心周波数、ブースト / カット量を調節するノブです。

⑦ HIGH シェルビング

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がシェルビングタイプに切り替わります (HIGH EQ の Q ノブはなくなります)。

⑧ LPF(ローパスフィルター)

このボタンがオンのとき、HIGH EQ がローパスフィルターに切り替わります。HIGH EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはローパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑨ LOW シェルビング

このボタンがオンのとき、LOW EQ がシェルビングタイプに切り替わります (LOW EQ の Q ノブはなくなります)。

⑩ HPF(ハイパスフィルター)

このボタンがオンのとき、LOW EQ がハイパスフィルターに切り替わります。LOW EQ の Q ノブはなくなり、GAIN ノブはハイパスフィルターのオン / オフ切り替えスイッチとして機能します。

⑪ TYPE I/TYPE II(EQ タイプ)

EQ のタイプとして TYPE I(従来のデジタルミキサーのアルゴリズム)または TYPE II(新開発のアルゴリズム)を選びます。

⑫ ATT(アッテネーション)

アッテネーション / ゲイン量を設定します。

□ DYNAMICS 1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス (→ P.34) と共通です。

□ INSERT

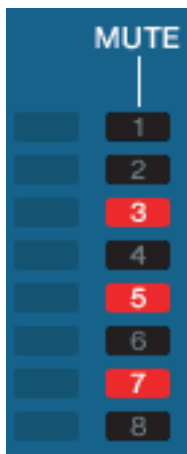
選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート (→ P.37) と共通です。

□ RECALL SAFE/MUTE SAFE

インプット系チャンネルのリコールセーフ / ミュートセーフと共通です。

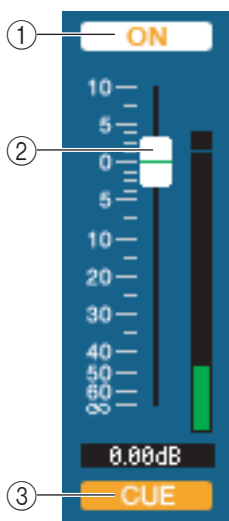


□ MUTE GROUP



MIX チャンネルが所属するミュートグループを 1 ～ 8 の中から選びます。

□ パン / フェーダー



① ON

MIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

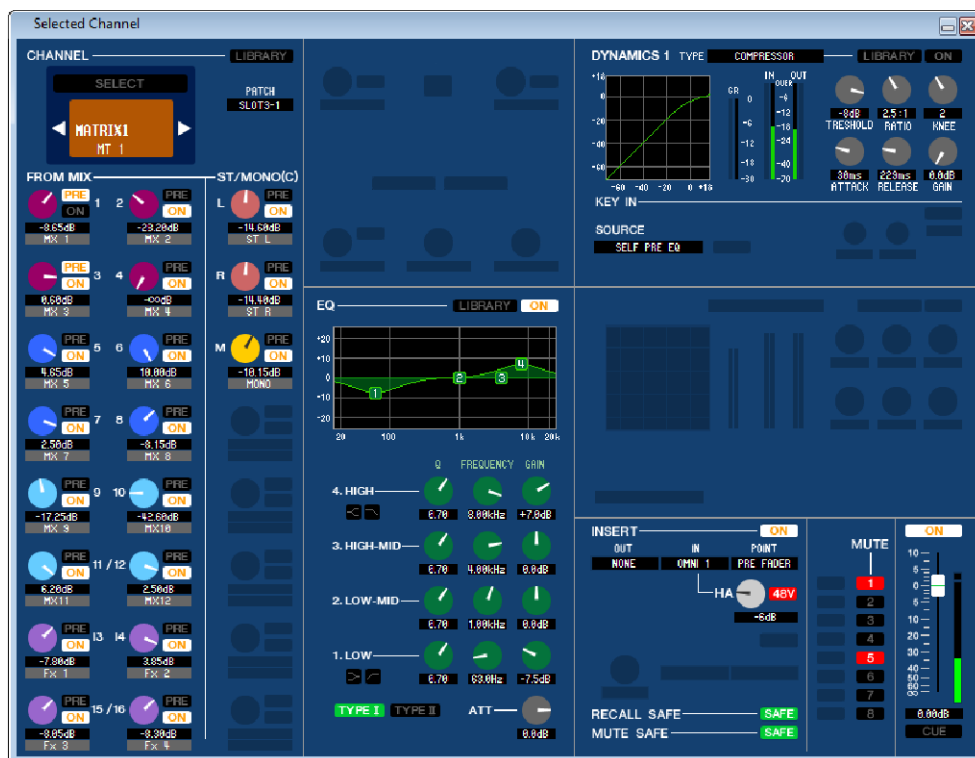
② フェーダー

MIX チャンネルの出力レベルを調節します。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると最小値 (-∞ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらクリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

③ CUE

MIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

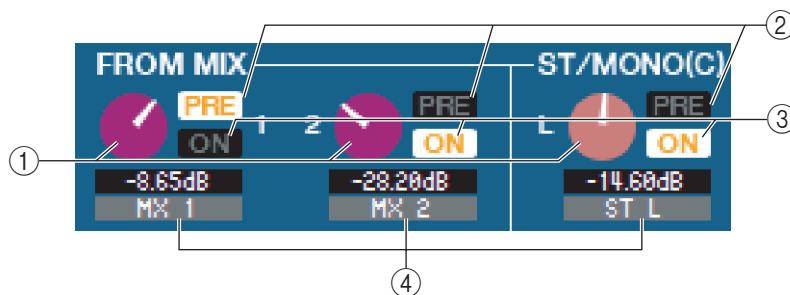
MATRIX チャンネルが選ばれている場合



□ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)

操作の対象が MATRIX チャンネルであることを除けば、MIX チャンネルのチャンネル選択と共通です (→ P.39)。

□ FROM MIX、ST/MONO



① FROM MIX、ST/MONO センドレベル

VARI タイプの MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号のセンドレベルを調節します。現在の値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。

② PRE(プリ / ポスト)

MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号の送出位置として、PRE または POST を選択します。オンのときは PRE POINT、オフのときは POST FADER になります。

③ ON(FROM MIX,ST/MONO センドオン / オフ)

MIX バス、STEREO/MONO バスから MATRIX バスへ送られる信号のオン / オフを切り替えます。

HINT

- ・ MIX バスと MATRIX バスがステレオとして使用された場合は、奇数側のノブが PAN となります。
- ・ MIX バスに FIXED タイプが選択されていた場合は、ON ボタンのみ有効です。
- ・ ステレオ / モノの設定や VARI タイプ / FIXED タイプの設定は、Mixer Setup ダイアログボックスで行ないます。



④ チャンネル名

MIX チャンネルおよび STEREO/MONO チャンネルの名称が表示されます。

□ BALANCE



選択された MATRIX バスがステレオとして使用された場合のみ表示されます。ステレオの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらクリックすると Center 位置になります。

□ EQUALIZER

MIX チャンネルのイコライザー (→ P.41) と共通です。

□ DYNAMICS 1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス (→ P.33) と共通です。

□ INSERT

選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート (→ P.37) と共通です。

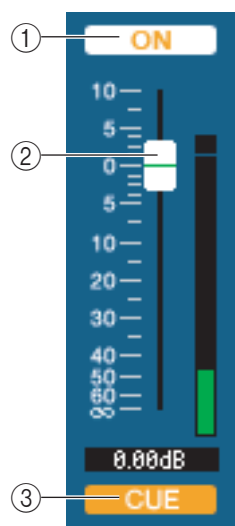
□ RECALL SAFE/MUTE SAFE

MIX チャンネルの RECALL SAFE/MUTE SAFE と共通です (→ P.42)。

□ MUTE GROUP

MIX チャンネルの MUTE GROUP と共通です (→ P.42)。

■ フェーダー



① ON

MATRIX チャンネルのオン / オフを切り替えます。

② フェーダー

MATRIX チャンネルの出力レベルを調節します。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。フェーダーノブを、コンピューターキーボードの <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらかリックすると最小値 (−∞ dB) に、<Ctrl> キー (<⌘> キー) と <Shift> キーを押しながらかリックするとノミナル値 (0.00dB) になります。

③ CUE

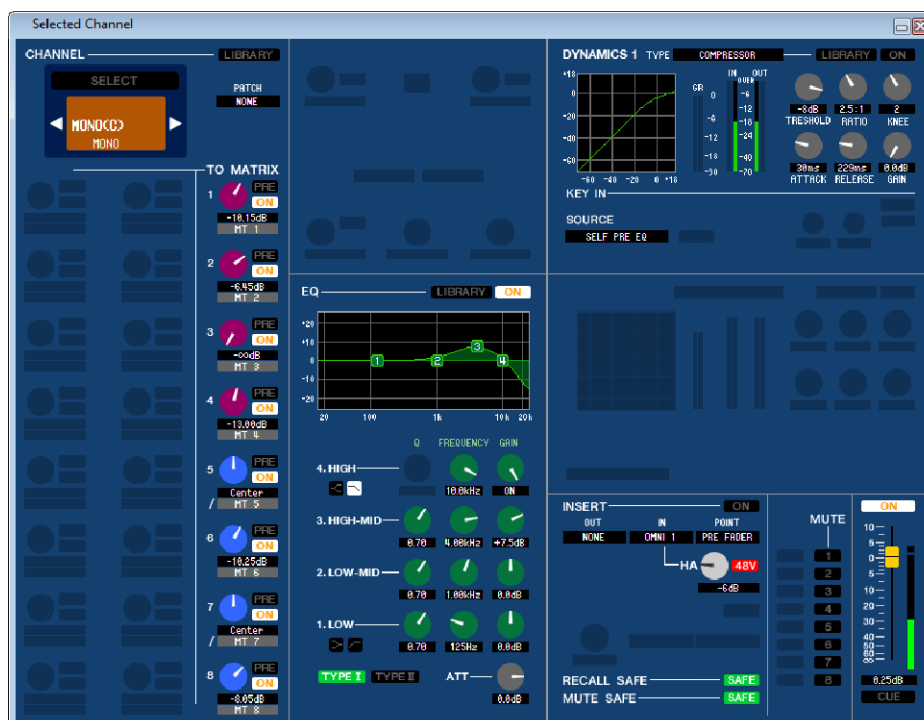
MATRIX チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。

STEREO/MONO チャンネルが選ばれている場合

● STEREO チャンネルのウィンドウ



● MONO チャンネルのウィンドウ



□ CHANNEL SELECT(チャンネル選択)

操作の対象が STEREO/MONO チャンネルであることを除けば、MIX チャンネルのチャンネル選択と共通です(→ P.39)。

□ TO MATRIX

MIX チャンネルの TO MATRIX と共通です(→ P.39)。

□ BALANCE(MONO チャンネルは除く)



STEREO バスの左右音量のバランスを調節します。コンピューターキーボードの <Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらクリックすると Center 位置になります。

□ EQUALIZER

MIX チャンネルのイコライザー(→ P.41) と共通です。

□ DYNAMICS 1

タイプが COMPRESSOR、EXPANDER、COMPAND H、COMPAND S である点とキーインとして選択可能な信号の種類が異なる点を除けば、インプット系チャンネルのダイナミクス(→ P.33) と共通です。

□ INSERT

選択可能なインサートポイントが異なる点を除けば、インプット系チャンネルのインサート(→ P.37) と共通です。

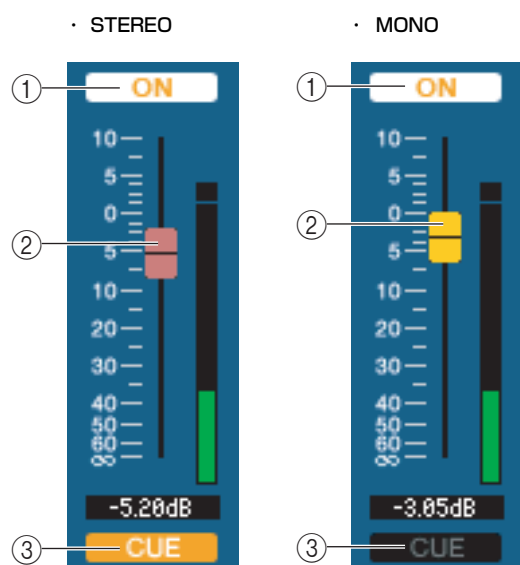
□ RECALL SAFE/MUTE SAFE

MIX チャンネルの RECALL SAFE/MUTE SAFE と共通です(→ P.42)。

□ MUTE GROUP

MIX チャンネルの MUTE GROUP と共通です(→ P.42)。

□ フェーダー



① ON

STEREO/MONO チャンネルのオン / オフを切り替えます。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションの [ON] キーと連動しています。

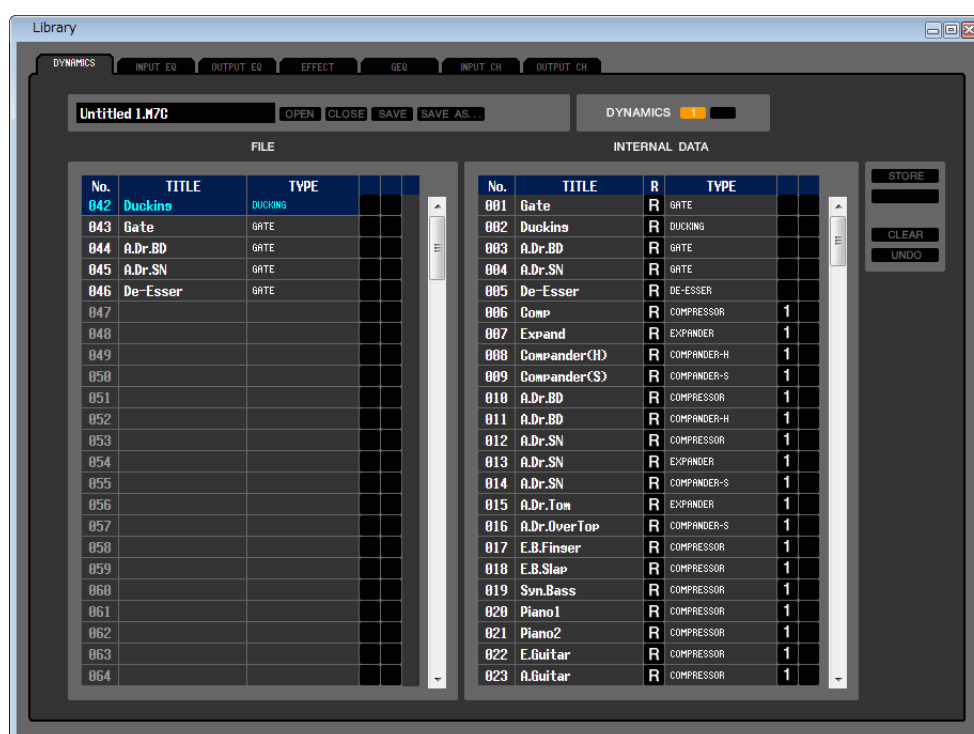
② フェーダー

STEREO/MONO チャンネルの出力レベルを調節します。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションのフェーダーと連動しています。フェーダーの右側には信号レベルを表わすメーターがあり、現在の設定値はすぐ下の数値ボックスで確認できます。

③ CUE

STEREO/MONO チャンネルの信号をキューモニターするボタンです。M7CL 本体のパネル上にある STEREO/MONO MASTER セクションの [CUE] キーと連動しています。

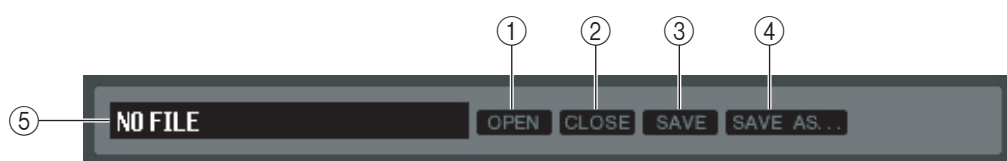
Library ウィンドウ



M7CL 本体の各種ライブラリーを編集します。また、コンピューターのドライブに保存されたライブラリーのファイルを読み込み、並び順やタイトルなどを変更したり、任意のライブラリーデータをリコールしたり、任意のライブラリーデータを M7CL 本体のライブラリーにコピーしたりできます。

このウィンドウは、DYNAMICS、INPUT EQ、OUTPUT EQ、EFFECT、GEQ、INPUT CH、OUTPUT CH の各ページに分かれており、ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

このウィンドウを表示するには [Windows] メニューから [LIBRARY] を選択して “DYNAMICS”、“INPUT EQ”、“OUTPUT EQ”、“EFFECT”、“GEQ”、“INPUT CH”、“OUTPUT CH” のいずれかを選択します。



① OPEN(ファイルを開く)

コンピューターのドライブ上にあるライブラリーのファイルを開きます。USB 記録装置に保存されたライブラリーデータを編集したいときなどに利用します。

② CLOSE(ファイルを閉じる)

現在開かれているライブラリーのファイルを閉じます。

③ SAVE(保存)

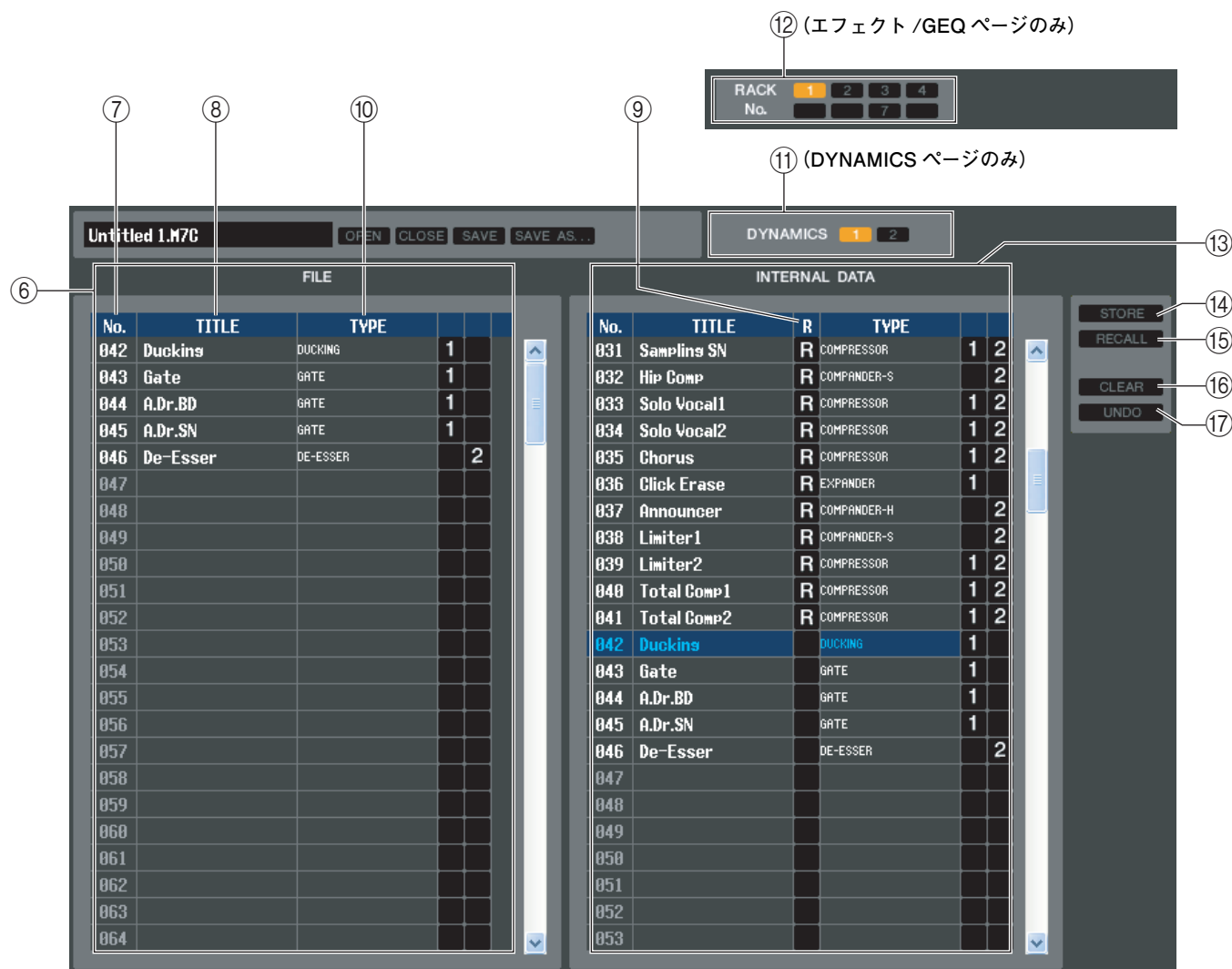
現在開かれているライブラリーのファイルをコンピューターのドライブに保存します。編集したライブラリーを USB 記録装置に保存し直したり、コンピューターのハードディスク上にバックアップを作るときに利用します。

④ SAVE AS(名前を変えて保存)

現在開かれているライブラリーのファイル名を変えて、コンピューターのドライブに保存します。

⑤ ファイル名

現在開かれているライブラリーのファイル名を表示します。



⑥ FILE

OPEN ボタン (①) を使って開いたライブラリーのファイルに含まれるデータの内容を表示するリストです。リストに含まれる項目は、次のとおりです。

⑦ No.(番号)

ライブラリーに含まれるデータの番号です。

⑧ TITLE

ライブラリーのデータに付けられたタイトルです。この部分をダブルクリックして、タイトルを編集することもできます。

⑨ READ ONLY

読み込み専用のデータはこの欄に“R”と表示され、上書き保存やタイトルの変更ができません。

⑩ TYPE

エフェクトのタイプを表示します。

ダイナミクスの場合、そのチャンネルでリコール可能なダイナミクス系列も表示します。“1”と表示されているもののみ DYNAMICS1 でリコールでき、“2”と表示されているもののみ DYNAMICS2 でリコールできます。どちらも表示されていないデータは、そのチャンネルではリコールできません。

⑪ DYNAMICS(DYNAMICS ページのみ)

2系統あるダイナミクスのどちらをストア / リコールの対象とするか選択します。

⑫ RACK No.(ラック選択)(エフェクト / GEQ ページのみ)

どのラックをストア / リコールの対象とするか選択します。

NOTE HQ Pitch, Freeze は Rack6, Rack8 にマウントされたエフェクトモジュールへはリコールできません

⑬ INTERNAL DATA

M7CL 本体のライブラリーの内容を表示します。表示される項目は、FILE リスト (⑥) と共通です。

必要に応じて、単一のデータまたは複数のデータを、FILE リストと INTERNAL DATA リストとの間で相互にコピーしたり、同一リスト内で別の位置にコピーまたは移動したりできます。

これを行なうには、まず以下の方法でコピー元 / 移動元となるシーンを選択します。

- **単一のシーンを選ぶには**

任意のシーンの列をクリックします。

040	Total Comp1	R	COMPRESSOR
041	Total Comp2	R	COMPRESSOR
042	Gate		GATE
043	Duckins		DUCKING
044	A.Dr.BD		GATE
045	A.Dr.SN		GATE
046	De-Esser		DE-ESSER

- **番号の連続した複数のシーンを選ぶには**

最初のシーンをクリックして選び、<Shift> キーを押しながら最後のシーンをクリックします。

040	Total Comp1	R	COMPRESSOR
041	Total Comp2	R	COMPRESSOR
042	Gate		GATE
043	Duckins		DUCKING
044	A.Dr.BD		GATE
045	A.Dr.SN		GATE
046	De-Esser		DE-ESSER

- **番号の離れた複数のシーンを選ぶには**

最初のシーンをクリックし、<Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながら残りのシーンをクリックします。

040	Total Comp1	R	COMPRESSOR
041	Total Comp2	R	COMPRESSOR
042	Gate		GATE
043	Duckins		DUCKING
044	A.Dr.BD		GATE
045	A.Dr.SN		GATE
046	De-Esser		DE-ESSER

コピー元 / 移動元が選択できたら、もう一方のリストの任意の位置 (異なるリスト間で相互にコピーする場合)、または同一リスト内の別の位置 (同じリスト内でコピー / 移動する場合) にドラッグします。

- **シーンを上書きコピーするには**

コピー元をもう一方のリストの任意の行、または同一リスト内で別の行の上にドラッグします。このとき、シーン番号の右側に ► のマークが表示されます。

この状態でドロップすると、保存を確認するダイアログが現われます。OK ボタンをクリックすると、コピー元のシーンがコピー先に上書きされ、コピー元はそのまま残ります (コピー元に複数のシーンが含まれる場合、そのシーンを開始位置として番号の連続したシーンに上書きされます)。

040	Total Comp1	R	COMPRESSOR
041	Total Comp2	R	COMPRESSOR
042	Gate		GATE
043	Duckins		DUCKING
044	A.Dr.BD	►	GATE
045	A.Dr.SN		GATE
046	De-Esser		DE-ESSER

- **シーンを移動するには**

同じリスト内であれば、選択したシーンを別の位置に移動させ、リスト内のシーンを並び替えることができます。これを行なうには、選択した移動元を同じリスト内で任意の行間にドラッグします。このとき、行間に >— のマークが表示されます。

この状態でマウスから手を放すと、選択したシーンがその位置に移動し、シーン番号も変更になります (移動元に複数のシーンが含まれる場合は、その位置に連続したシーンが挿入されます)。

040	Total Comp1	R	COMPRESSOR
041	Total Comp2	R	COMPRESSOR
042	Gate		GATE
043	Duckins	>—	DUCKING
044	A.Dr.BD		GATE
045	A.Dr.SN		GATE
046	De-Esser		DE-ESSER

NOTE GEQ ライブラリの InitialData はコピーできません。

⑭ **STORE**

リスト内の選択したデータに現在の設定を保存します。

⑮ **RECALL**

リスト内の選択したデータをリコールします。

⑯ **CLEAR**

リスト内で選択した単一データ、または複数のデータを消去します (消去されたデータは、タイトルが [No Data!] に戻ります)。

⑰ **UNDO**

最後に行なったライブラリーのリコール、ストア、コピー、移動操作を取り消します。

何度もクリックすると、UNDO と REDO を繰り返します。

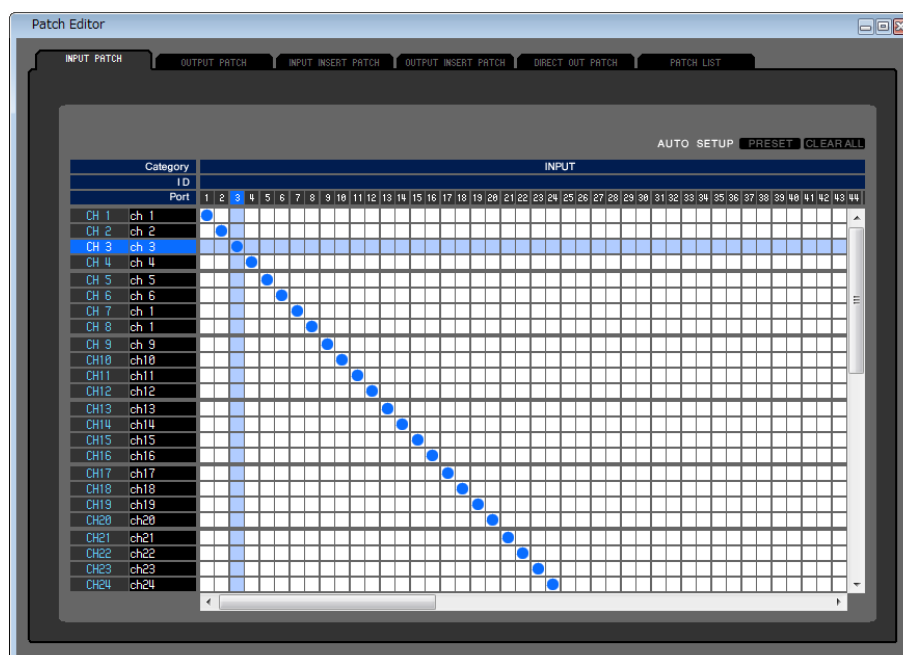
Patch Editor ウィンドウ

各チャンネルの入出力、およびダイレクトアウトやインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。

このウィンドウは、INPUT PATCH、OUTPUT PATCH、INPUT INSERT PATCH、OUTPUT INSERT PATCH、DIRECT OUT PATCH、PATCH LIST の各ページに分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

このウィンドウを表示するには [Windows] メニューから [PATCH Editor] を選択して“INPUT PATCH”、“OUTPUT PATCH”、“INPUT INSERT PATCH”、“OUTPUT INSERT PATCH”、“DIRECT OUT PATCH”、“PATCH LIST”のいずれかを選択します。

INPUT PATCH ページ



インプット系チャンネルの入力に割り当てる入力ポートを選択します。

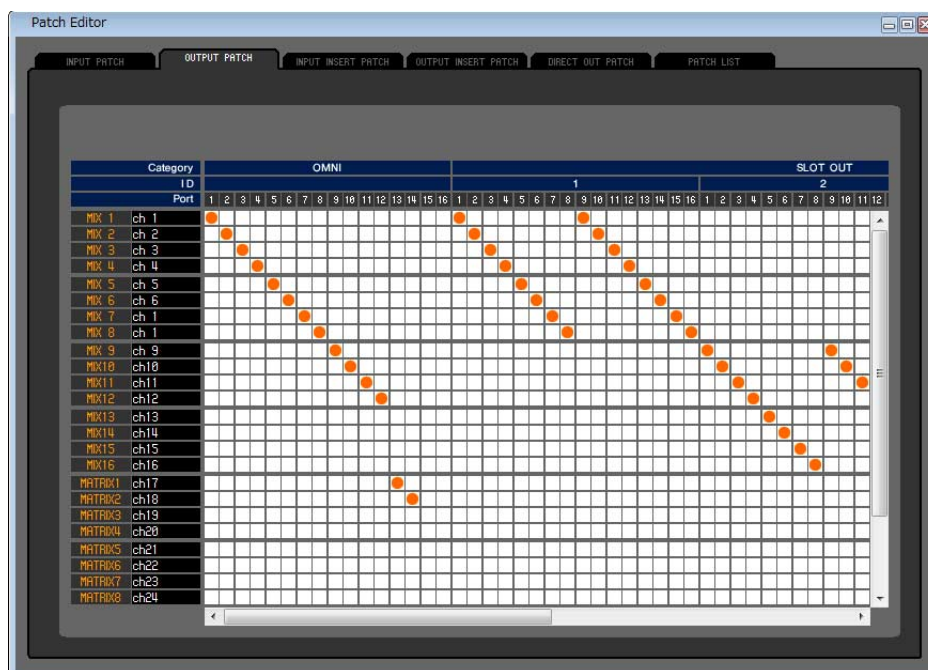
□ PRESET

このページのパッチが初期設定になります。

□ CLEAR ALL

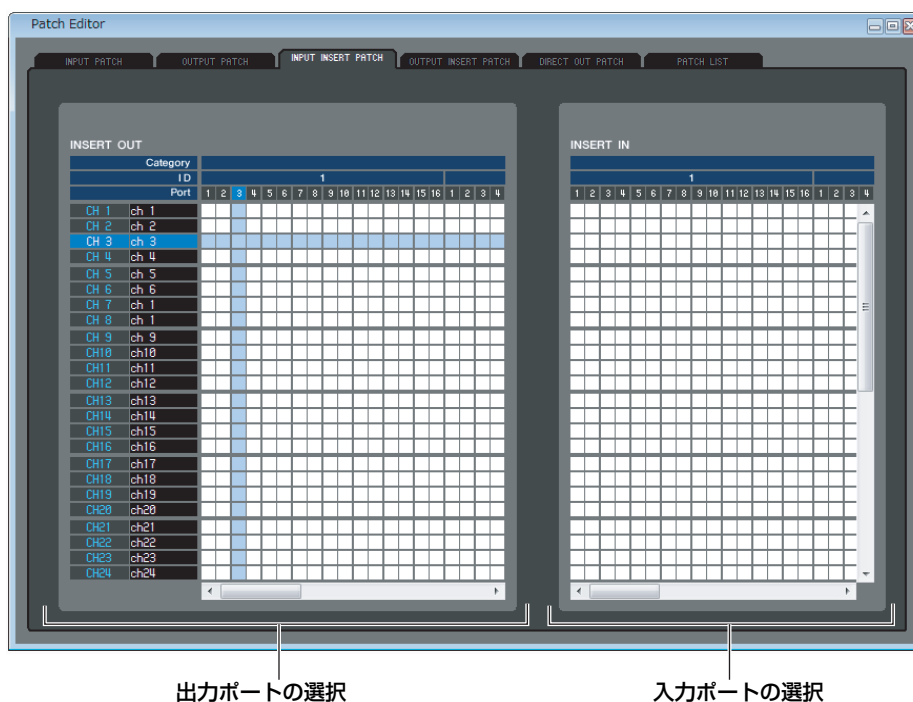
このページのパッチをすべてクリアします。

OUTPUT PATCH ページ



アウトプット系チャンネルの出力に割り当てる出力ポートを選択します。

INPUT INSERT PATCH ページ

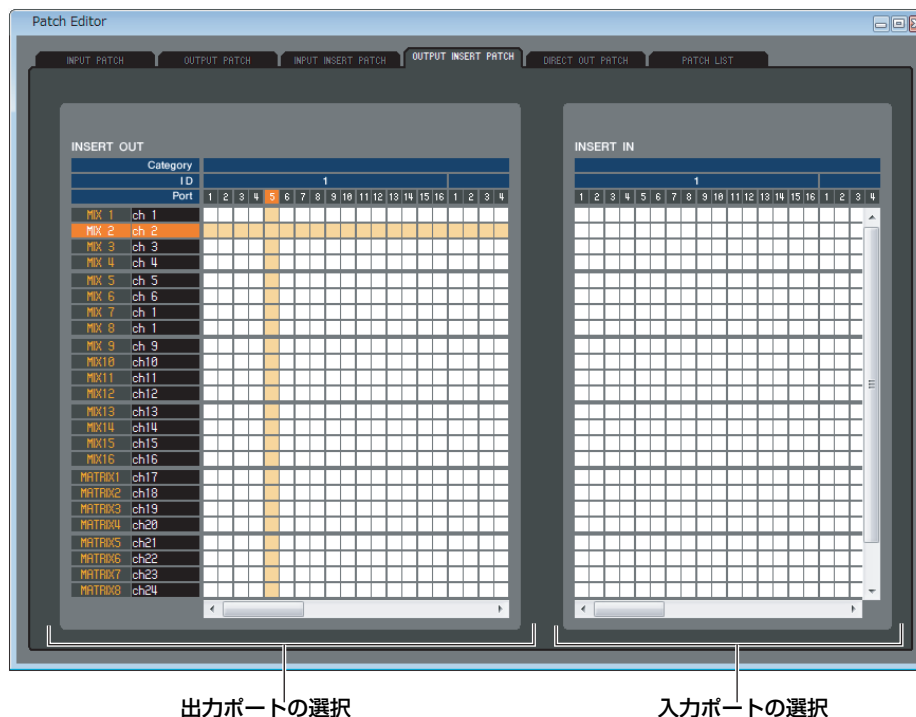


出力ポートの選択

入力ポートの選択

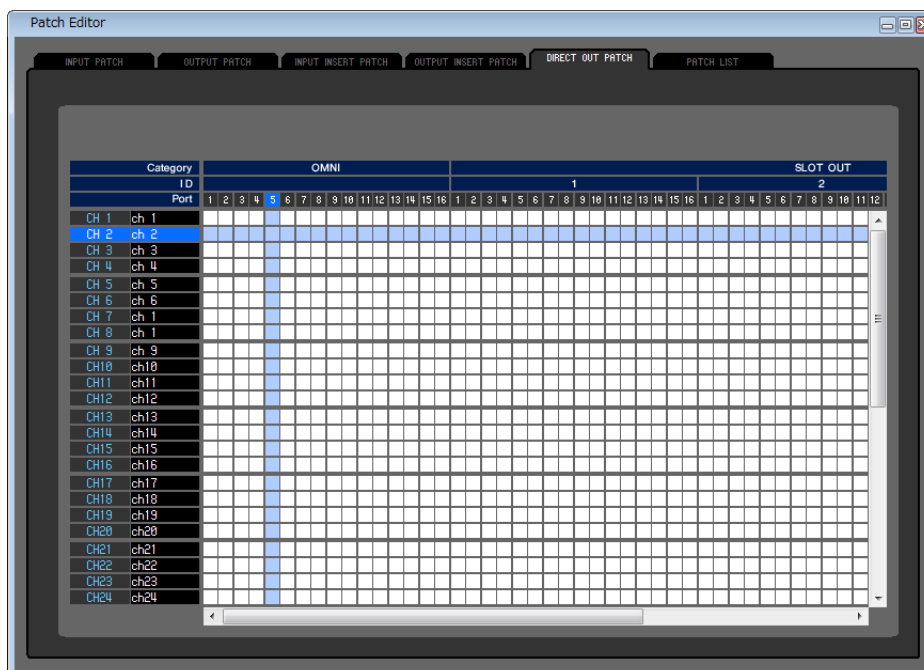
インプット系チャンネルのインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。画面左側では出力ポート、画面右側で入力ポートを選択します。

OUTPUT INSERT PATCH ページ

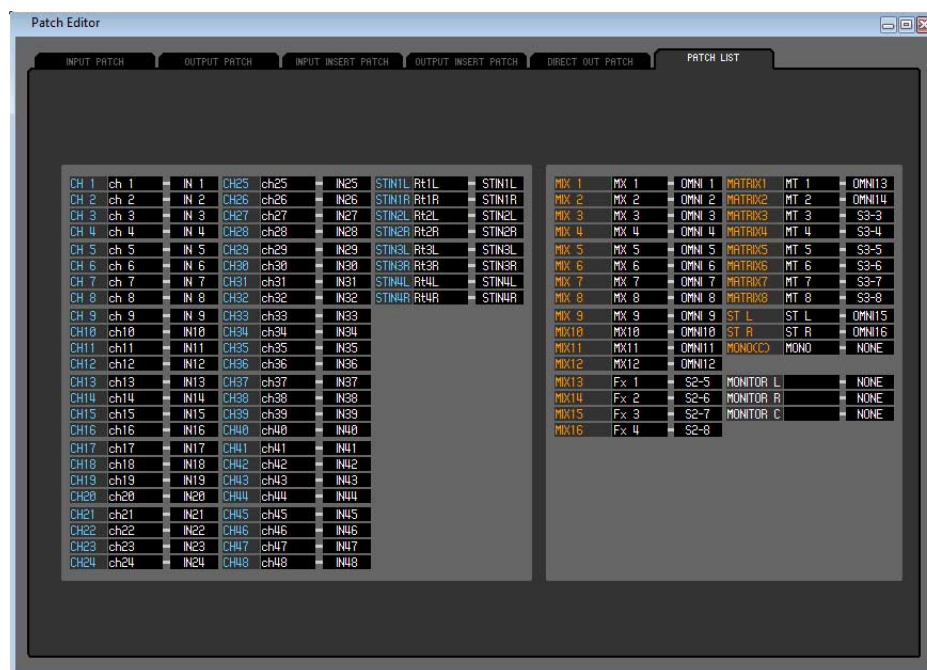


アウトプット系チャンネルのインサートイン / アウトに入出力ポートを割り当てます。画面左側では出力ポート、画面右側で入力ポートを選択します。

DIRECT OUTPUT PATCH ページ



インポート系チャンネルをダイレクト出力する出力ポートを選択します。



インプットパッチ / アウトプットパッチの一括表示 / 設定変更を行ないます。

CH 1	ch 1	IN 1	CH25	ch25	IN25	STIN1L Rt1L	STIN1L	MIX 1	MX 1	OMNI 1	MATRIX1	MT 1	OMNI13
CH 2	ch 2	IN 2	CH26	ch26	IN26	STIN1R Rt1R	STIN1R	MIX 2	MX 2	OMNI 2	MATRIX2	MT 2	OMNI14
CH 3	ch 3	IN 3	CH27	ch27	IN27	STIN2L Rt2L	STIN2L	MIX 3	MX 3	OMNI 3	MATRIX3	MT 3	S3-3
CH 4	ch 4	IN 4	CH28	ch28	IN28	STIN2R Rt2R	STIN2R	MIX 4	MX 4	OMNI 4	MATRIX4	MT 4	S3-4

① インプット系チャンネル番号

② インプット系チャンネル名

インプット系チャンネルの番号と名前です。チャンネル名のボックスをクリックすれば、このページで名前を変更することもできます。

③ 入力ポート

インプット系チャンネルに割り当てられている入力ポートを表示します。このボックスをクリックし、表示されるポップアップメニューから入力ポートを指定することもできます。

④ アウトプット系チャンネル番号

⑤ アウトプット系チャンネル名

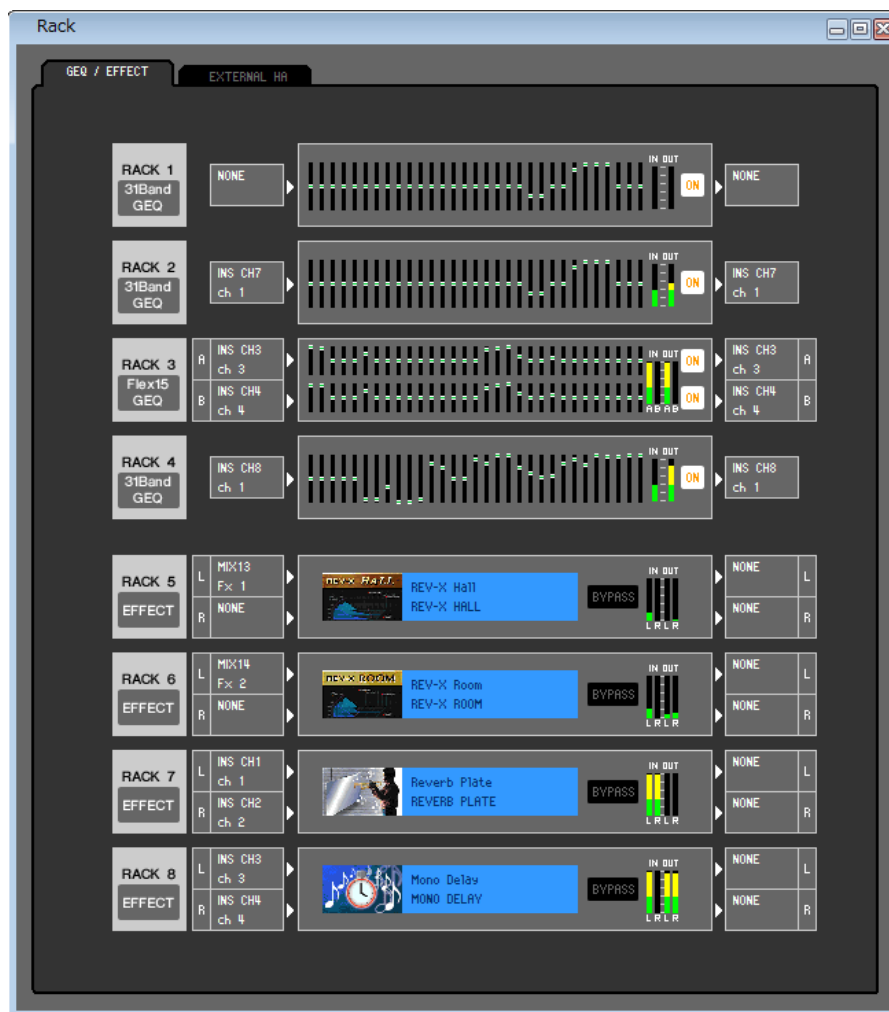
アウトプット系チャンネルの番号と名前です。チャンネル名のボックスをクリックすれば、このページで名前を変更することもできます。

⑥ 出力ポート

アウトプット系チャンネルに割り当てられている出力ポートを表示します。このボックスをクリックし、表示されるポップアップメニューから出力ポートを指定または解除することもできます。

NOTE 出力ポートは複数指定できます。

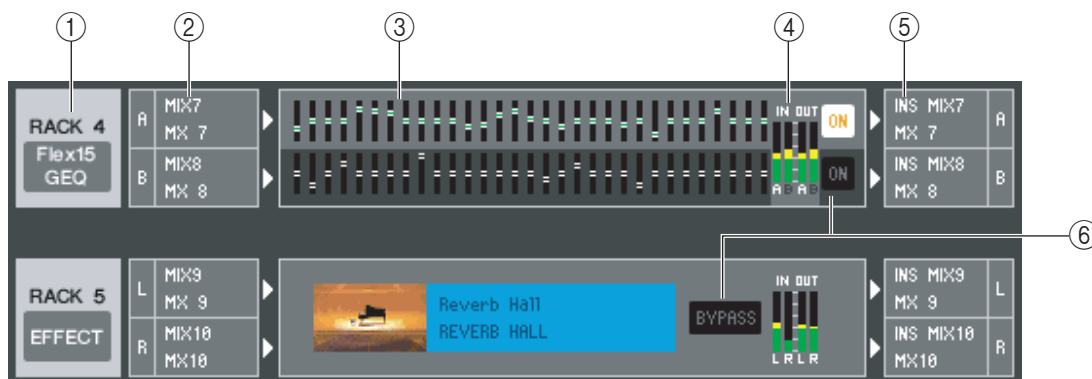
Rack ウィンドウ



GEQ やエフェクト、外部ヘッドアンプの設定を行ないます。

このウィンドウは、GEQ/EFFECT ページと EXTERNAL HA ページ (M7CL-32/48) または EXT-ES HA ページ (M7CL-48ES) に分かれており、ページを切り替えるにはウィンドウ上部のタブをクリックします。

GEQ/EFFECT ページ



① マウント

ラックにマウントする GEQ モジュールやエフェクトモジュールを次の中から選択します。

BLANK	割り当てなし
31BandGEQ	31 バンド 1IN/1OUT のグラフィックイコライザー
Flex15GEQ	31 バンド中任意の 15 バンドが操作可能な 2IN/2OUT のグラフィックイコライザー
EFFECT	内蔵エフェクト (RACK5 ～ 8 の場合のみ)

② インプットパッチ

ラックに割り当てる入力ポートを次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16
MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8
ST L, ST R, MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ～ 8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートイン
INS ST L, INS ST R, INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

ラックに何もマウントされていないときは表示されません。

③ モジュールイメージ

ラックに割り当てられている GEQ モジュールやエフェクトモジュールのイメージとパラメーターを表示します。この画面でのパラメーター編集はできません。

ダブルクリックすると、そのラックのモジュールエディターが表示されます

コンピューターキーボード上の <Ctrl> キー (<⌘> キー) を押しながらダブルクリックすると、追加のラックモジュールエディターを複数開けます。この追加のエディターでは、ラックの選択ボタンが M7CL 本体の RACK のポップアップウィンドウと連動しません。

④ インプットメーター/ アウトプットメーター

ラックに入出力される信号のレベルを表示します。

⑤ アウトプットパッチ

ラックに割り当てる出力ポートを次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*)
STIN1L ～ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ～ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ～ 48(*)	INPUT CH 1 ～ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ～ 16	MIX チャンネル 1 ～ 16 のインサートアウト
INS MTRX1 ～ INS MTRX8	MATRIX チャンネル 1 ～ 8 のインサートアウト
INS ST L, INS ST R, INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネルの各インサートアウト

(*) INPUT INSERT33 ～ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

⑥ ON, BYPASS

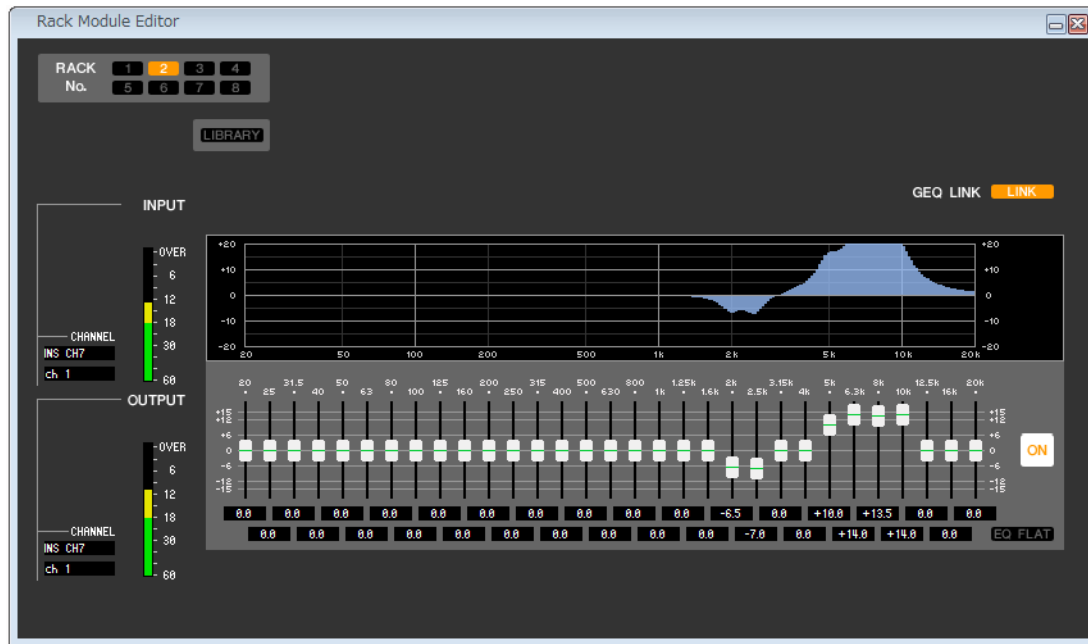
GEQ モジュールやエフェクトモジュールの有効 / 無効を切り替えます。

GEQ モジュールは ON ボタン点灯時に有効です。

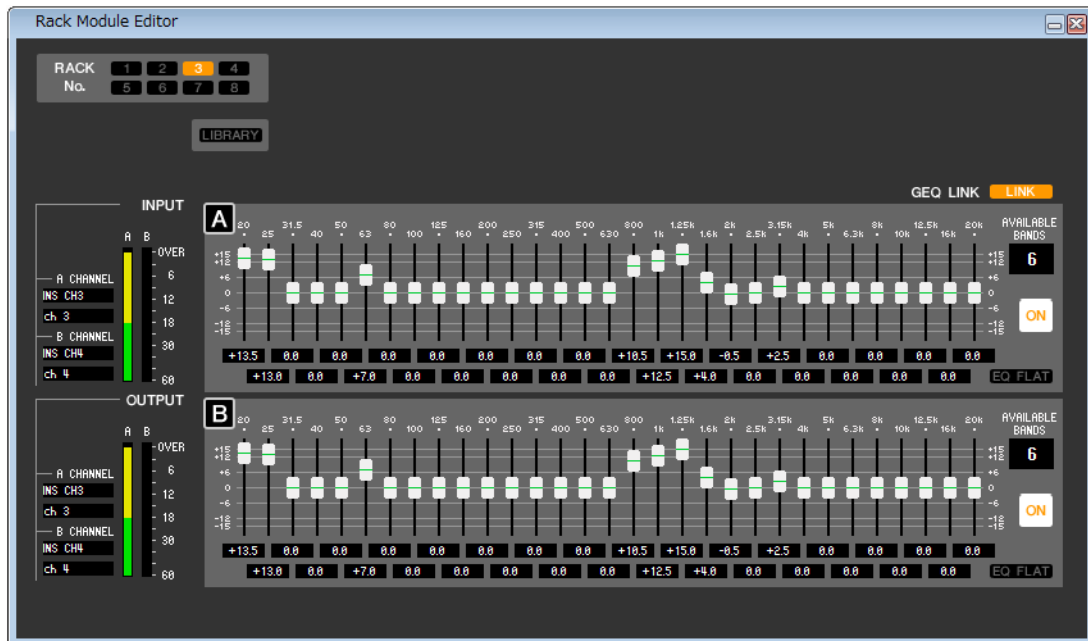
エフェクトモジュールは BYPASS ボタン消灯時に有効です。

ラックモジュールエディターGEQ 画面

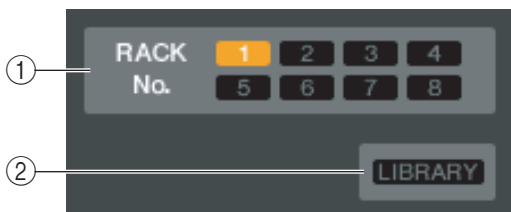
● 31BandGEQ



● Flex15GEQ



GEQ の挿入先の選択や、各種パラメーターの設定を行ないます。

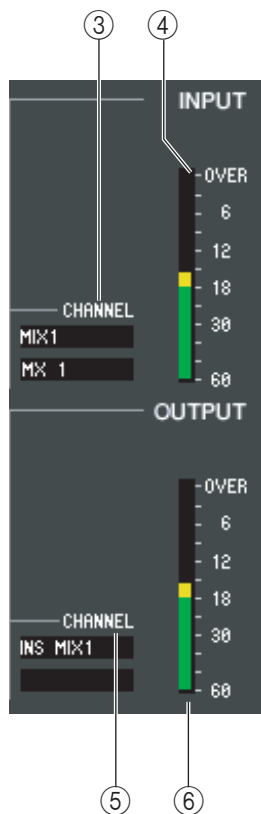


① RACK No.(ラック選択)

操作の対象となるラックを選びます。

② LIBRARY

GEQ ライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの GEQ ページが開きます。



③ インプットパッチ

CHANNEL 欄をクリックし、現在選ばれている GEQ モジュールの入力チャンネルにパッチする信号経路を、次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16
MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8
ST L, ST R, MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネル
INS CH 1 ~ 48(*)	INPUT CH 1 ~ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8 のインサートイン
INS ST L, INS ST R, INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ~ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

④ インプットメーター

現在選ばれている GEQ モジュールに入力されている信号のレベルを表示します。

⑤ アウトプットパッチ

CHANNEL 欄をクリックし、現在選ばれている GEQ モジュールの出力チャンネルにパッチする信号経路を、次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ~ 48(*)	INPUT CH 1 ~ 48(*)
STIN1L ~ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ~ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ~ 48(*)	INPUT CH 1 ~ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16 のインサートアウト
INS MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8 のインサートアウト
INS ST L, INS ST R, INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R, MONO チャンネルの各インサートアウト

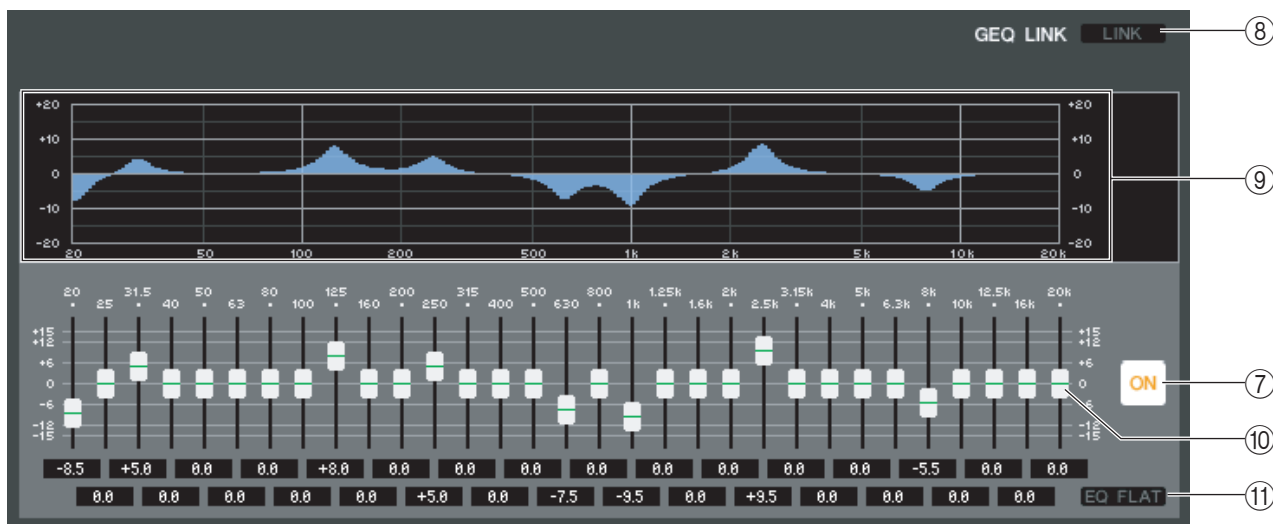
(*) INPUT INSERT33 ~ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

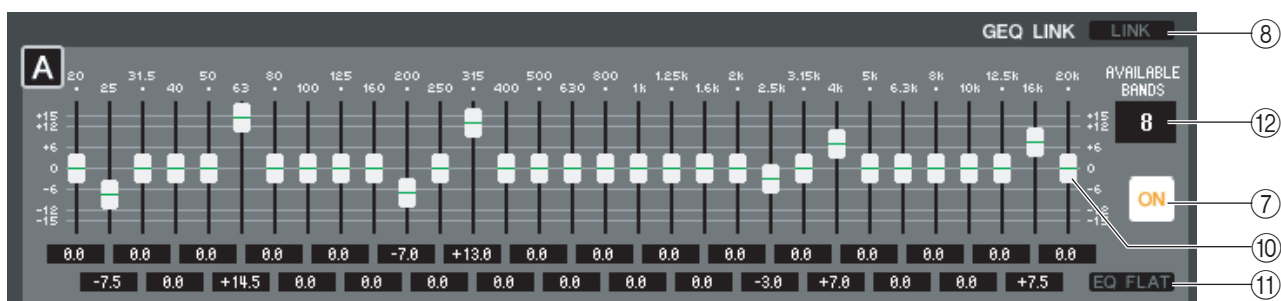
⑥ アウトプットメーター

現在選ばれている GEQ モジュールに出力されている信号のレベルを表示します。

● 31BandGEQ



● Flex15GEQ



⑦ ON(GEQ オン / オフ)

現在選ばれている GEQ モジュールのオン / オフを切り替えます。

⑧ LINK

奇数 / 偶数番号の順で隣り合った2つの 31BandGEQ モジュールの設定や、Flex15GEQ の A グループと B グループの設定を連動させるボタンです。このボタンをクリックすると、動作を確認するウィンドウが表示されます。パラメーターのコピー元 / コピー先になるモジュールに該当するボタンをクリックします。RESET BOTH ボタンをクリックすると、両方のモジュールのパラメーターが初期値にリセットされます。

⑨ GEQ グラフ

現在選ばれている GEQ モジュールの特性を表示するグラフです。

⑩ GEQ フェーダー

GEQ モジュールの各帯域をブースト / カットするフェーダーです。各フェーダーの設定値は、下の数値ボックスで確認できます。<Ctrl> キー(<⌘> キー)を押しながらクリックすると 0.00dB になります。

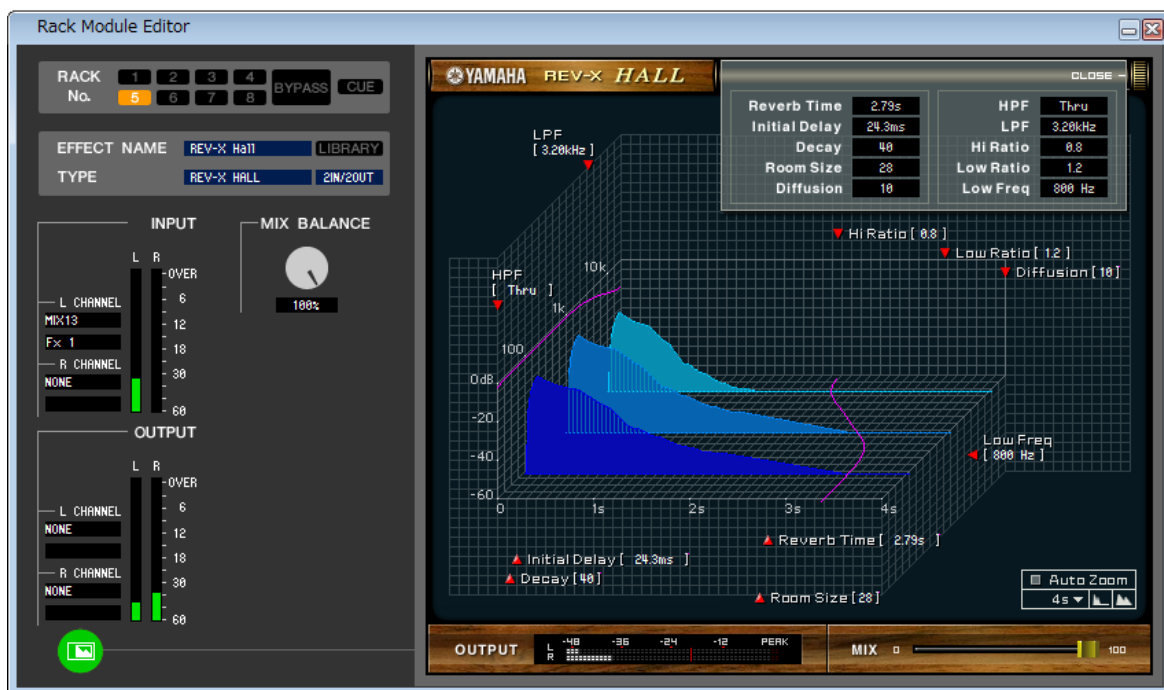
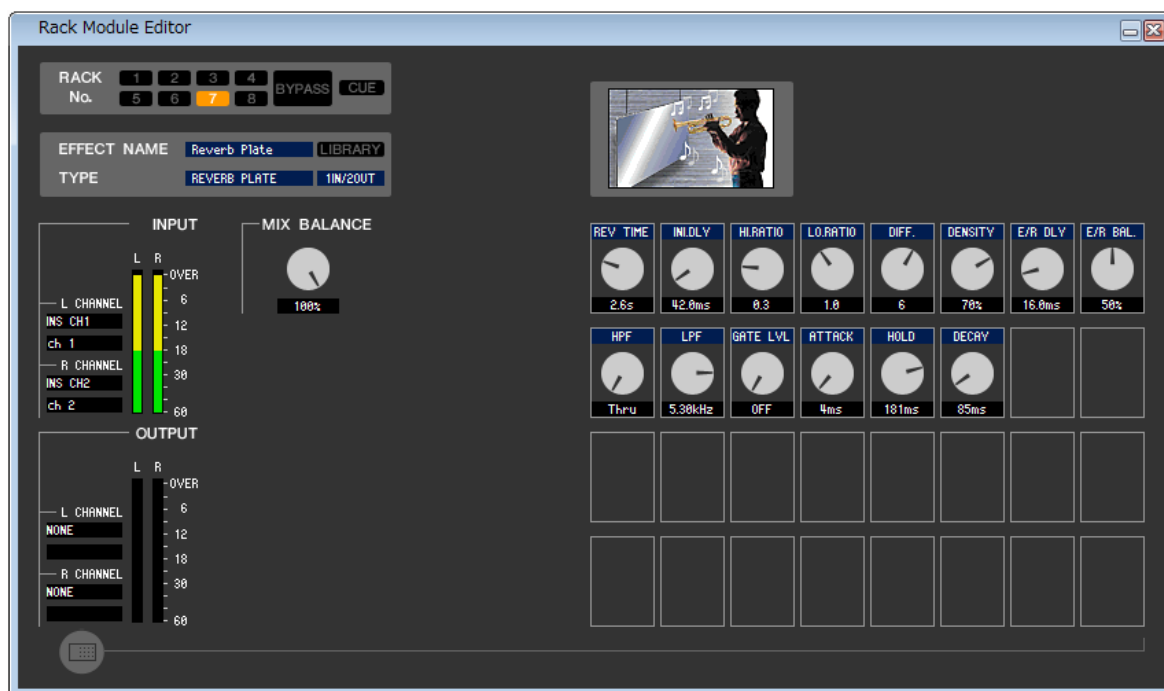
⑪ EQ FLAT

すべての GEQ フェーダーを 0dB の位置にリセットするボタンです。

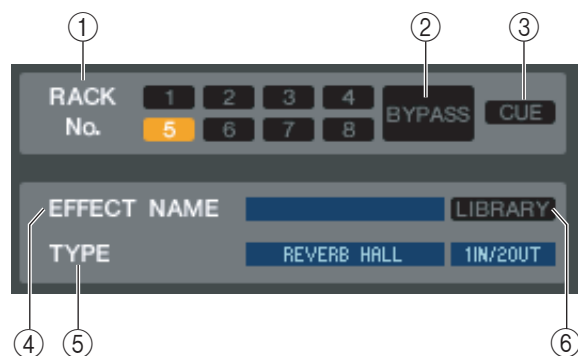
⑫ AVAILABLE BANDS(操作可能バンド数)(Flex15GEQ のみ)

Flex15GEQ で操作できる帯域は、31 バンドのうちの任意の 15 バンドです。この数値表示ボックスには、操作可能なバンドの残数が表示されています。15 バンド操作するとこの数字はゼロになり、それ以上新たなバンドを操作することはできません。この状態から他の帯域を操作するには、操作済みのバンドを 0dB に戻してから操作してください。

ラックモジュールエディターエフェクト画面



内蔵エフェクトのエフェクトタイプ選択、パラメーターの変更、入出力のパッチングを行ないます。



① RACK No.(ラック選択)

操作の対象となるラックを選びます。

② BYPASS

エフェクトを一時的にバイパス状態にするボタンです。

③ CUE

現在選ばれているエフェクトの出力をキューモニターするボタンです。

④ EFFECT NAME(エフェクト名)

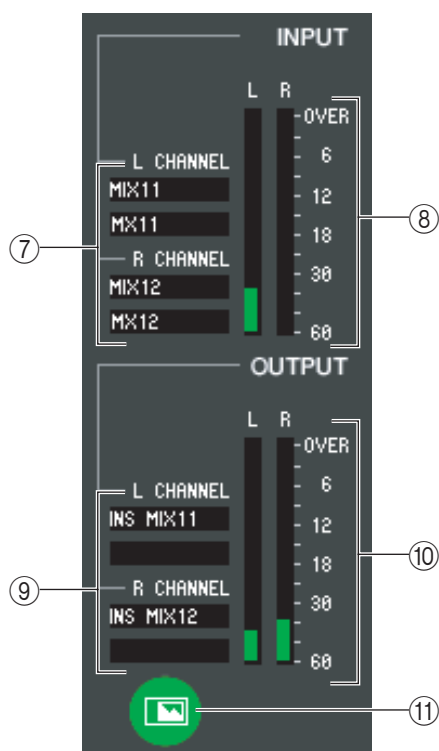
現在選ばれているエフェクトのタイトルを表示します。

⑤ EFFECT TYPE

現在選ばれているエフェクトタイプを表示します。また、このウィンドウでエフェクトタイプを切り替えることもできます。これを行なうには、テキストボックスをクリックして表示されるポップアップメニューから、新しいエフェクトタイプを選択します。

⑥ LIBRARY

エフェクトライブラリーを呼び出すためのボタンです。このボタンをクリックすると、LIBRARY ウィンドウの EFFECT ページが開きます。



⑦ インットパッチ

L CHANNEL、R CHANNEL 欄をクリックし、内蔵エフェクトの入力チャンネル L/R にパッチする信号経路を次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16
MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8
ST L、ST R、MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネル
INS CH 1 ~ 48(*)	INPUT チャンネル 1 ~ 48(*) のインサートイン
INS MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16 のインサートイン
INS MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8 のインサートイン
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートイン

(*) INPUT INSERT33 ~ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

⑧ インットメーター

内蔵エフェクトに入力されている信号のレベルを表示します。

⑨ アウトパッチ

L CHANNEL、R CHANNEL 欄をクリックし、内蔵エフェクトの出力チャンネル L/R にパッチする信号経路を次の中から選択します。

NONE	割り当てなし
CH 1 ~ 48	INPUT CH 1 ~ 48(*)
STIN1L ~ STIN4R	ST IN チャンネル 1 ~ 4 の L/R チャンネル
INS CH 1 ~ 48(*)	INPUT CH 1 ~ 48(*) のインサートアウト
INS MIX 1 ~ 16	MIX チャンネル 1 ~ 16 のインサートアウト
INS MATRIX1 ~ 8	MATRIX チャンネル 1 ~ 8 のインサートアウト
INS ST L、INS ST R、INS MONO(C)	STEREO チャンネル L/R、MONO チャンネルの各インサートアウト

(*) INPUT INSERT33 ~ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

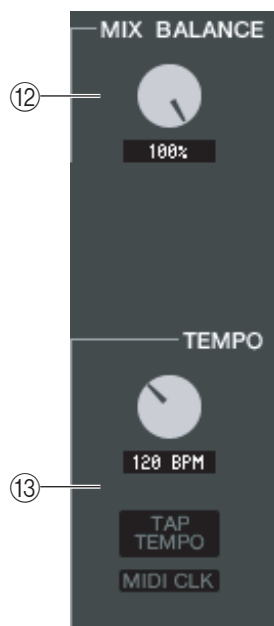
すぐ下のボックスにはチャンネルの名前が表示されます。

⑩ アウトプットメーター

内蔵エフェクトから出力されている信号のレベルを表示します。

⑪ パラメーター表示切り替えボタン

エフェクトタイプとして“046 REV-X Hall”、“047 REV-X ROOM”、“048 REV-X PLATE”または VCM エフェクトのいずれかが選ばれているときに、一般的なパラメーター画面と専用の GUI 画面を切り替えます。

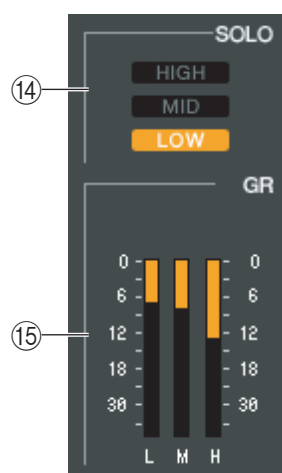


⑫ MIX BALANCE

原音に対するエフェクト音のバランスを調節します。0(%) で原音のみ、100(%) でエフェクト音のみが出力されます。

⑬ TEMPO

ディレイ系または変調系エフェクトタイプが選ばれているときに、DELAY(ディレイタイム)パラメーターや、FREQ.(変調速度)パラメーターなど時間関連のパラメーターを調節します。TEMPO パラメーターの値を設定するには、数値ボックスに BPM(1 分間あたりの拍数)の値を入力するか、TAP TEMPO ボタンを希望するテンポに合わせて連続してクリックします。また、MIDI CLK ボタンがオンのときは、MIDI ポートから入力されている MIDI タイミングクロックに TEMPO パラメーターの値が同期します。

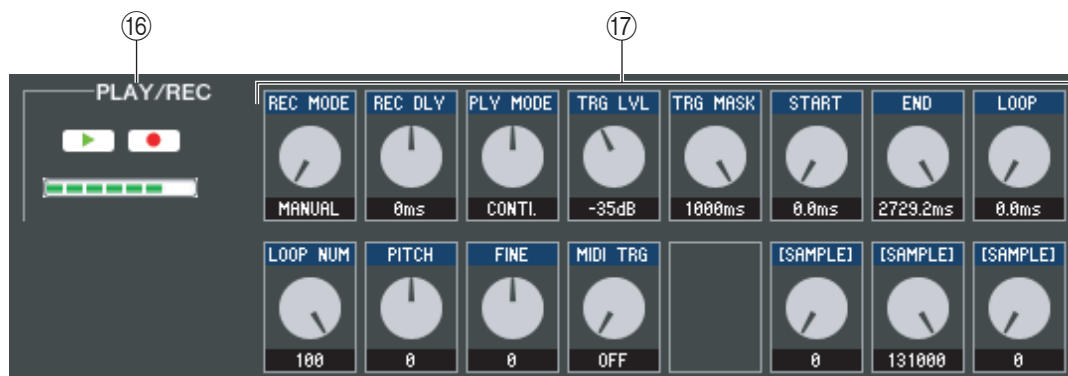


⑭ SOLO

エフェクトタイプとして“044 M.BAND DYNA”または“045 M.BAND COMP”が選ばれているときに、HIGH、MID、LOW の 3 バンドの中から特定のバンドのみをモニターするためのボタンです。

⑮ GR メーター

エフェクトタイプとして“044 M.BAND DYNA”または“045 M.BAND COMP”が選ばれているときに、H(HIGH)、M(MID)、L(LOW)のバンドごとのゲインリダクション量を表示します。

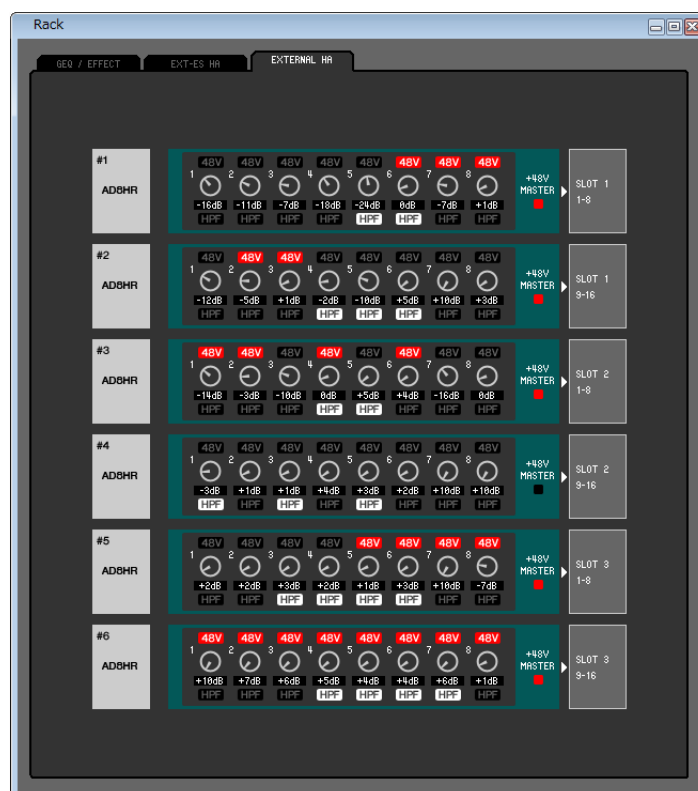


⑯ PLAY/REC(再生 / 録音) ボタン

エフェクトタイプとして“042 FREEZE”が選ばれているときに、エフェクトに入力されている信号の録音 / 再生を行いません。

⑰ エフェクトパラメーター

現在選ばれているエフェクトタイプに応じたエフェクトパラメーターとそれに対応するノブが表示されます。



NOTE EXT-ES HA ページには VIEW 切り替えボタンがあります。バーチャルラックを SB168-ES 用とその他 (AD8HR) に切り替えます。SB168-ES のみを接続している場合は、SB168-ES 用の表示にしてください。



① 外部 HA 名表示

現在接続されている外部ヘッドアンプ機器のモデル名を ID 番号ごとに表示します。

② GAIN

チャンネルごとのゲインを設定します。現在の設定値は、下のボックスで確認できます。

③ 48V

チャンネルごとのファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

④ HPF (ハイパスフィルター)

チャンネルごとの HPF のオン / オフを切り替えます。

⑤ +48V MASTER

マスターファンタム電源のオン / オフ状態を表示します

⑥ スロット / チャンネル

外部ヘッドアンプ機器のオーディオ出力が接続されているスロット / チャンネルを次の中から選択します。M7CL-48ES の EXT-ES HA では変更できません。

NONE	SLOT3 1-8
SLOT1 1-8	SLOT3 9-16
SLOT1 9-16	
SLOT2 1-8	
SLOT2 9-16	

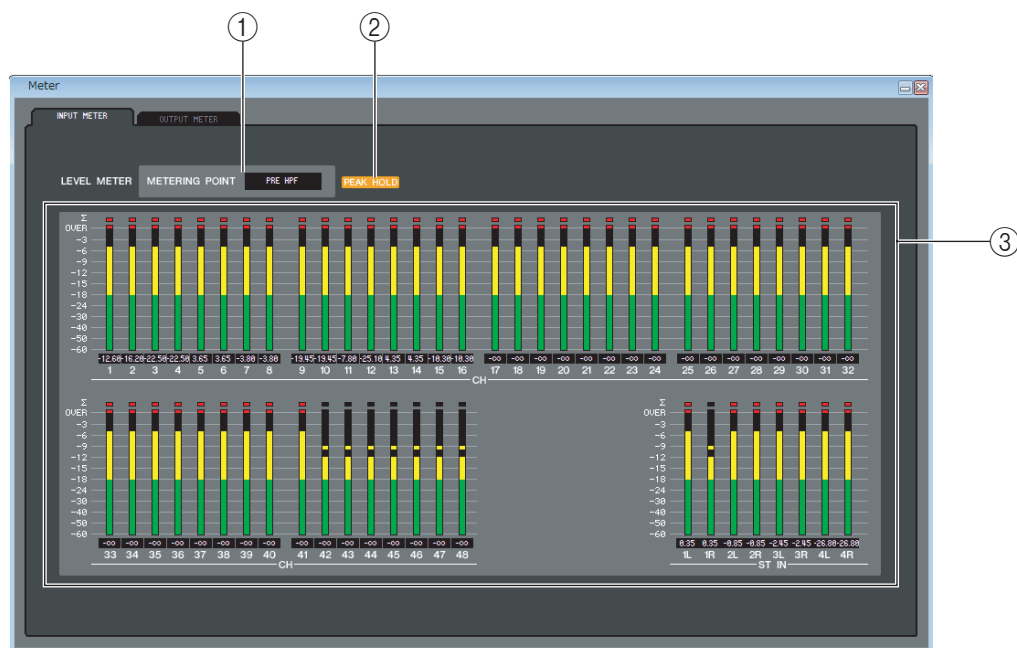
Meter ウィンドウ

M7CL 内の各部の信号レベルを表示します。信号の有無、オーバーロードの有無を確認できます。

このウィンドウは INPUT METER、OUTPUT METER に分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

NOTE Meter ウィンドウに M7CL 本体の信号レベルを表示させるには、M7CL Editor と M7CL 本体が同期していることを確認してください。

INPUT METER ページ



① METERING POINT

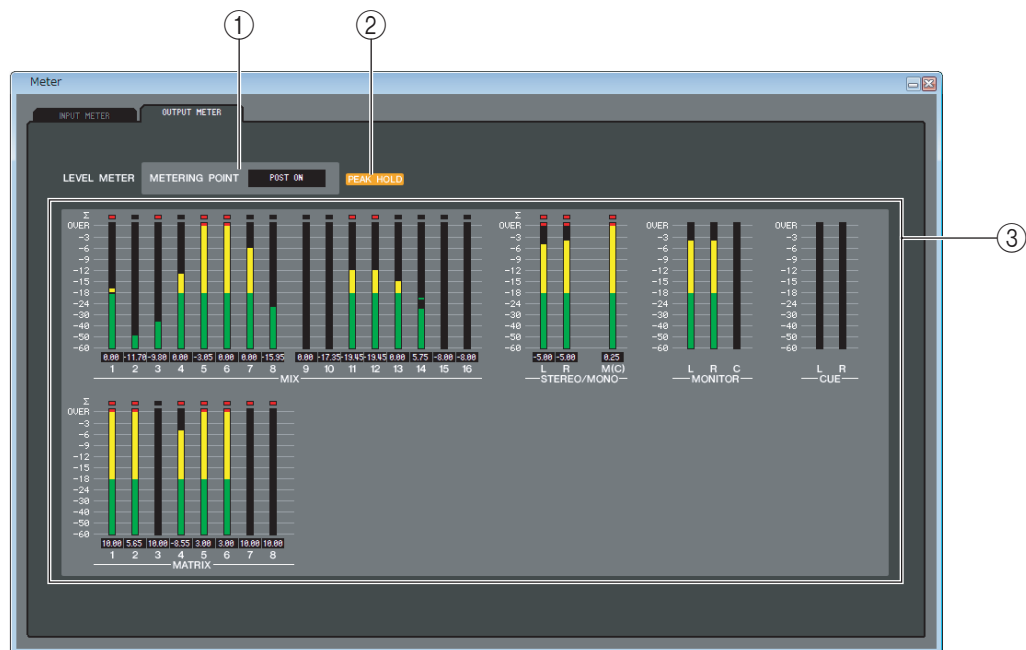
メーター表示するポイントを次の中から選択します。
PRE HPF、PRE FADER、POST ON

② PEAK HOLD

ピークホールドのオン / オフを設定します。

③ メーター

各チャンネルの入力レベルを表示するピークレベルメーターです。現在のフェーダーの値を下のボックスで確認できます。
各チャンネルにある複数の検出ポイントのうち 1 箇所でもクリップすると、Σ のセグメントが点灯します



① METERING POINT(メータリングポイント)

メーター表示するポイントを次の中から選択します。
PRE EQ、PRE FADER、POST ON

② PEAK HOLD

INPUT METER ページと共通です。

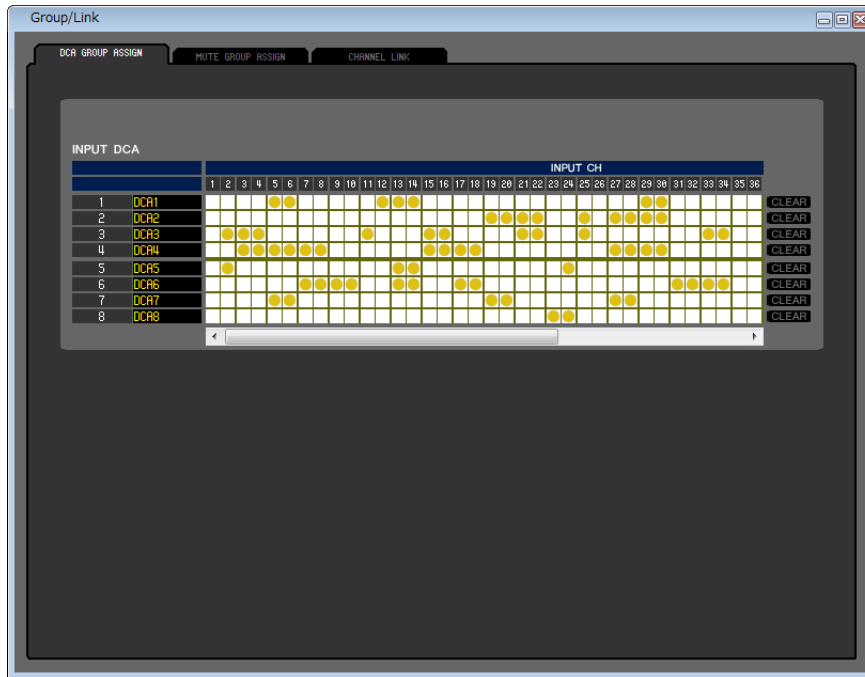
③ メーター

INPUT METER ページと共通です。

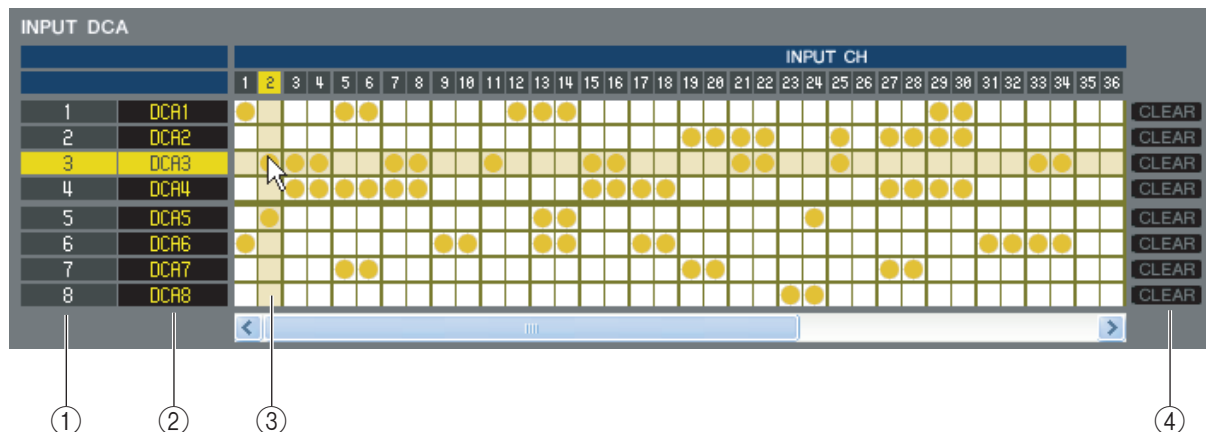
Group/Link ウィンドウ

DCA グループ、ミュートグループに割り当てるチャンネルを選択します。DCA GROUP ASSIGN ページと MUTE GROUP ASSIGN ページと Channel Link ページの 3 ページに分かれています。

DCA GROUP ASSIGN ページ



DCA グループ 1 ～ 8 に割り当てるチャンネルを指定します。



① DCA グループ

DCA グループの番号です。

② DCA グループ名

DCA グループの名称です。この部分をマウスでクリックして名称を変更することもできます。

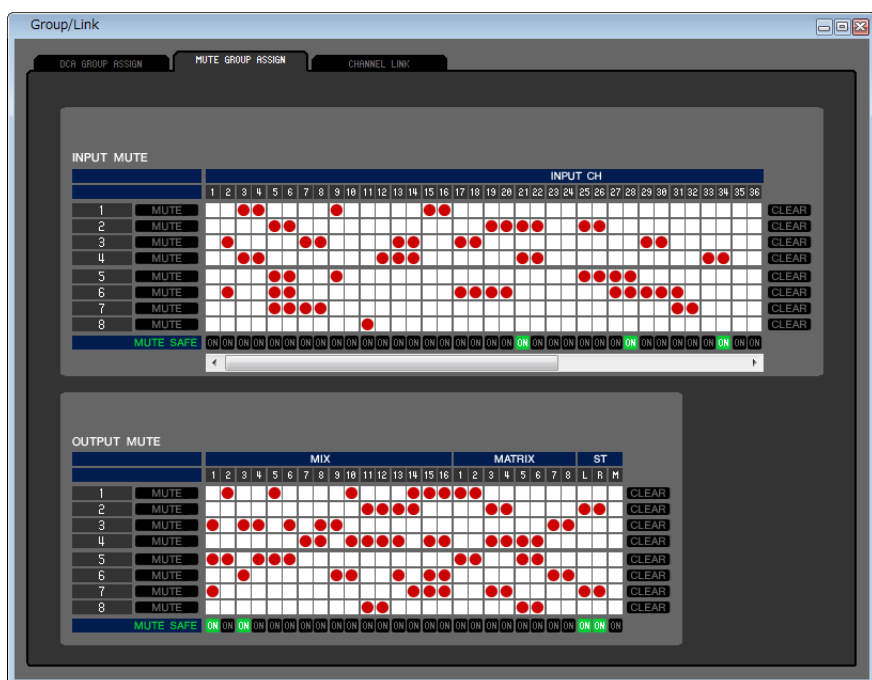
③ グリッド

チャンネル (横列) を DCA グループ (縦列) に割り当てるグリッドです。現在パッチされているグリッドには、●の印が表示されます。任意のグリッドをクリックすることで、割り当ての設定 / 解除が切り替わります。

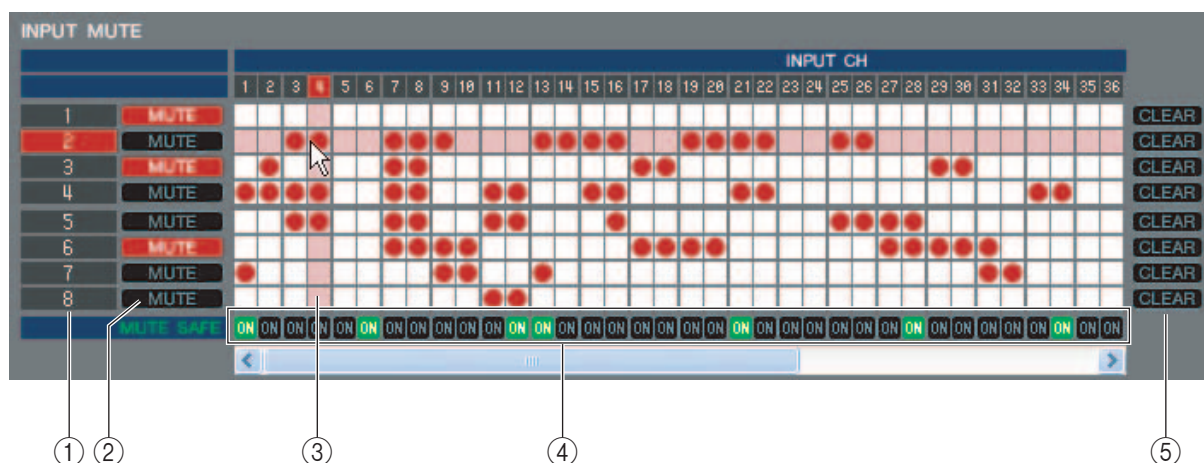
④ CLEAR

DCA グループに割り当てられたチャンネルを、一括して解除するボタンです。このボタンをクリックすると、確認のウィンドウが表示されます。解除を実行するには、OK ボタンをクリックしてください。

MUTE GROUP ASSIGN ページ



ミュートグループ 1 ～ 8 に割り当てるチャンネルを指定します。画面上部でインプット系チャンネル、画面下部でアウトプット系チャンネルをミュートグループに割り当てます。



① ミュートグループ

ミュートグループの番号です。

② MUTE MASTER

インプット系チャンネル / アウトプット系チャンネルのミュートグループごとに、有効 / 無効を切り替えるボタンです。

③ グリッド

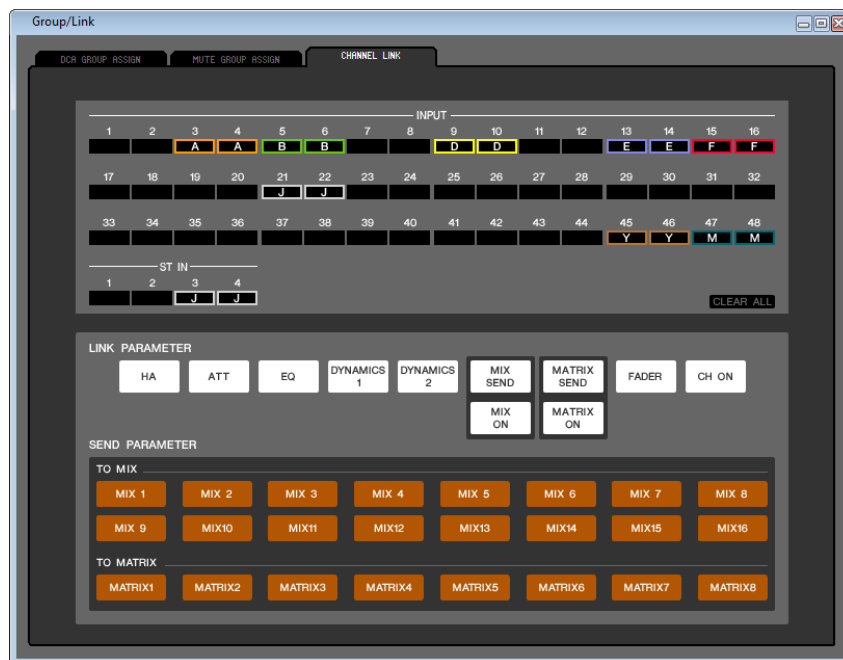
チャンネル (横列) をミュートグループ (縦列) に割り当てるグリッドです。現在パッチされているグリッドには、 の印が表示されます。任意のグリッドをクリックすることで、割り当ての設定 / 解除が切り替わります。

④ MUTE SAFE ON

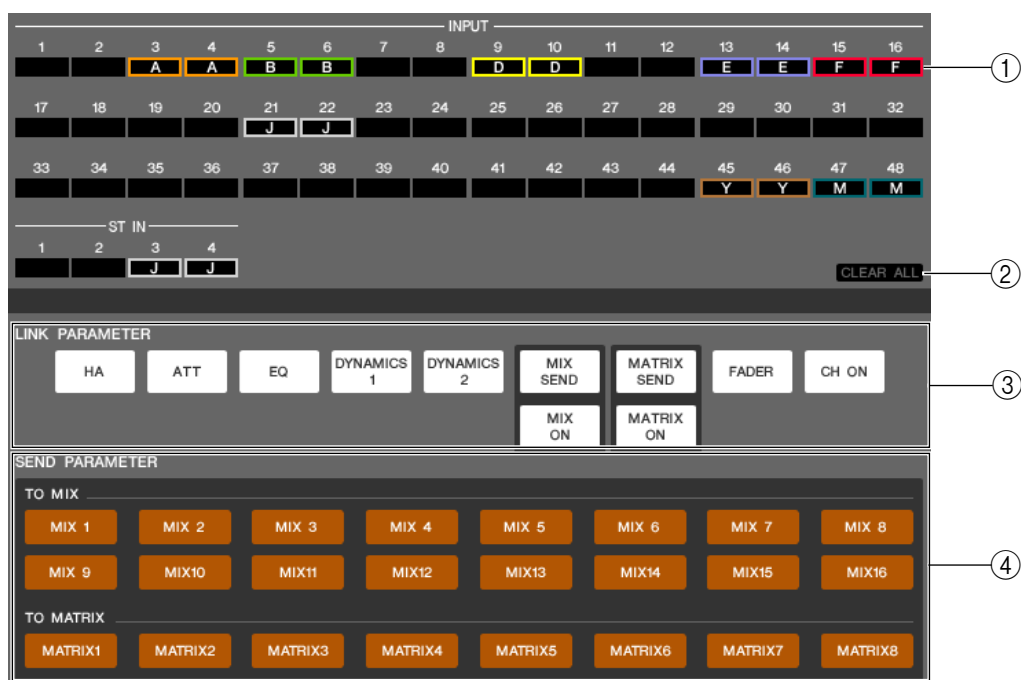
チャンネルごとにミュートセーフのオン / オフを設定します。このボタンをオンにしたチャンネルは、ミュートグループから除外されます。

⑤ CLEAR

ミュートグループに割り当てられたインプット系チャンネル / アウトプット系チャンネルを、一括して解除するボタンです。このボタンをクリックすると、確認のウィンドウが表示されます。解除を実行するには、OK ボタンをクリックしてください。



入力チャンネルをリンクすると、複数チャンネルのパラメーターが連動して動作します。



① リンクボタン

入力チャンネルに割り当てるリンクグループ A ~ Z(*) を選択します。リンクしない場合は NONE を選択します。INPUT CH 1 ~ 48 で 24(*) グループ、ST IN チャンネルで 2 グループまで割り当てできます。

(*) オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-32 を選択しているとき、M7CL-32 とオンラインで編集しているときは、INPUT CH 1 ~ 32 で 16 グループまで割り当て可能で、リンクグループとして A ~ R を選択できます。

② CLEAR ALL

すべてのチャンネルのリンクを解除します。

③ LINK PARAMETER

リンクさせるパラメーターを選択します。

HA	ヘッドアンプゲインとファンタム電源の設定
ATT	アッテネーターの値
EQ	イコライザーの設定
DYNAMICS1	ダイナミクス 1 の設定
DYNAMICS2	ダイナミクス 2 の設定
MIX SEND	入力チャンネルから MIX バスに送るセンド量
MIX ON	MIX SEND のオン / オフ
MATRIX SEND	入力チャンネルから MATRIX バスに送るセンド量
MATRIX ON	MATRIX SEND のオン / オフ
FADER	フェーダーレベル値
CH ON	入力チャンネルモジュール出力のオン / オフ

(*) INPUT CH 33 ~ 48 は、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ操作可能です。

NOTE "HA" または "FADER" では、チャンネル間でレベル差を保ったまま連動します。

④ SEND PARAMETER

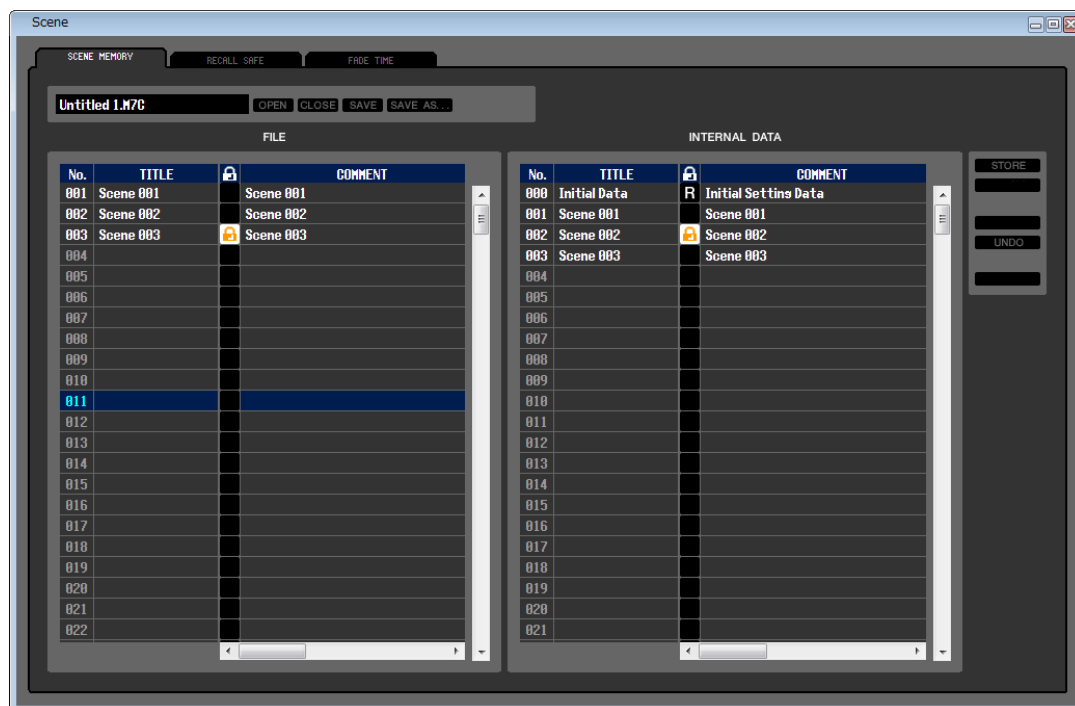
MIX/MATRIX SEND のバスごとにリンクの設定をします。

Scene ウィンドウ

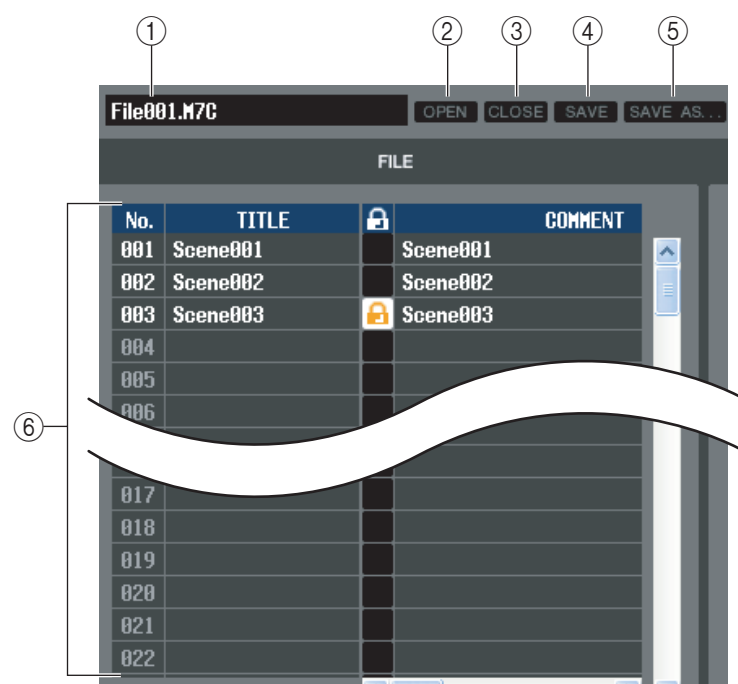
シーンメモリーの管理や、シーンのリコール時の動作に関する各種設定を行ないます。

このウィンドウは、SCENE MEMORY、RECALL SAFE、FADE TIME の各ページに分かれています。ページを切り替えるには、ウィンドウ上部のタブをクリックします。

SCENE MEMORY ページ



M7CL 本体のシーンメモリーを編集します。また、USB 記録装置やコンピューターのドライブに保存されているシーンライブラリーのファイルを読み込み、編集することもできます。この場合は編集した後ですべてのシーンをファイルに保存し直したり、任意のシーンをリコールしたり、任意のシーンを M7CL 本体のシーンメモリーにコピーしたりできます。



① ファイル名

現在開かれているシーンライブラリーのファイル名を表示します。

② OPEN(ファイルを開く)

コンピューターのドライブ上にあるシーンライブラリーのファイルを開きます。

③ CLOSE(ファイルを閉じる)

現在開かれているシーンライブラリーのファイルを閉じます。

④ SAVE(保存)

現在開かれているシーンライブラリーのファイルをコンピューターのドライブに保存します。

⑤ SAVE AS(別名で保存)

現在開かれているシーンライブラリーのファイル名を変えて、コンピューターのドライブに保存します。

⑥ FILE(ファイル)

OPEN ボタン (②) を使って開いたファイルに含まれるシーンの設定内容を表示します。リストに含まれる項目は、次のとおりです。

HINT 現在見えていない項目を表示させるには、リストを右にスクロールさせます。

⑦ No.	⑧ TITLE	⑨ PROTECT	⑩ COMMENT	⑪ FOCUS							⑫ TIME STAMP	⑬ FADING	⑭ FADE TIME
000	Initial Data	R	Initial Settings Data	ALL	RACK	HA	IN PATCH	OUT PATCH	IN	OUT			0.0s
001	Scene001		Scene001	ALL	RACK	HA	IN PATCH	OUT PATCH	IN	OUT	08/01/2005 00:00:00	FADING	21.9s
002	Scene002		Scene002	ALL	RACK	HA	IN PATCH	OUT PATCH	IN	OUT	08/01/2005 00:00:00	FADING	21.9s
003	Scene003		Scene003	ALL	RACK	HA	IN PATCH	OUT PATCH	IN	OUT	08/01/2005 00:00:00	FADING	21.9s
004													
005													
006													
007													
008													
009													
010													

⑦ No.

シーン番号です。

⑧ TITLE

シーンのタイトルです。この部分をダブルクリックして、タイトルを編集することもできます。

⑨ PROTECT

シーンごとのプロテクトのオン / オフ表示です。プロテクトのかかったシーンは、この欄にカギのアイコンが表示され、上書き保存やタイトルの変更ができません。また、読み込み専用のシーンは、この欄に“R”と表示されます。

⑩ COMMENT(コメント)

シーンごとに付けられたコメントを表示します。この欄をダブルクリックしてコメントを編集することもできます。

⑪ FOCUS(フォーカス)

シーンリコールでリコールされるパラメーターを次の中から選択します。ALL を選択すると他のボタンは選択できませんが、ALL 以外は複数選択できます。

ALL	シーンに含まれる全ての設定をリコールします
RACK	GEQ と内蔵エフェクトの設定をリコールします
HA	内蔵ヘッドアンプと外部ヘッドアンプの設定をリコールします
IN PATCH	インプットパッチの設定をリコールします
OUT PATCH	アウトプットパッチの設定をリコールします
IN	INPUT 系チャンネル (INPUT、ST IN、DCA) のヘッドアンプ以外の設定をリコールします
OUT	OUTPUT 系チャンネル (MIX、MATRIX、STEREO/MONO) の設定をリコールします
WITH SEND(*)	OUTPUT 系チャンネルへのセンドの設定をリコールします

(*)OUT が選択されたときのみ選択可能です

⑫ TIME STAMP

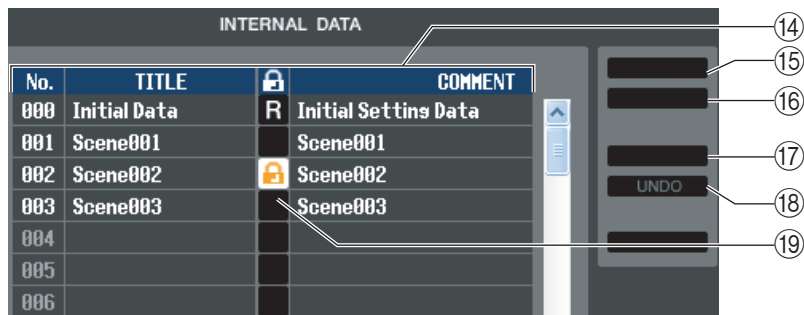
シーンが最後にストアされた時間を月 / 日 / 年 / 時 / 分 / 秒単位で表示します。この欄は表示のみで、変更はできません。

⑬ FADING

シーンごとの FADING のオン / オフを切り替えます。

⑭ FADE TIME

シーンごとの FADE TIME を表示します。この欄をダブルクリックして FADE TIME を編集することもできます。



⑮ INTERNAL DATA

M7CL 本体のシーンメモリーの内容を表示します。表示される項目は、FILE リスト (⑥) と共通です。

必要に応じて、単一のシーンまたは複数のシーンを、FILE リストと INTERNAL DATA リストとの間で相互にコピーしたり、同一リスト内で別の位置にコピーまたは移動したりできます。

⑯ STORE(ストア)

リスト内の選択したシーンに現在の設定をストアします。

⑰ RECALL(リコール)

リスト内の選択したシーンの設定をリコールします。

⑱ CLEAR(クリア)

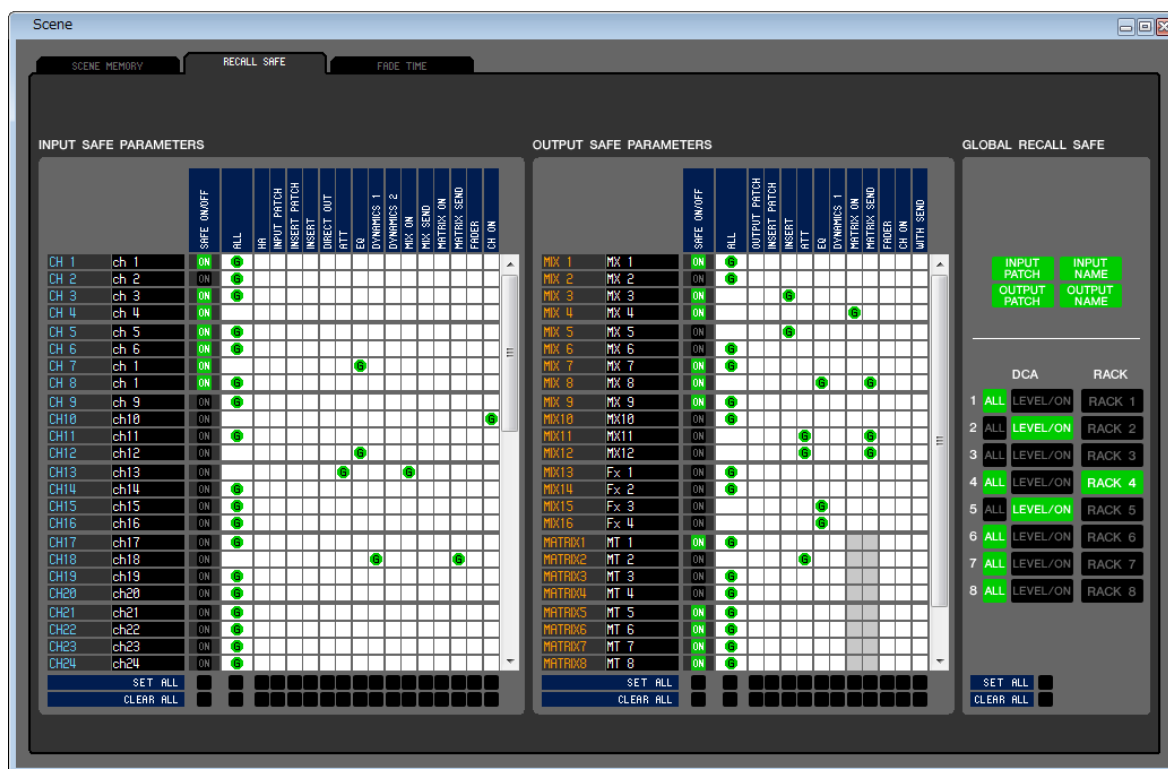
リスト内で選択した単一シーン、または複数のシーンを消去します (消去されたシーンは、タイトルが [No Data!] に戻ります)。

⑲ UNDO(アンドゥ)

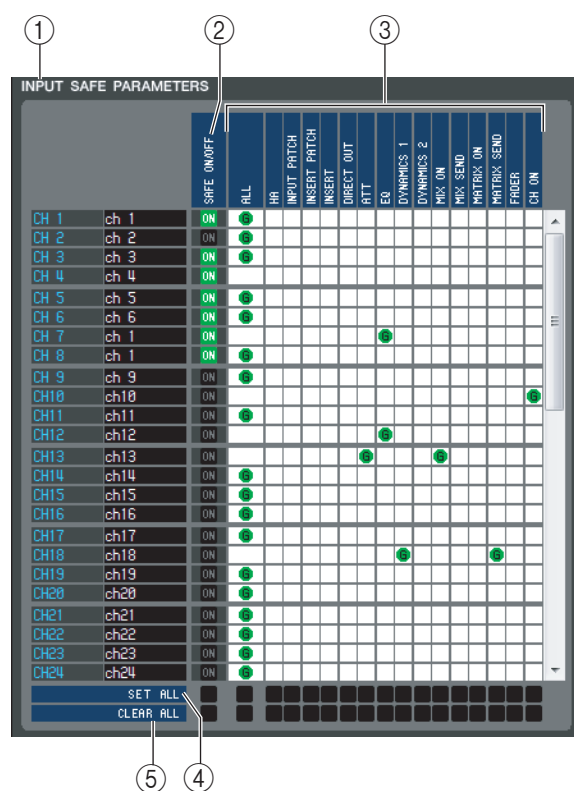
最後に行なったシーンのリコール、ストア、コピー、移動操作を取り消します。

⑳ PROTECT(プロテクト)

リスト内で選択した単一シーン、または複数のシーンにプロテクトをかけます。



すべてのシーンで特定のチャンネルのみをリコール操作から除外するリコールセーフ機能に関する設定を行ないます。



①INPUT SAFE PARAMETERS(インプットセーフパラメーターズ)

インプットチャンネルと ST IN チャンネルのリコールセーフ機能の一括表示 / 設定変更を行ないます。含まれる項目は次のとおりです。

②SAFE ON/OFF(セーフオン / オフ)

リコール対象から除外するチャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

③パラメーターマトリクスグリッド

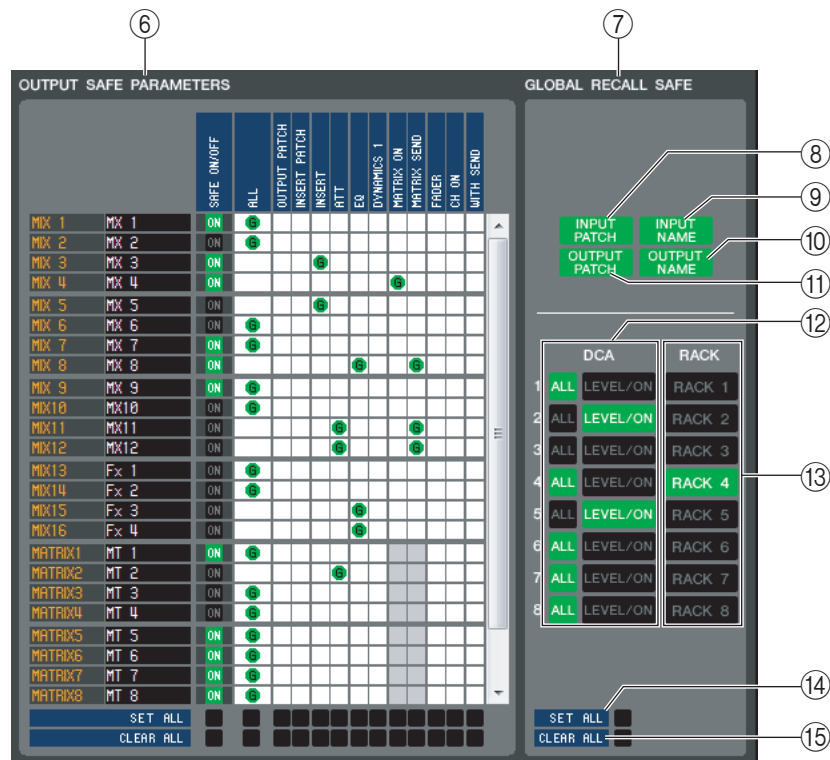
リコール対象から除外するパラメーターを選びます。ALL ボタンがオンのときは、すべてのパラメーターが除外されます。

④SET ALL(セットオール)

すべてのインプットチャンネルおよび ST IN チャンネル、または該当するパラメーターのボタンをすべてオンに切り替えます。

⑤CLEAR ALL(クリアーオール)

すべてのインプットチャンネルおよび ST IN チャンネル、または該当するパラメーターのボタンをすべてオフに切り替えます



⑥ OUTPUT SAFE PARAMETERS(アウトプットセーフパラメーターズ)

アウトプット系チャンネルのリコールセーフ機能の一括表示 / 設定変更を行ないます。含まれる項目はインプットセーフパラメーターズ (①) と共通です。

⑦ GLOBAL RECALL SAFE(グローバルリコールセーフ)

パッチ、DCA グループ、ラックのリコールセーフ機能の表示 / 設定変更を行ないます。

⑧ INPUT PATCH

INPUT PATCH をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑨ INPUT NAME

インプット系チャンネルのチャンネル名をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑩ OUTPUT NAME

アウトプット系チャンネルのチャンネル名をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑪ OUTPUT PATCH

OUTPUT PATCH をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑫ DCA

DCA グループをリコール対象から除外するボタンです。ALL ボタンがオンのときは LEVEL、ON、DCA グループ名が除外され、LEVEL/ON ボタンがオンのときは LEVEL と ON が除外されます。

⑬ RACK

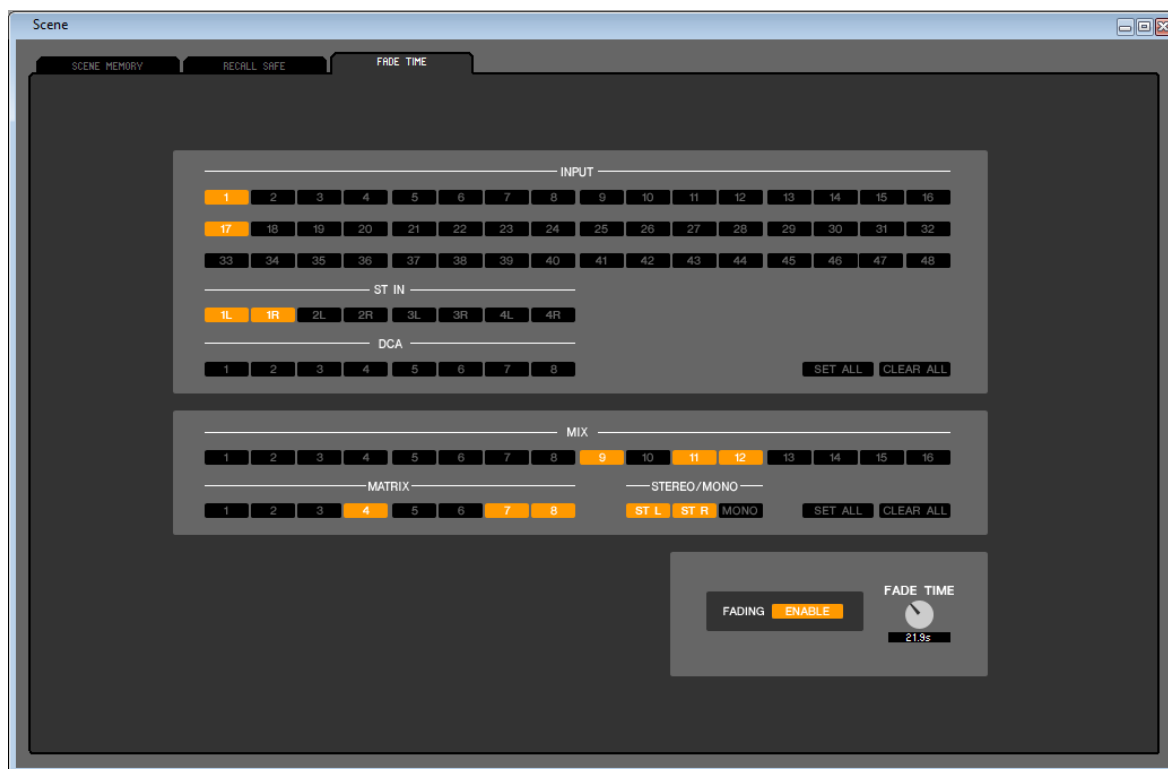
RACK をリコール対象から除外するオン / オフボタンとして機能します。

⑭ SET ALL(セットオール)

8 ~ 13 のパラメーターのボタンをすべてオンに切り替えます。

⑮ CLEAR ALL(クリアオール)

8 ~ 13 のパラメーターのボタンをすべてオフに切り替えます。



シーンをリコールしたときに、フェーダーやパンが新しい値に到達するまでの時間を調節するフェード機能に関する設定を行います。フェード機能の設定はシーンごとに独立していますので、設定したいシーンをリコールしてから操作してください。

① INPUT CHANNEL FADING ENABLE(インプットチャンネルフェーディングイネーブル)

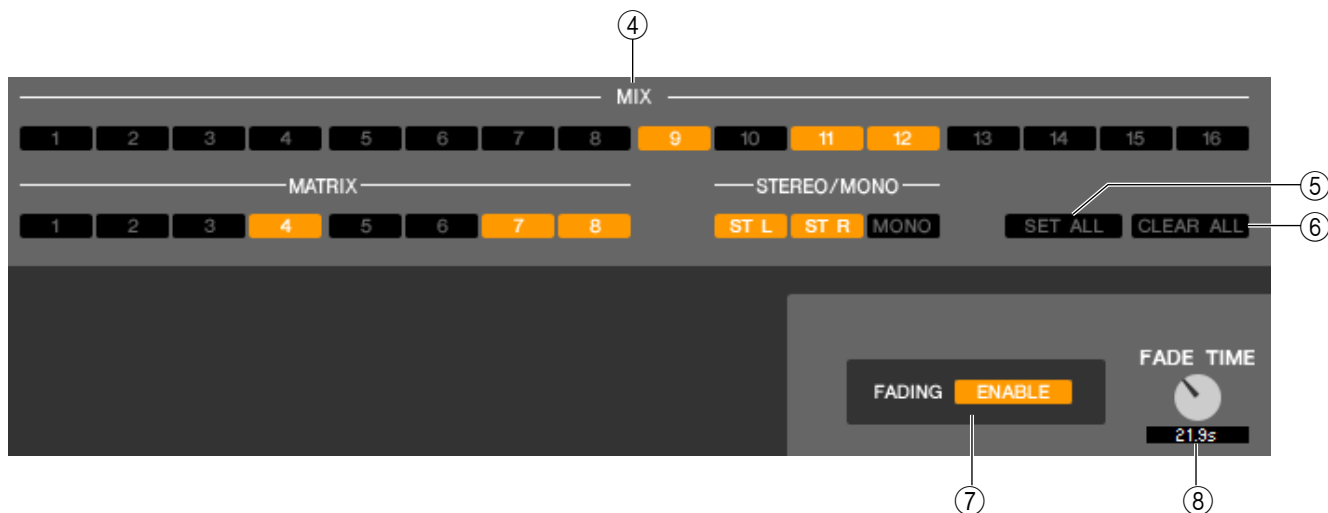
リコール対象から除外するインプット系チャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

② SET ALL(セットオール)

すべてのインプット系チャンネルのボタンをオンに切り替えます。

③ CLEAR ALL(クリアーオール)

すべてのインプット系チャンネルのボタンをオフに切り替えます。



④ **OUTPUT CHANNEL FADING ENABLE(アウトプットチャンネルフェーディングイネーブル)**

リコール対象から除外するアウトプット系チャンネルを選ぶオン / オフボタンとして機能します。

⑤ **SET ALL(セットオール)**

すべてのアウトプット系チャンネルのボタンをオンに切り替えます。

⑥ **CLEAR ALL(クリアーオール)**

すべてのアウトプット系チャンネルのボタンをオフに切り替えます。

⑦ **FADING ENABLE(フェーディングイネーブル)**

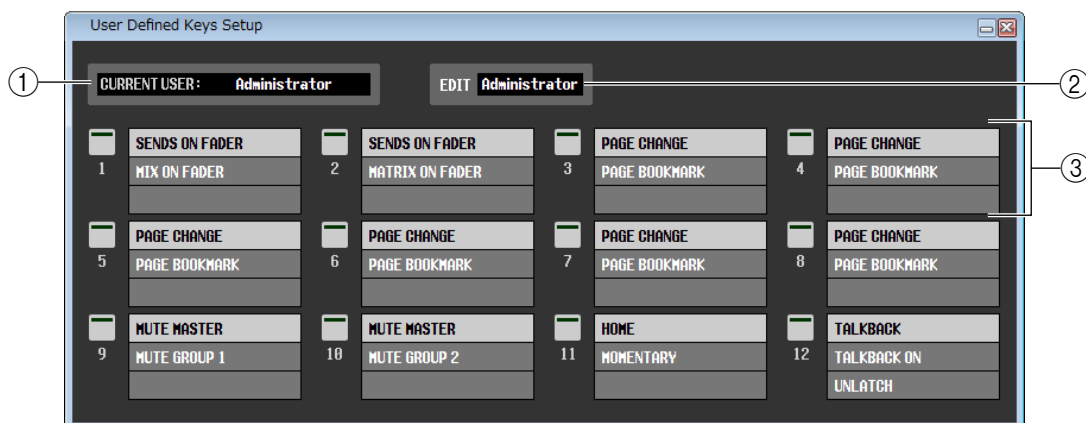
現在のシーンでフェーダーのフェード機能の有効 / 無効を切り替えます。

⑧ **FADE TIME(フェードタイム)**

画面上のノブをドラッグして、フェードタイムを調節します。現在の値は、すぐ下の数値ボックスで確認できます。

User Defined Keys Setup ウィンドウ

User Defined キーに割り当てる機能やパラメーターを設定します。



NOTE INPUT CH 33 ~ 48 のパラメーターは、オフライン編集で System Setup ダイアログボックスで M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているとき、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示 / 編集可能です。

① CURRENT USER

M7CL 本体に現在ログインしているユーザー名を表示します。M7CL 本体と一度も同期を行っていない状態では Administrator と表示されます。

② EDIT

ユーザー定義キーの編集対象となるユーザーを表示 / 選択します。ここで選択できるユーザーは Administrator、Guest、Ext.User の 3 種類です。

Ext.User は、USB メモリーに保存されたユーザー認証キーで M7CL 本体に現在ログインしているユーザーです。M7CL 本体と同期しているときのみ選択できます。

NOTE Ext.User のユーザー定義キー設定は、セッションファイルに保存されません。

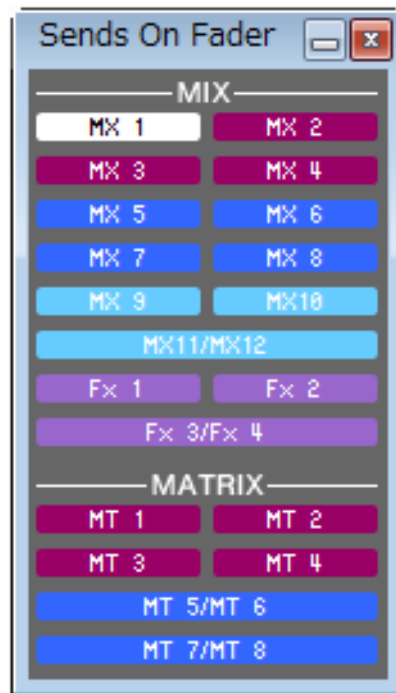
③ 機能名

各 User Defined キーに設定する機能やパラメーターを選択します。

各 User Defined キーをクリックすると、Parameter List ダイアログボックスが開きます。

設定できるパラメーターの詳細については、「M7CL Version3 取扱説明書」をご参照ください。

Sends On Fader ウィンドウ



SENDS ON FADER モードとはフェーダーを使って MIX/MATRIX バスへのセンドレベルを調節するモードです。このモードを使えば、すべてのインプット系チャンネルから特定の MIX/MATRIX バスに送られる信号を操作できます。

モードのオン / オフは Master ウィンドウの SENDS ON FADER ボタンで操作します。

このウィンドウを表示するには以下の方法があります。

- [Windows] メニューから [Sends On Fader] を選択する
- Master ウィンドウの SENDS ON FADER ボタンをクリックする

SENDS ON FADER モードでは Overview ウィンドウの [ON] ボタンとフェーダーの色と機能が変化します。

[ON] ボタン	センド先の色	センドがオン
	灰色	センドがオフ
フェーダー	センド先の色	バスに音が送出される
	灰色	バスに音が送出されない

Sends On Fader ウィンドウでセンドレベルを調節する MIX/MATRIX バスのボタンをクリックしたあと、インプット系チャンネルが表示されている Overview ウィンドウの [ON] ボタンとフェーダーでセンドのオン / オフとセンドレベルを調節します。

NOTE MATRIX バスへのセンドの場合は、インプット系チャンネルだけでなく、MIX チャンネルおよび STEREO/MONO チャンネルも SEND ON FADER モードの対象となります。

Output Port ウィンドウ

Output Port ウィンドウでは、出力ポートごとに信号の送り元となるチャンネルを割り当てたり、パラメーターの設定を行いません。



このウィンドウに含まれる項目は、次のとおりです。

① 出力ポート選択タブ

ウィンドウで操作する出力ポートを最大 8 ポート単位で切り替えます。

② DELAY SCALE フィールド

ディレイタイム設定ノブ (⑧) の下に表示されるディレイタイムの単位を選択します。

・METER(343.59 m/s)

気温が 20 °C (68°F) のときの音速 (343.59 m/s) ×ディレイタイム (秒) で計算したメートル単位の距離で、ディレイタイムを表示します。

・FEET(1 127.26 ft/s)

気温が 20 °C (68°F) のときの音速 (1 127.26 feet/s) ×ディレイタイム (秒) で計算したフィート単位の距離で、ディレイタイムを表示します。

・SAMPLE

サンプル単位でディレイタイムを表示します。M7CL が動作するサンプリング周波数を変更すると、それに応じてサンプル数も変化します。

・msec

ミリ秒単位でディレイタイムを表示します。このボタンがオンのときは、ディレイタイム (⑦) の上下に同じ値が表示されます。

③ 出力ポート

チャンネルを割り当てる出力ポートの種類と番号です。

④ チャンネル選択ボタン

出力ポートに割り当てるチャンネルを選ぶボタンです。

⑤ チャンネル名

出力ポートに割り当てられているチャンネルのチャンネル名が表示されます。

⑥ DELAY ボタン

出力ポートのディレイのオン / オフを切り替えます。

⑦ **ディレイタイム**

上にはミリ秒単位でディレイタイムの値が表示されます。

下には DELAY SCALE フィールド (②) で選択した単位でディレイタイムの値が表示されます。

▲ / ▼ ボタンをクリックすることで値を細かく設定できます。

⑧ **ディレイタイムノブ**

出力ポートのディレイタイムを設定するノブです。このノブをドラッグしてディレイタイムを設定します。

⑨ **φ (フェイズ) ボタン**

出力ポートに割り当てられた信号の位相を正相 (黒) または逆相 (橙色) に切り替えます。

⑩ **ATT ノブ**

出力ポートに割り当てられた信号のアッテネーション量を調節します。設定値を変更するには、画面上のノブをドラッグします。− 96 ~ + 24dB の範囲を 0.1 dB 単位で設定できます。現在の設定値は、ノブのすぐ下に表示されます。

⑪ **レベルメーター**

出力ポートに割り当てられた信号のレベルを表示するメーターです。

ショートカット

メニュー	動作	キー操作	
		Windows	Mac
File メニュー	新規セッションを作成する	Ctrl+N	⌘ +N
	保存されているセッションを開く	Ctrl+O	⌘ +O
	開いているセッションを保存する	Ctrl+S	⌘ +S
Edit メニュー	Undo	Ctrl+Z	⌘ +Z
	Redo	Ctrl+Y	⌘ +Y
Windows メニュー	選択されているウィンドウを閉じる	Ctrl+W	⌘ +W
	すべてのウィンドウを閉じる	Ctrl+Alt+W	⌘ +Option+W
	ウィンドウを並べて表示	Ctrl+T	⌘ +T
	ウィンドウを重ねて表示	Ctrl+Alt+T	⌘ +Option+T
	Master ウィンドウを開く	Ctrl+1	⌘ +1
	Sends On Fader ウィンドウを開く	Ctrl+2	⌘ +2
	INPUT CH(CH1-16) ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+1	⌘ +Option+1
	INPUT CH(CH17-32) ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+2	⌘ +Option+2
	INPUT CH(CH33-48) ウィンドウを開く (*)	Ctrl+Alt+3	⌘ +Option+3
	ST IN ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+4	⌘ +Option+4
	MIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+5	⌘ +Option+5
	MATRIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+6	⌘ +Option+6
	STEREO/MONO ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+7	⌘ +Option+7
	MATRIX ウィンドウを開く	Ctrl+Alt+8	⌘ +Option+8 (**)
	Selected Channel ウィンドウを開く	Ctrl+3	⌘ +3
	Library ウィンドウを開く	Ctrl+4	⌘ +4
	Patch Editor ウィンドウを開く	Ctrl+5	⌘ +5
	Rack ウィンドウを開く	Ctrl+6	⌘ +6
	Meter ウィンドウを開く	Ctrl+7	⌘ +7
	Group/Link ウィンドウを開く	Ctrl+8	⌘ +8
	Scene ウィンドウを開く	Ctrl+9	⌘ +9
Synchronization メニュー	Re-Synchronize ウィンドウを開く	Ctrl+0	⌘ +0
Library ウィンドウ / Scene ウィンドウの SCENE MEMORY ページ	連続した複数の項目 (メモリー) を選択する	Shift + クリック	⌘ + クリック
	離れて表示されている複数のメモリーを選択する	Ctrl + クリック	⌘ + クリック
	同一セクション内のすべてのメモリーを選択する	Ctrl+A	⌘ +A

(*) オフライン編集で System Setup 画面の Model Select で M7CL-48 または M7CL-48ES を選択しているときか、M7CL-48 または M7CL-48ES とオンラインで編集しているときのみ表示可能です。

(**) 「ユニバーサルアクセスのズーム機能」のショートカット設定の割り当てを変更 / 解除するか、テンキーの <8> キーを使用してください。

索引

B

BYPASS61

C

CLEAR50,72
CLEAR ALL51,68,73 ~ 76
CLOSE48,70
COMMENT71
Ctrl(#)+Shift+ クリック11
Ctrl(#)+ クリック11

D

DCA ウィンドウ27
DCA グループ66
DCA フェーダー27
DIRECT OUTPUT PATCH ページ53

E

EFFECT TYPE61
EFFECT モジュール60
EQ FLAT59
EQ フラット59

F

FADE TIME ページ75
FADING ENABLE75
FILE49,71
FROM MIX,ST/MONO43

G

GEQ モジュール57
GEQ グラフ59
GEQ フェーダー59
GROUP/Link ウィンドウ
CHANNEL LINK ページ68
DCA GROUP ASSIGN ページ66
MUTE GROUP ASSIGN ページ67
Group/Link ウィンドウ66

I

INPUT CH ウィンドウ15
INPUT INSERT PATCH ページ52
INPUT PATCH ページ51
INTERNAL DATA49,72

L

Library ウィンドウ48

M

Master ウィンドウ12
MATRIX Bus Setup16
MATRIX SEND25
MATRIX ウィンドウ23
Meter ウィンドウ64
MIX BALANCE62
MIX Bus Setup16
MIX/CH/ST IN24
MONO46
MUTE MASTER67
MUTE SAFE ON67

O

Offline Edit11
OPEN48,70
OUTPUT INSERT PATCH ページ53
OUTPUT PATCH ページ52
Output Port ウィンドウ79

P

Patch Editor ウィンドウ51
DIRECT OUTPUT PATCH
ページ53
INPUT INSERT PATCH
ページ52
INPUT PATCH ページ51
OUTPUT INSERT PATCH
ページ53
OUTPUT PATCH ページ52
PATCH LIST ページ54
PATCH LIST ページ54
PLAY/REC62
PROTECT71,72

R

Rack ウィンドウ55
RECALL50,72
RECALL SAFE ページ73
Redo9
Re-synchronize11

S

SAVE48,70
SAVE AS48,70
SCENE MEMORY ページ70
Scene ウィンドウ70
FADE TIME ページ75
RECALL SAFE ページ73
SCENE MEMORY ページ70
Selected Channel ウィンドウ28

COMPANDER35
COMPRESSOR, EXPANDER34
DCA GROUP/MUTE GROUP38
DE-ESSER36
EQUALIZER32,41
FROM MIX,ST/MONO43
GATE/DUCKING33
HA GAIN/ ϕ /HPF30
INSERT37
MATRIX チャンネル43
MIX チャンネル39
RECALL SAFE/MUTE SAFE38
STEREO/MONO チャンネル46
To MATRIX39
TO MIX/TO MATRIX SEND30
TO STEREO/MONO31,40
インプット系チャンネル28
チャンネル選択29,46
パン / フェーダー42
フェーダー38,45,47
SET ALL73 ~ 76
ST IN ウィンドウ19
STEREO/MONO ウィンドウ25
STORE50,72
Synchronize11

T

TEMPO62
TIME STAMP71
TO MIX/TO MATRIX SEND30

U

UNDO9,50,72
User Defined Keys Setup
ウィンドウ77
USER KEY4

あ

アンドウ72

い

インターナルデータ49,72

え

エフェクト
GR メーター62
SOLO(ソロ)62
エフェクトタイプ61
エフェクトパラメーター62

く	
クリア	72
クリアオール	51、68、73 ~ 76

こ	
コメント	71

し	
ショートカット	81

す	
ストア	72

せ	
セッション	6
セットアップ	
コンソール	3
システム	2
セットオール	73 ~ 76

た	
タイムスタンプ	71
タブ	10

て	
テンポ	62

と	
同期	11

な	
名前を変えて保存	48

は	
バイパス	61

ふ	
ファイルを閉じる	48、70
ファイルを開く	48、70
フェード	76
フェード機能の有効 / 無効	76
プロテクト	72

へ	
別名で保存	70

ほ	
保存	48、70

み	
ミックスバランス	62

ミュートグループ	67
ミュートセーフオン / オフ	67
ミュートマスター	67

ゆ	
ユーザーキー	4

り	
リコール	72
リコールセーフ	73